

Cisco Room Kit EQX

設置 ガイド: フロア スタンド オプション



壁面取り付け



フロアスタンド



壁面スタンド

Cisco Room Kit EQX



Cisco Room Kit EQX システムは、ビデオ会議室の柔軟性を高くし、ローカル会議にも汎用的に対応できるように設計されています。

Cisco Room Kit EQX は、Codec EQ と Quad Camera をコアとするオールインワンバンドルです。独自の外部画面を持ち込み、ルーム会議ハードウェアコンポーネントのオールインワンキットと統合できる柔軟性があります。

設置オプションは、フロア スタンド、ホイール 低音部、壁面マウントの 3 つの取り付け方法から選択することができます。

このデバイスは、高度なマルチカメラシナリオをサポートし、スピーカートラッキング、インテリジェントなプレゼンターおよび対象者ビューを提供します。内蔵マイクは、最先端のスピーカートラッキングソリューション対応です。

デバイスの内蔵スピーカーシステムは、16 チャンネルの増幅器で駆動する 6 つのメインのスピーカーとバススピーカーで構成されています。

内蔵マイクはスピーカートラッキング専用であるため、音声収録には外部マイクを接続する必要があります。アナログ、USB、または AES67 互換のイーサネット (IP) マイク (Cisco Table Microphone (アナログ) や Cisco Table Microphone Pro (イーサネット) など) を選択できます。完全な外部 DSP 制御マイクソリューションをインストールすることもできます。複数のデジタルマイクを使用するには、PoE 互換スイッチが必要です。

詳細については、オンラインで入手可能な Cisco Room Kit EQX データシートを参照してください。

目次

設置する前に.....	2
パッケージ.....	3
ネジと工具.....	4
1. フロアスタンドフレームを組み立てる.....	5
2. 下部バーと運搬梁を追加する.....	11
3. モジュールの取り付け.....	16
4. コーデックと増幅器を挿入する.....	23
ケーブル接続について.....	24
5. 電源ストリップと PSU を取り付ける.....	26
6. 定格ラベルを貼付する.....	29
7. 低音部を取り付ける.....	30
8. ファンモジュールを取り付ける.....	32
9. 上部ブラケットを取り付ける.....	35
10. アンテナブラケットを取り付ける.....	36
11. カメラを挿入する.....	38
12. アンテナを取り付ける.....	41
13. 画面ケーブルを接続する.....	42
14. 電源ケーブルとネットワークケーブルを接続する.....	43
15. マイクを接続する.....	44
16. Room Navigator とプレゼンテーションケーブルを接続する.....	46
17. 背面パネルを取り付ける.....	47
18. スピーカーを取り付ける.....	53
19. 配線をまとめて電源をチェックする.....	54
20. スピーカーグリルを取り付ける.....	55
21. 下部グリルを取り付ける.....	60
22. サイドパネルを取り付ける.....	64
23. 左画面を準備する.....	65
24. VESA レールの位置を調整する.....	68
画面のポップイン/ポップアウト機構.....	69
25. 左画面を取り付ける.....	70
26. 右画面を取り付ける.....	73
27. 画面を微調整する.....	75
28. スタンドカバーを取り付ける.....	76
29. 仕上げ.....	78

設置する前に

設置を開始する前に会議室の準備ガイドラインを読むことが重要です。ガイドラインはオンラインで利用できます。

設置中は、「設置ガイド」(このガイド)と配線図の両方が必要です。配線図は、製品と同梱されて配送されます。

新しいバージョンのドキュメントがオンラインにある場合は、それを参照することが推奨されます。1 ページ目にバージョン番号が記載されています。フォーマットが 78-xxxxxx-yyyy の場合は、yyyy が Bluetooth 番号を示し、Dxxxxx.yy の場合は、yy がバージョン番号を示しています。

ダウンロード情報

会議室の準備ガイドライン、配線図、および設置ガイドは以下のサイトからダウンロードできます。

<https://www.cisco.com/go/room-kit-eqx-installation>



この Web ページには、Cisco Room Series のすべての製品の設置ガイドが含まれています。Cisco Room Kit EQX を検索します。

指示された担当者による設置

Room Kit EQX システムのサイズと質量により、資格を持つ担当者が設置手順に従って設置する必要があります。

製品の最大重量は、256 kg (565 lb) までで、これには、画面も含まれます。

電源

シスココンポーネントに外部マルチソケット延長コードを使用しないでください。付属の電源ストリップを使用してください。

温度

Room Kit EQX を直射日光の当たる場所に設置しないでください。

Room Kit EQX の内部からもいくらかの熱が発生します。画面の動作定格は、少なくとも最大周囲温度 40°C (104°F) である必要があります。

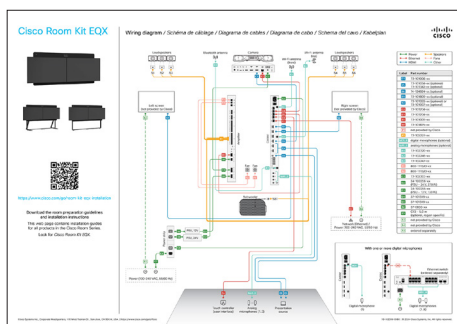
* 画面あたりの許容最大重量は 42kg (93lb) です。

梱包

複数の箱が入ったパレットを受け取りました。シスコが提供していない画面を除き、これらの箱には、Room Kit EQX の壁面取り付けバージョンを設置するために必要な部品が含まれています。

システムを設置するときは、A のマークが付いた箱に入っている取り付けキットから始めます。

完全な配線図と一部の箱に関する情報は、パレットのオーバーパックのふたの下に記載されています。



必要な追加コンポーネント

- 2つの画面

画面要件の詳細と推奨画面については、オンラインの『[会議室の準備ガイドライン](#)』を参照してください。

- マイク (注文に Cisco のマイクが含まれていない場合のみ)。

- イーサネットスイッチ (Cisco Table Microphone Pro などの複数のデジタルマイクがある場合のみ)。

『[シスコ ビデオコラボレーション デバイスと一緒に使用する Cisco CBS250、CBS350 および C1200 スイッチの構成](#)』のオンライン テクニカル ペーパーで説明されているスイッチを推奨します。

	パレット上の箱	このガイドで使用される参考資料
フロアスタンドキット ¹		A1, A2
中央モジュール ¹		B
ブラケットとその他のコンポーネントが入った箱を含む		Center kit
サイドモジュール1,2 ¹		C1, C2
Cisco Codec EQ		Codec
増幅器 (Cisco DNAM IV)		Amplifier
アクセサリキット 1		Acc kit 1
ラウドスピーカー		Loudspeakers

	パレット上の箱	このガイドで使用される参考資料
サブウーファー		Subwoofer
ファン		Fans
アクセサリキット 2		Acc kit 2
カメラ (Cisco Quad Camera)		Camera
Cisco Room Navigator		Navigator
グリル ¹		D
VESA ブラケット 1,2		VESA bracket 1, VESA bracket 2
Cisco Table Microphone Pro (オプション) ²		Table Mic Pro

¹ 箱には、図のような白いラベルがあり、パレットの箱を見つけやすいようになっています。

² Cisco Table Microphone Pro (最大 3 台) を注文した場合は、パレット上の個別の箱に入れて出荷されます。Cisco Table Microphone (最大 3 台) を注文した場合は、アクセサリキット 2 で出荷されます。

ネジと工具

推奨される工具と機器

- ・ 脚立
- ・ ドリル
 - ・ Torx T20 ビット
 - ・ 六角 4 mm ビット
 - ・ 壁面の素材に適したドリルビット
 - ・ 壁面の構造に適した壁の留め具 / アンカー
- ・ レーザーレベルおよび/または水準器
- ・ 巻き尺
- ・ 鉛筆

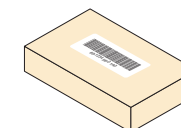
ネジ、ナット、スペーサ、および工具

ネジ、ナット、スペーサ、および工具は、大きな箱 **A1**、**Center kit**(**B** 内に配置)、**D** 内の小さな段ボール箱の中、および **Acc kit 2**の紙袋に入っています。

推奨事項:大きな箱のいずれかを開く場合は、最初にネジの箱を探し、ネジが必要なときに簡単に見つけられる場所に配置します。

このガイドの各手順には、その手順に必要なすべての部品が記載されたインベントリリストがあります。これらのリストには、ネジの数と種類、およびそれらが入っている箱も記載されています。

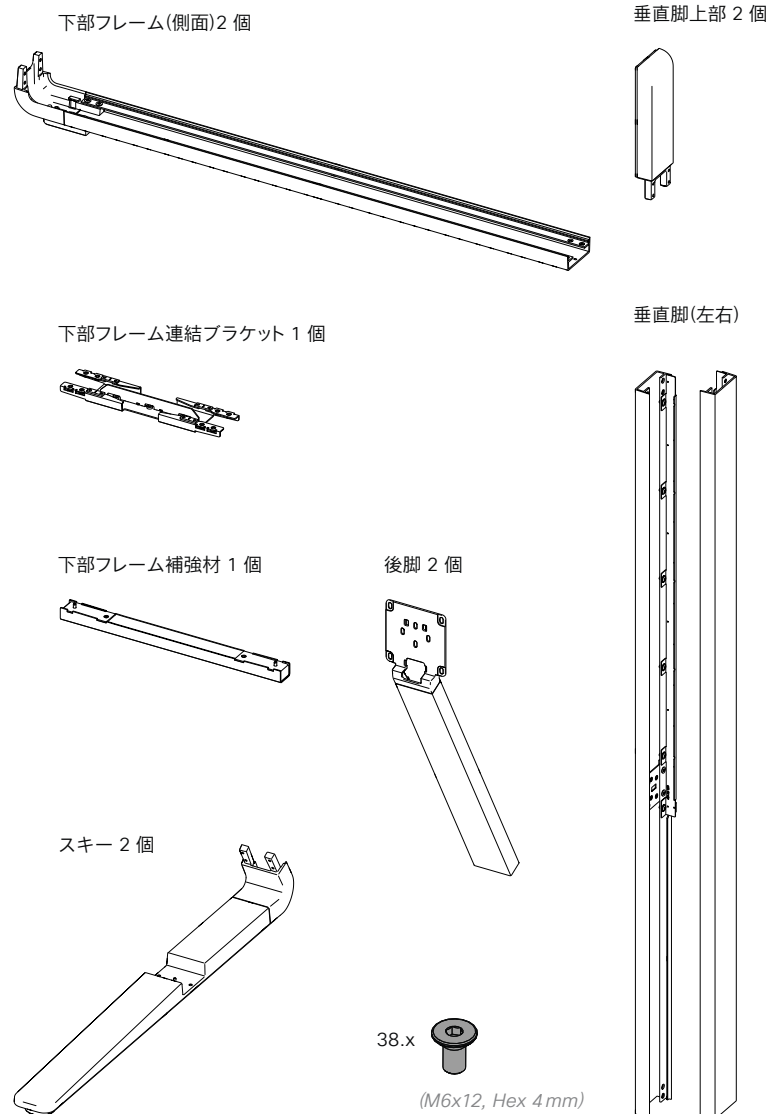
	A1 (1つの箱)	Center kit (1つの箱)	D (2つの箱)	Acc kit 2 (1つの紙袋)
M6x12, Hex 4 mm 	62.x			
M6x8, Hex 4 mm 	52x	8 個	8 個	
M4x8, Torx T20 	2x	21 個		4 個
M4x10, Torx T20 		12 個	70 個	
プラスチックワッシャー 			66 個	
スライドナット 	6 個			
 Hex 4 mm Torx T20	✓			



ネジの箱は小さく、白いバーコードステッカーが付いています。

1. フロアスタンドフレームの組み立て

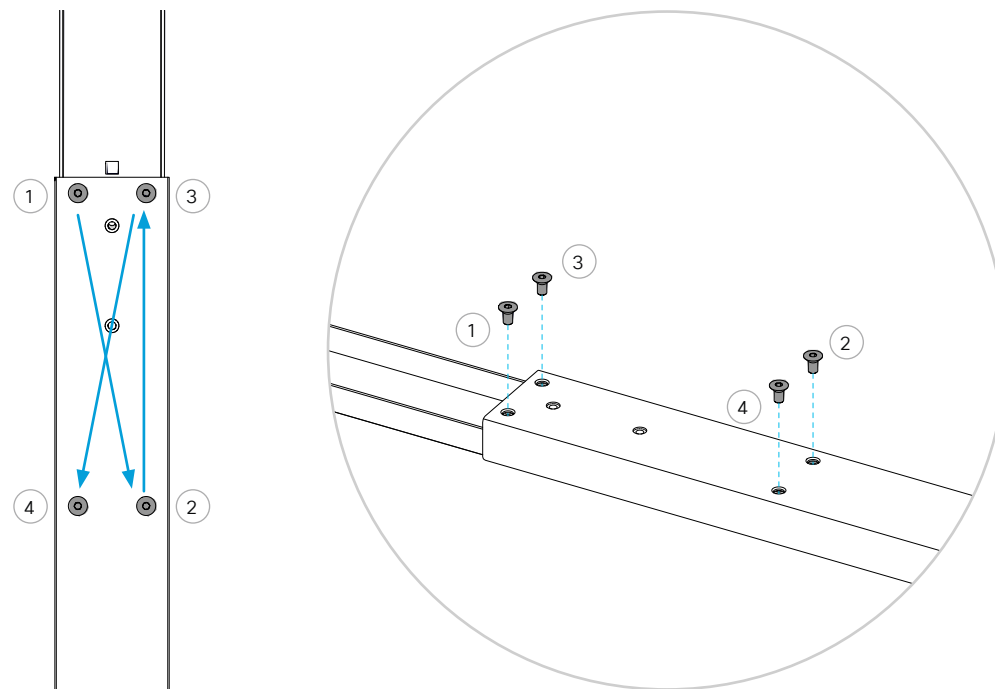
フロアスタンドフレームの部品 (ボックス:A1)



はじめる前に

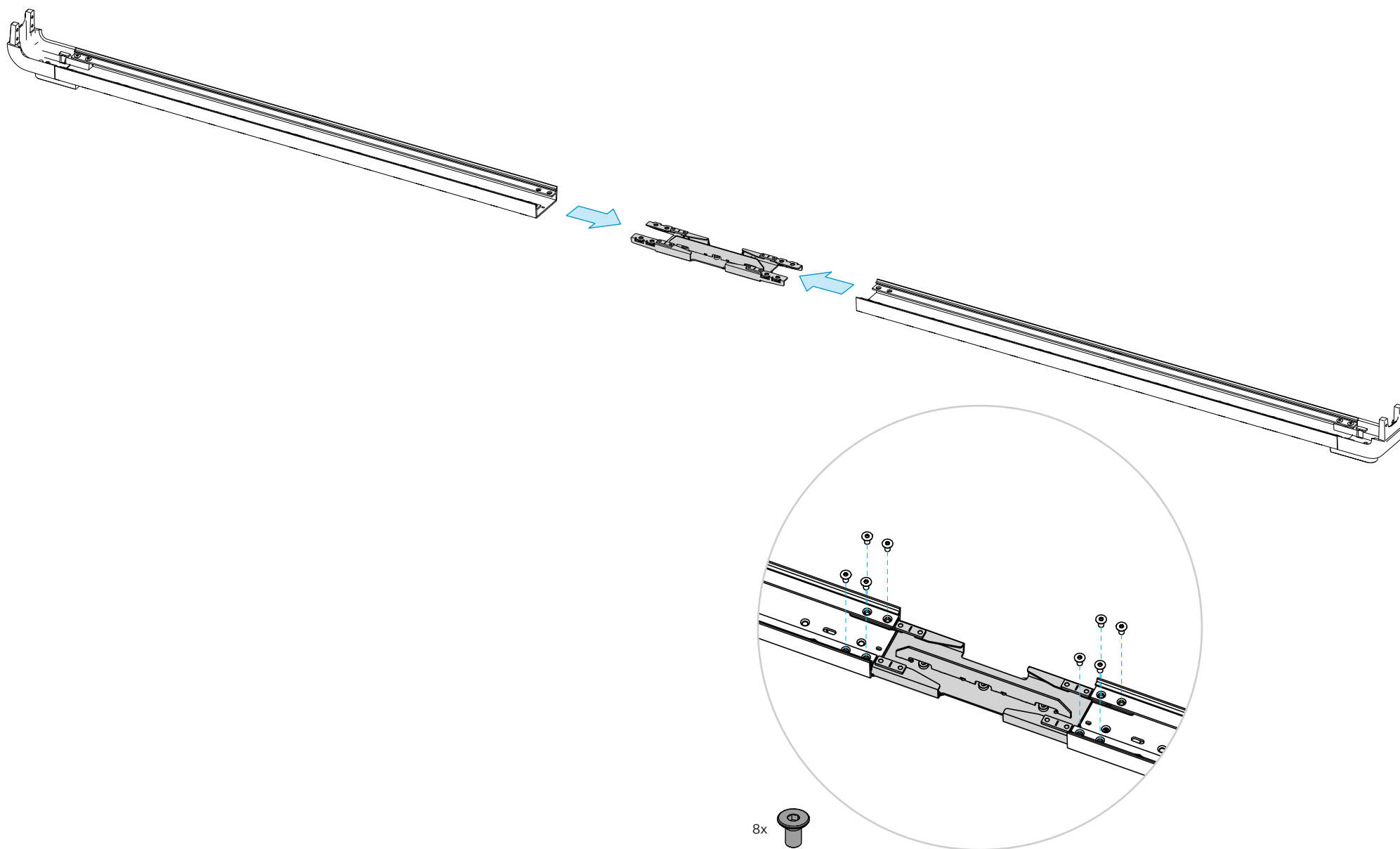
フロアスタンドを組み立てる際には、4本のネジで2つの部品を固定する箇所が多くあります。このような場合は、次のことを推奨します。

1. ここに示されている順序(ジグザグパターン)でネジを挿入しますが、締めません。
2. 同じ順序でネジを締めます。



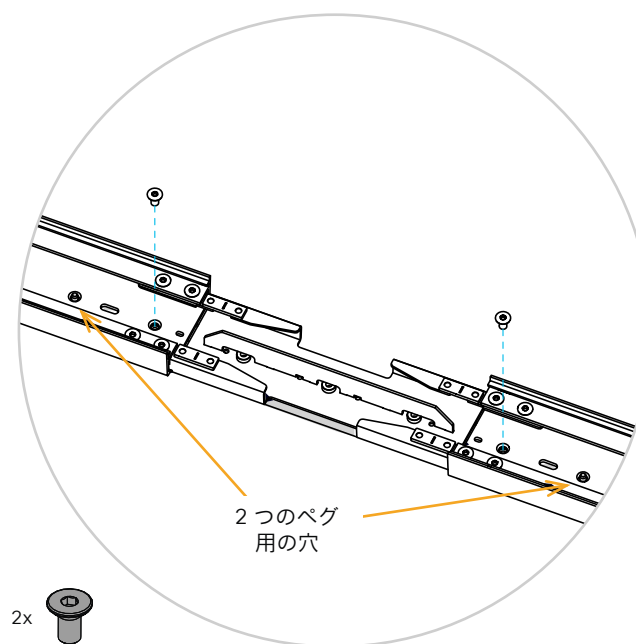
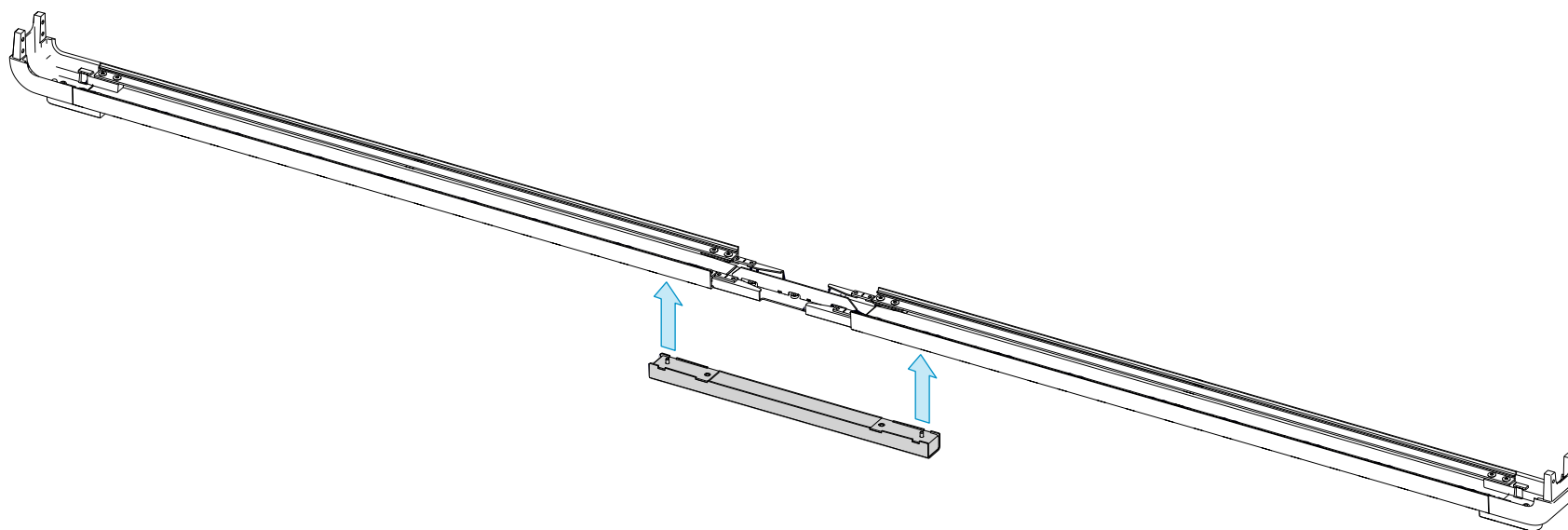
1.1. 下部フレーム部品を結合する

連結ブラケットと 8 本のネジ (M6x12, Hex 4 mm) を使用して、左右のフレーム部品を接続します。



1.2. 補強材の追加

補強材をフレームの下に配置し、2つのペグと位置合わせし、2本のネジ (M6x12, Hex 4mm) で固定します。

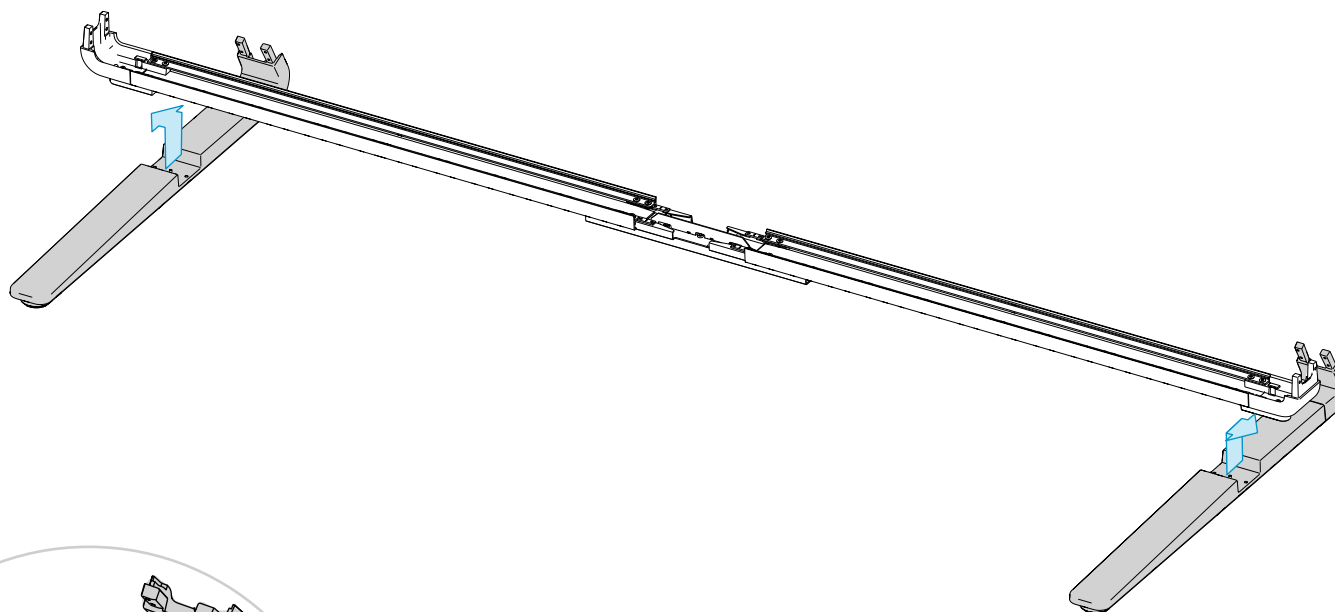


注: 下部フレームは、設計に基づき事前に張力を加えるようになっています。そのため、インストールのこの段階では、フルの長さで床に置くことはできません。中央部のみを置きます。

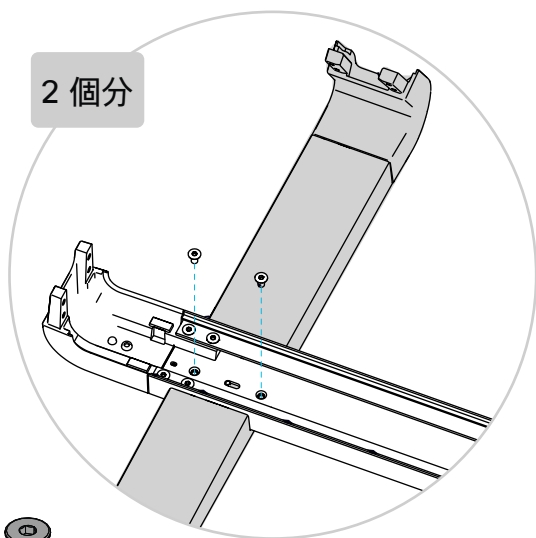
画面を取り付けたら、フレームを床に固定できます。

1.3. 下部フレームにスキー板を追加します。

2本のネジ (M6x12, Hex 4mm) で各スキー板を固定します。中央にガイドピンがあります。



2 個分

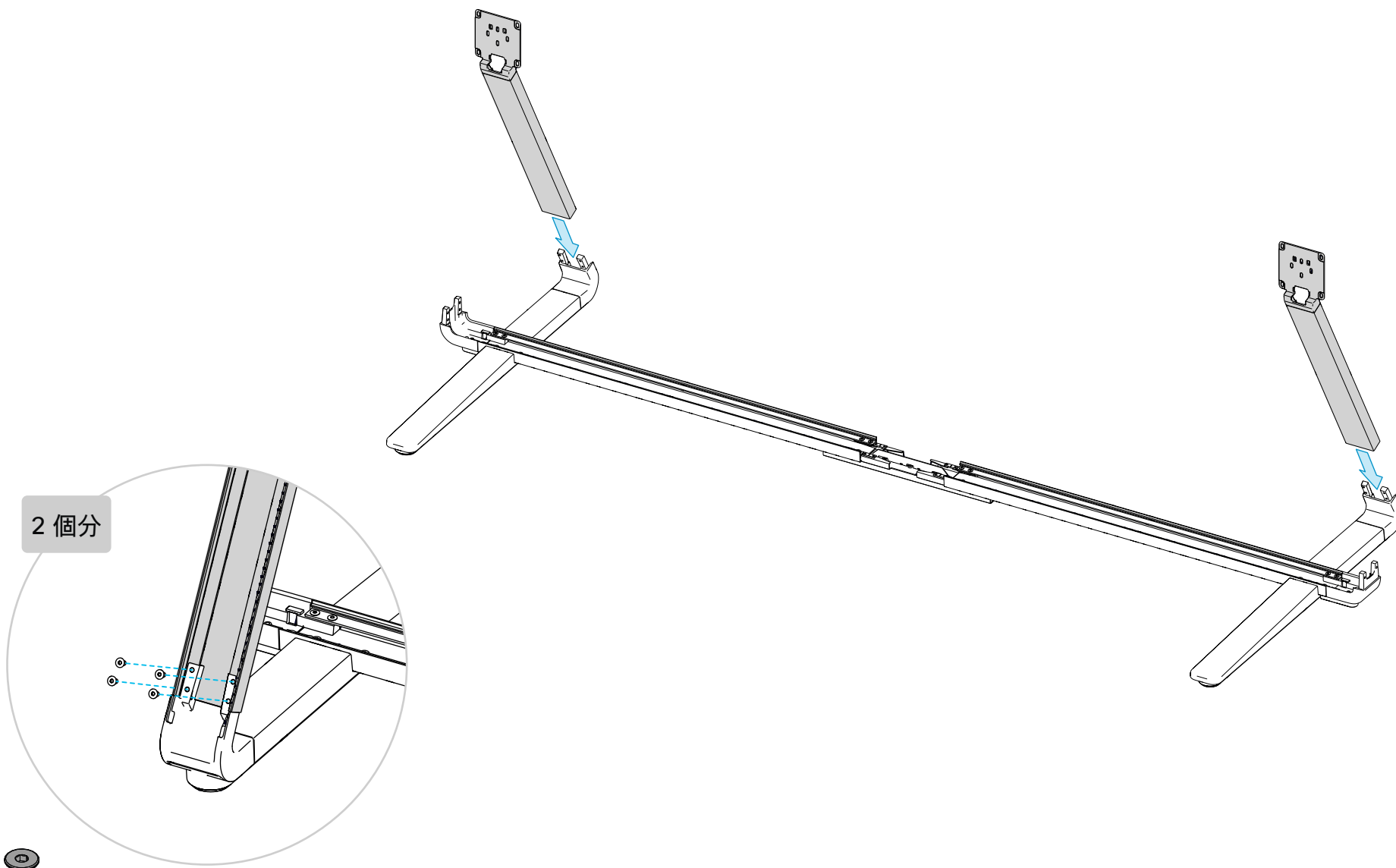


4 個



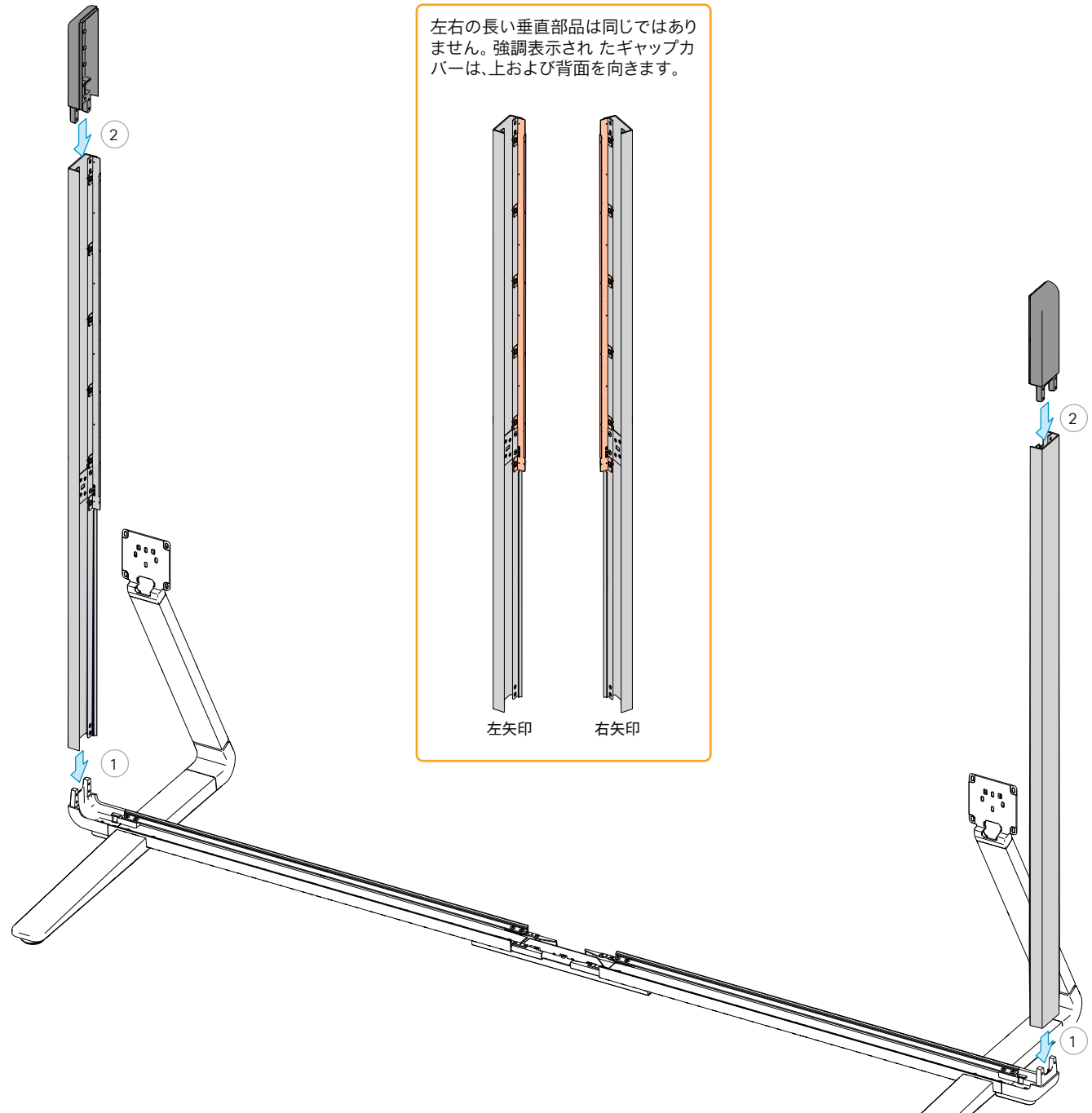
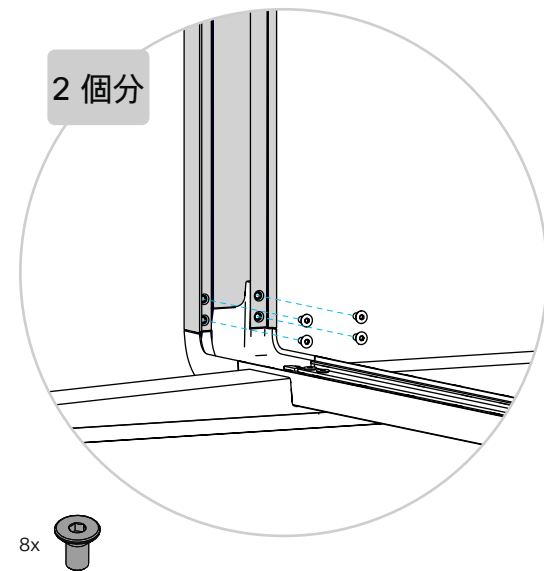
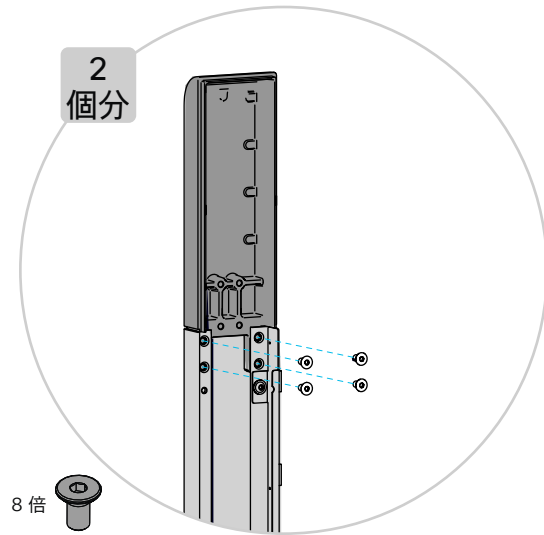
1.4. 後脚の取り付け

それぞれの脚を、背面から4本のネジ (M6x12, Hex 4mm) で固定します。



1.5. フレームに垂直支柱を追加する

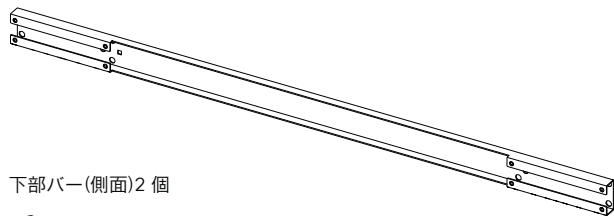
まず、長い垂直支柱をそれぞれ 4 本のネジ (M6x12, Hex 4mm) でフレームに接続し、上部の部品をそれぞれ 4 本のネジ (M6x12, Hex 4mm) で固定します。



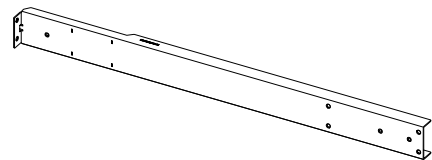
2. 下部バーと運搬梁を追加する

下部バーおよび運搬梁の部品 (ボックス:A1)

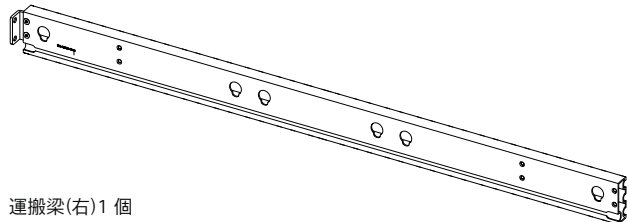
下部バー(中央)1 個



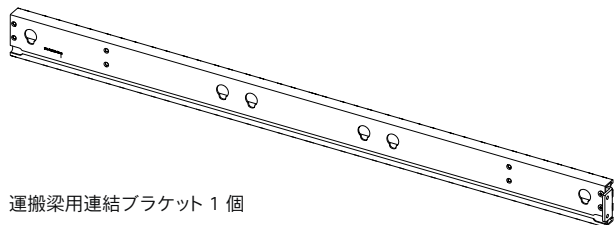
下部バー(側面)2 個



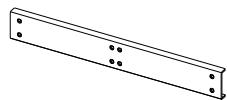
運搬梁(左)1 個



運搬梁(右)1 個



運搬梁用連結ブラケット 1 個



24 個



(M6x12, Hex 4mm)

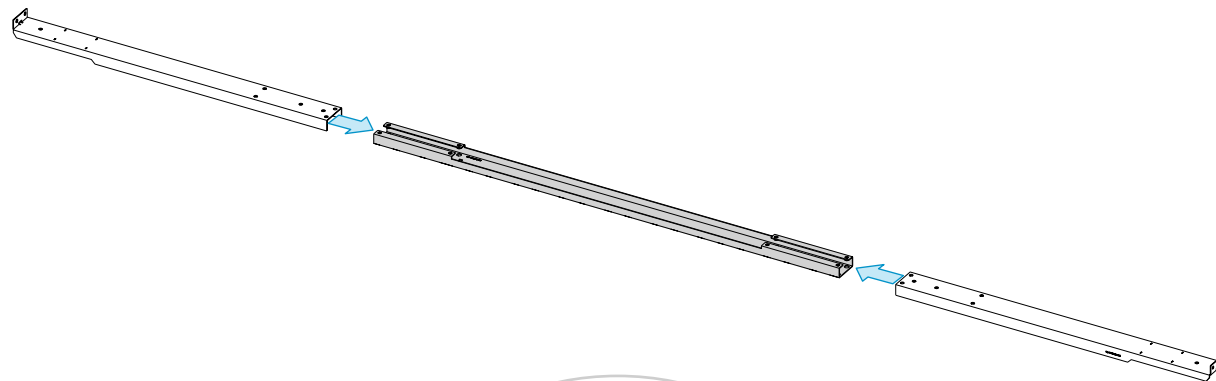
8 個



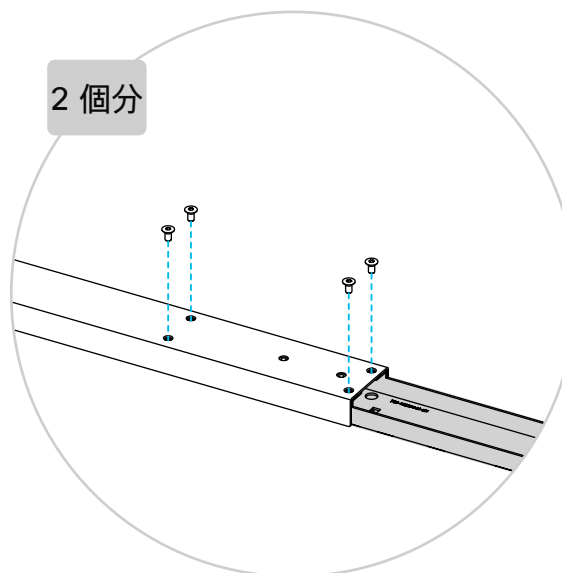
(M6x8, Hex 4mm)

2.1. 下部バーを組み立てる

側面部品を中央部品にスライドさせ、それぞれ 4 本のネジ (M6x12, Hex 4mm) で固定します。



2 個分

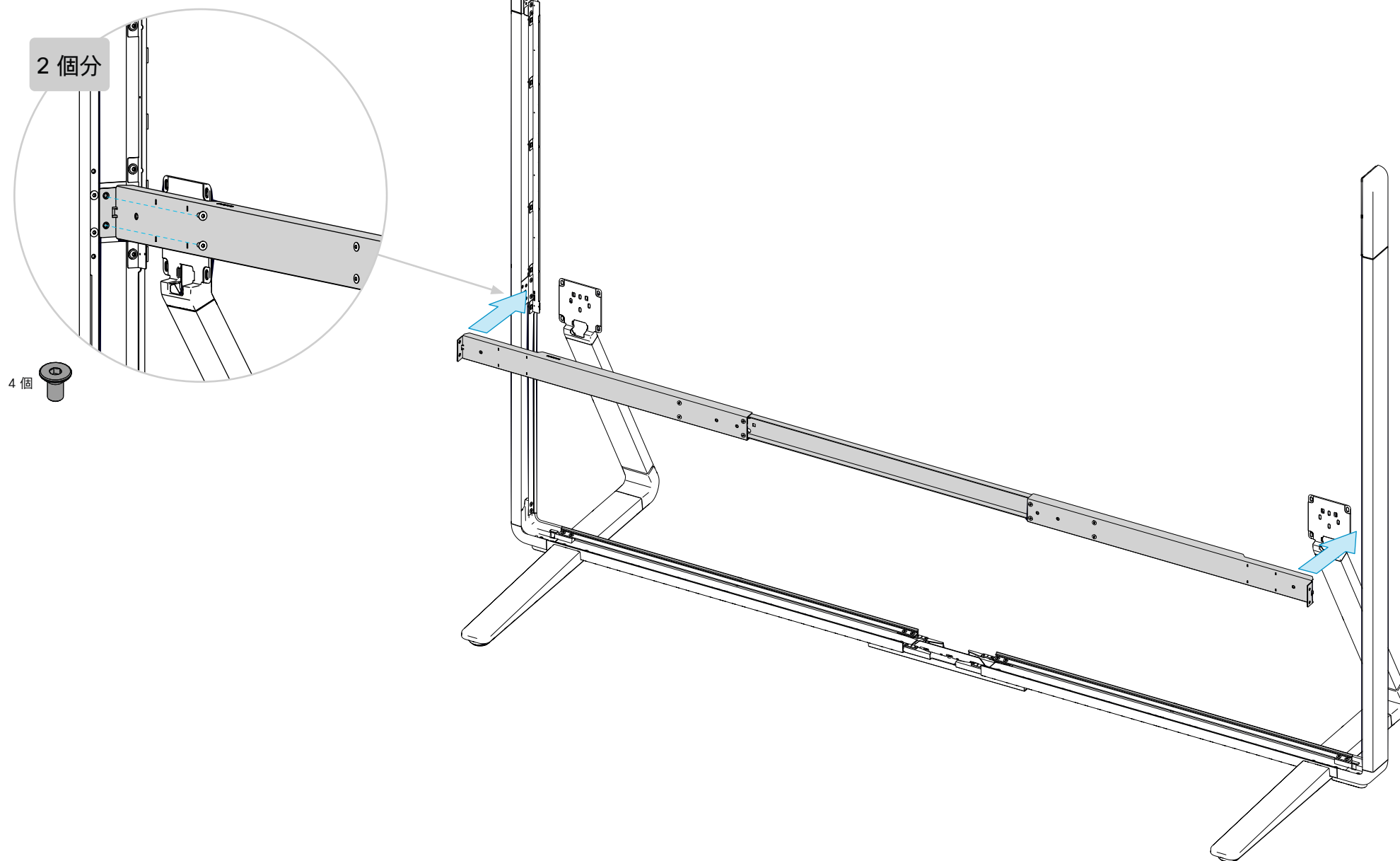


8 個



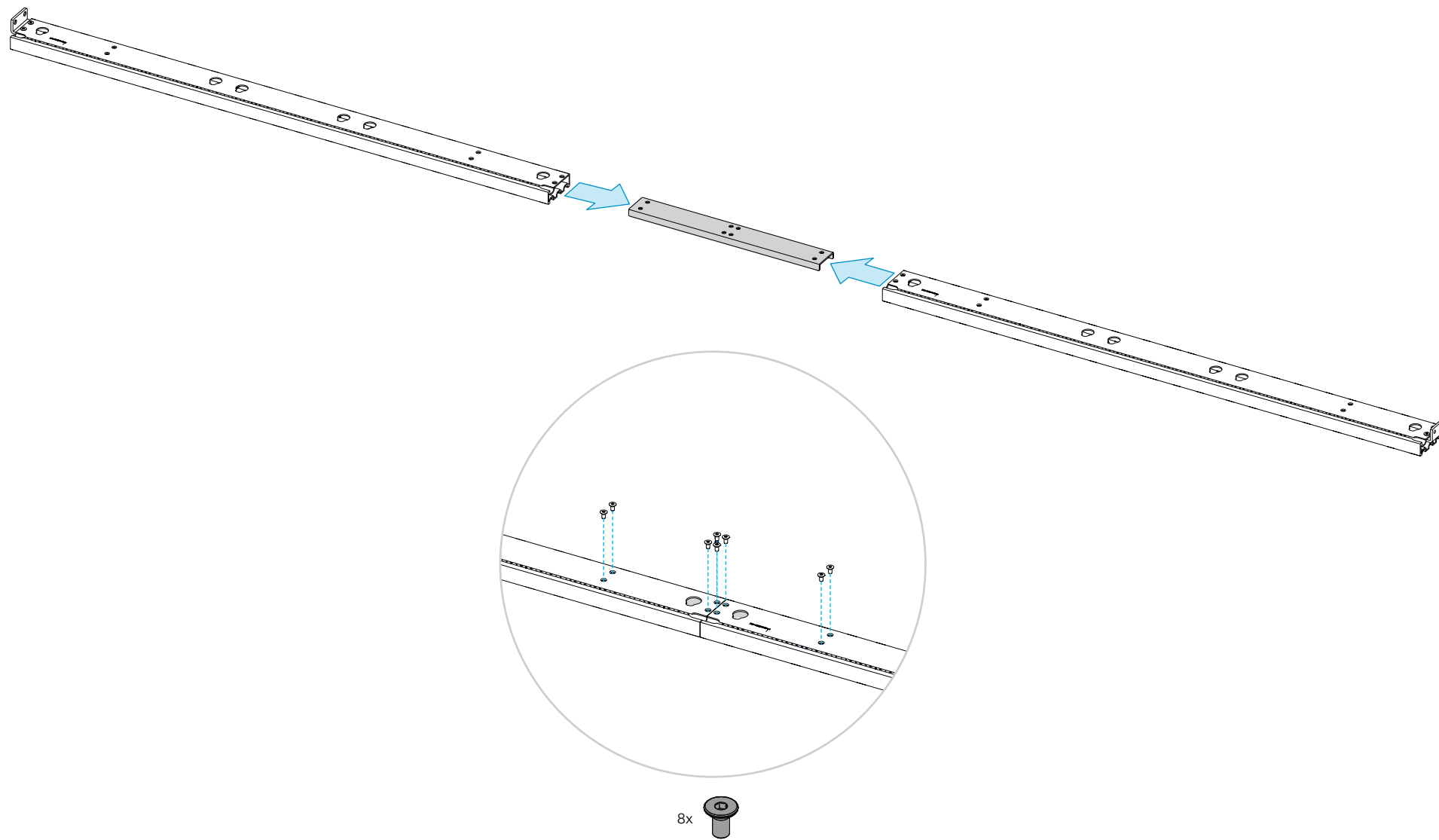
2.2. 下部バーをフレームに固定する

下部バーを両側の 2 本のネジ (M6x12, Hex 4 mm)
でフレームに固定します。



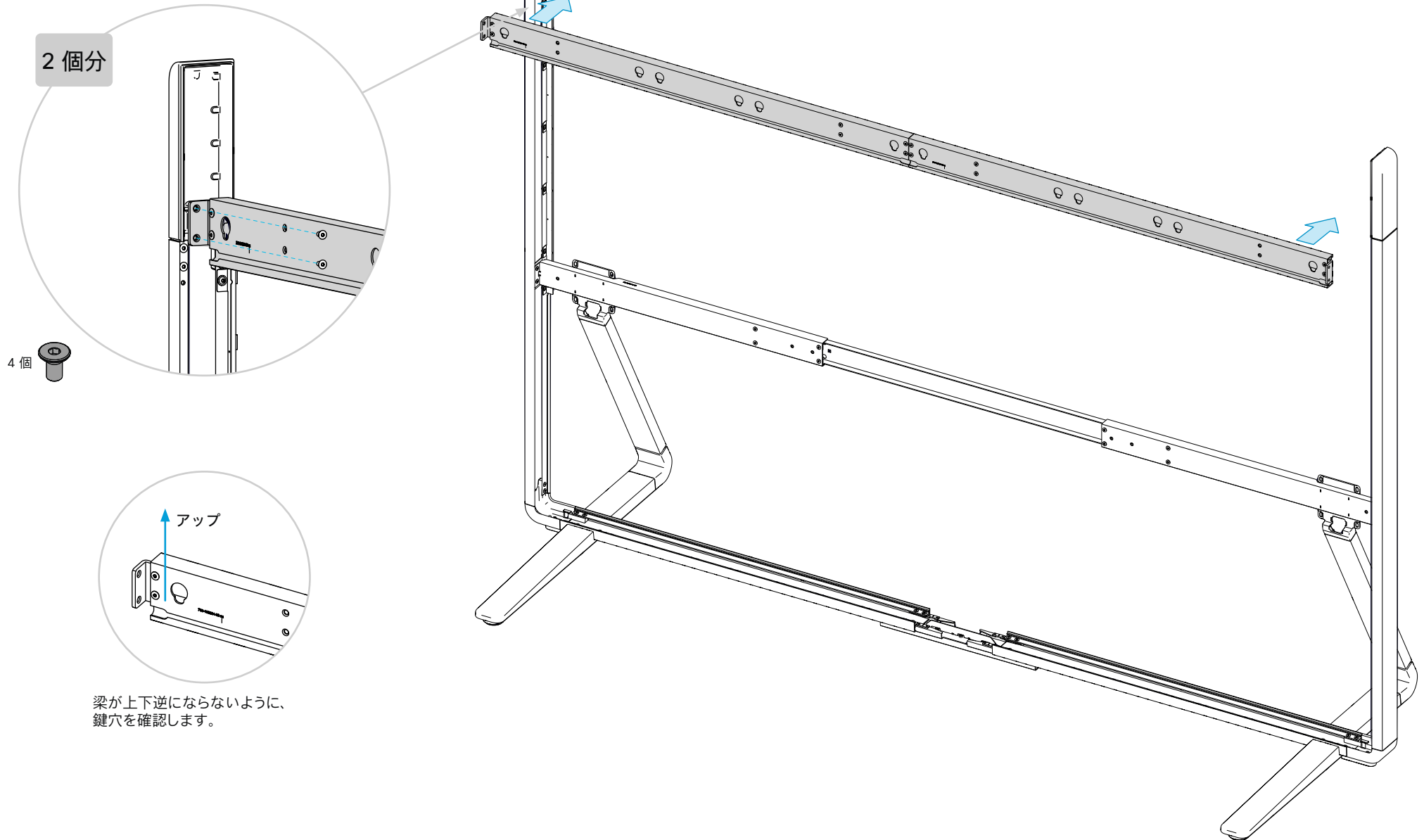
2.3. 運搬梁を組み立てる

連結ブラケットと 8 本のネジ (M6x12, Hex 4mm) を使用して、
運搬梁部品を接続します。



2.4. フレームに運搬梁を取り付ける

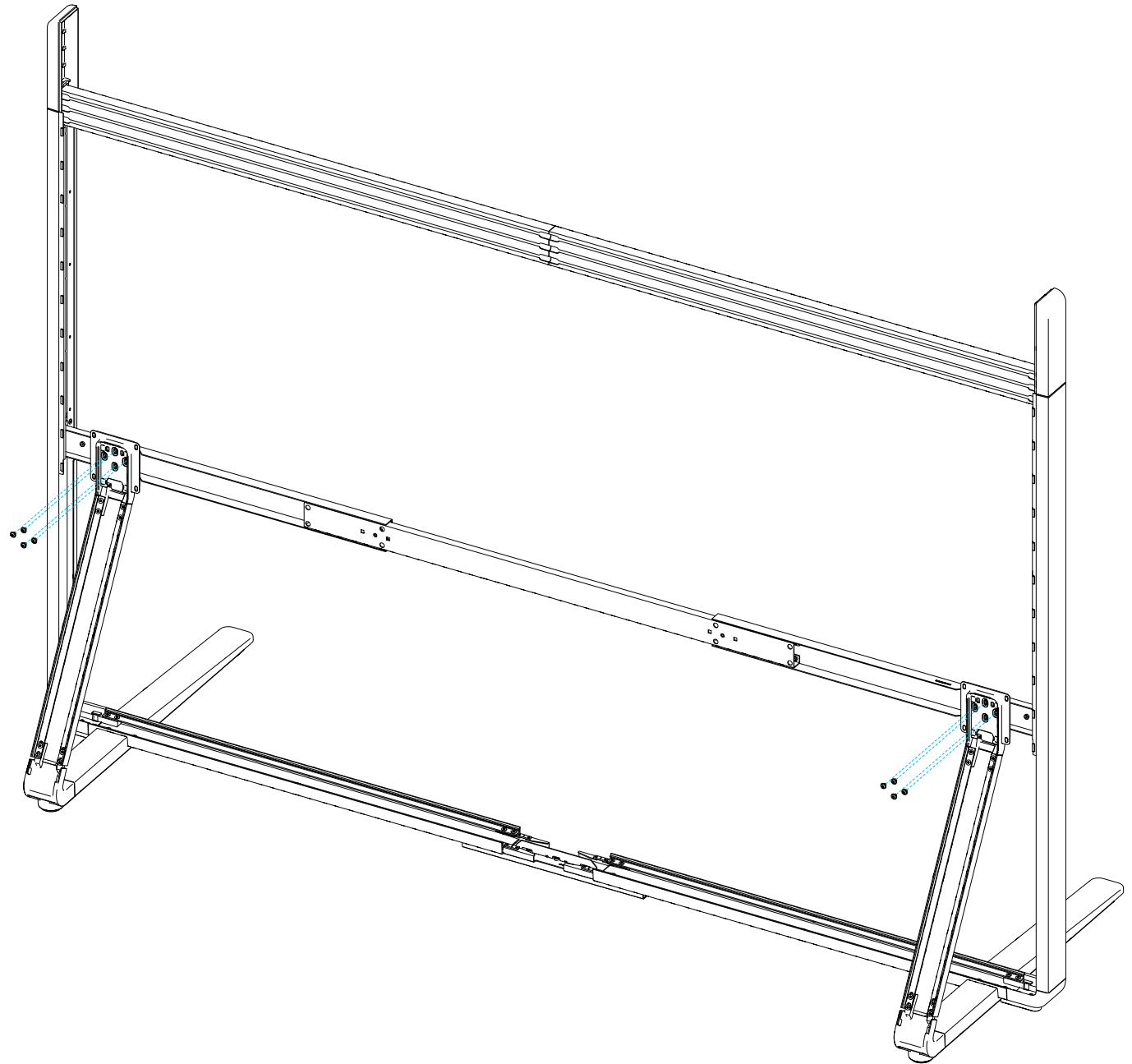
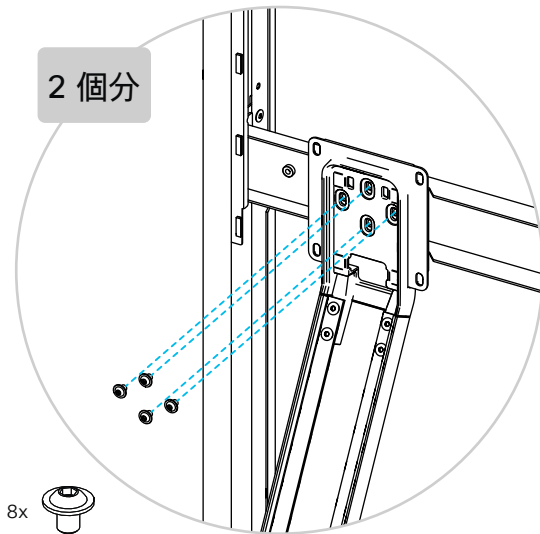
運搬梁を両側の 2 本のネジ (M6x12, Hex 4mm)
でフレームに固定します。



2.5. 後脚を下部バーに固定する

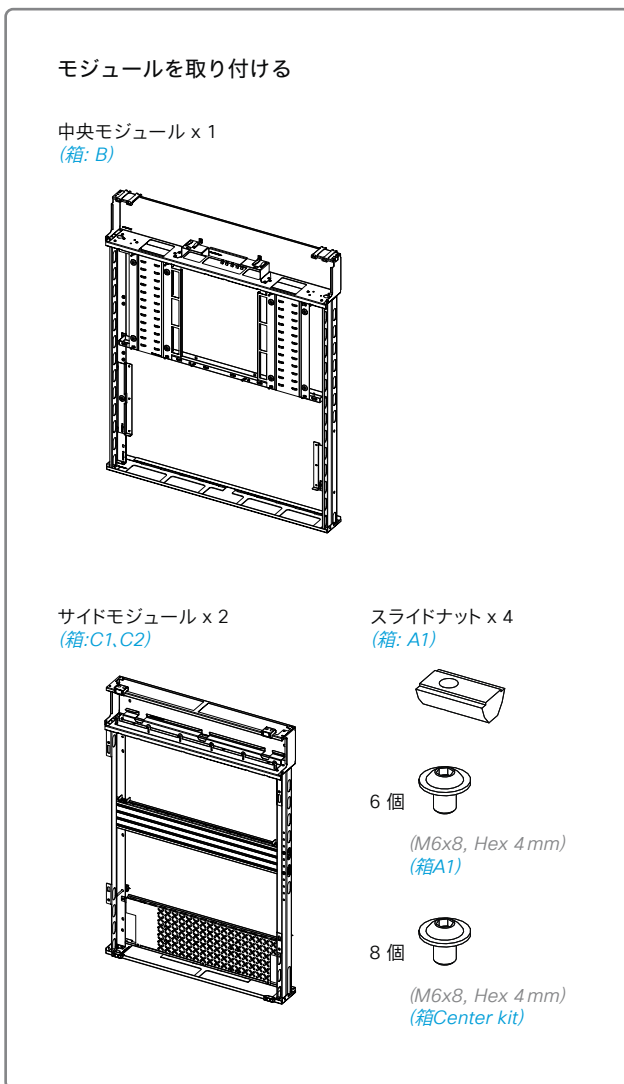
これらのステップをそれぞれの側で繰り返します。

1. フレームを前方から後脚に向かって押し込み、ネジを差し込めるようにします(前もって張力を加えるための、意図的な手順です)。
2. 4本のネジ(M6x8, Hex 4mm)を差し込みます。まだ締めません。
3. この時点で、フレームの押し込みはやめます。
4. ネジ穴に差し込んだネジを、締められる所まで締めます。



3. モジュールの取り付け

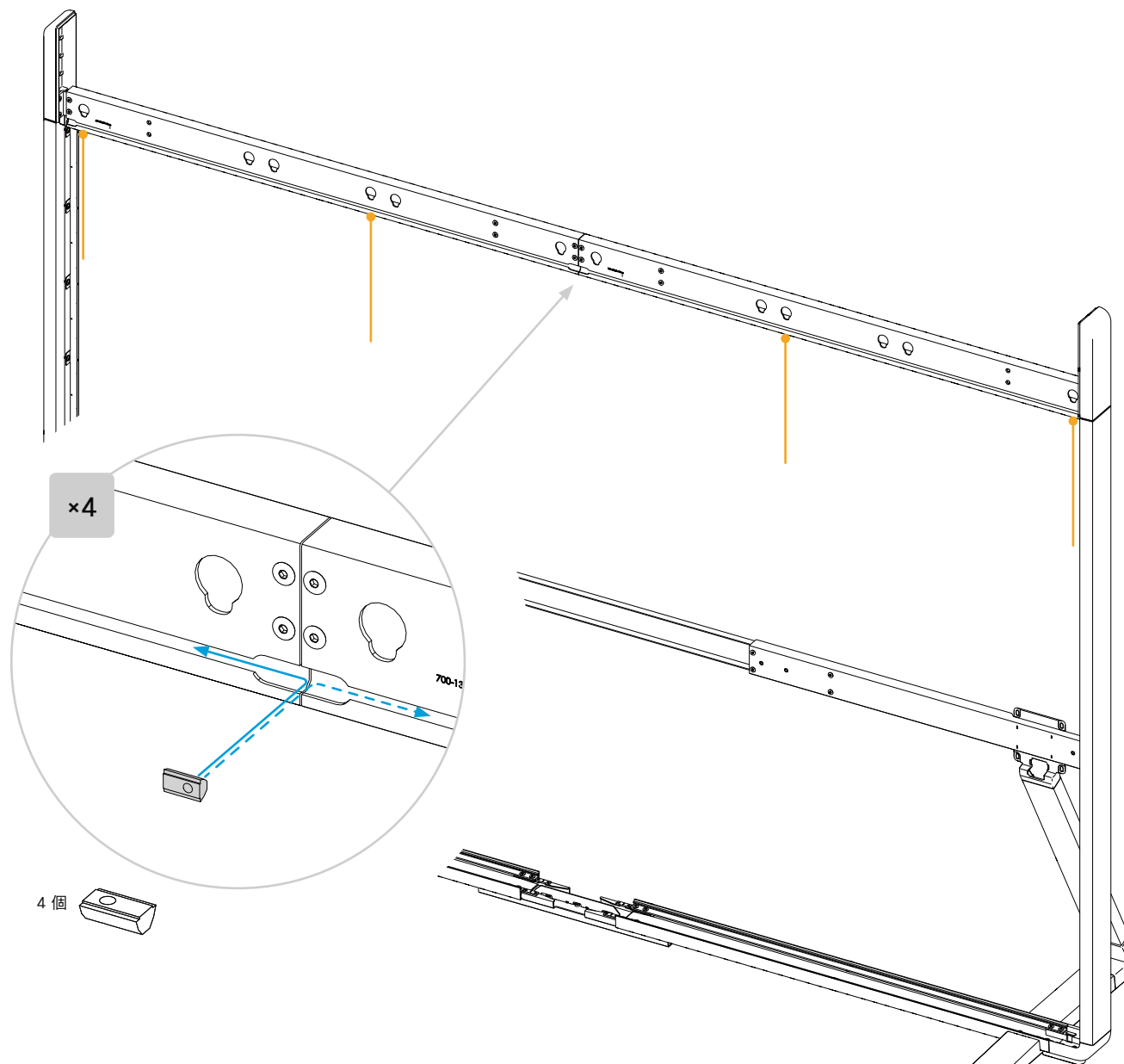
主な取り付け構造は、運搬梁に掛けられた1つの中央モジュールと2つの同一のサイドモジュールの3つのモジュールで構成されています。



3.1. ナットをビームのノッチにスライドさせる

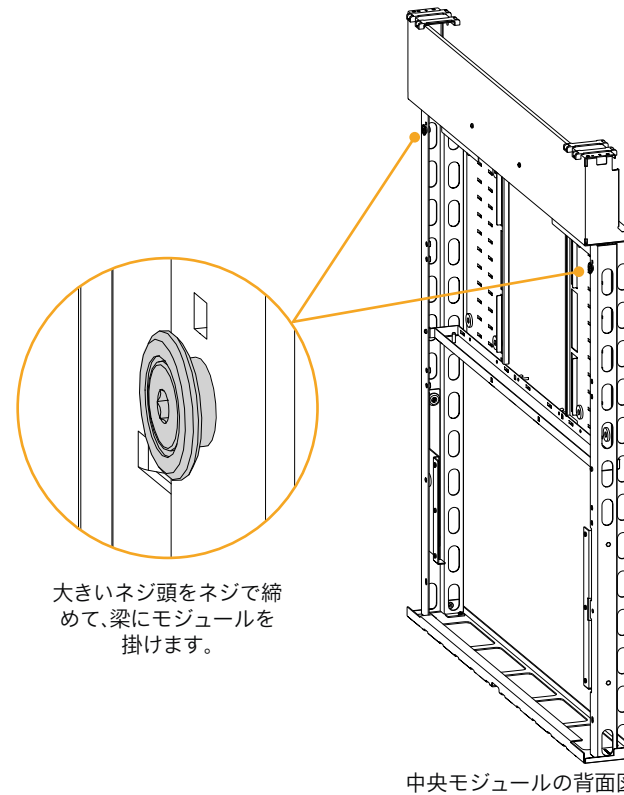
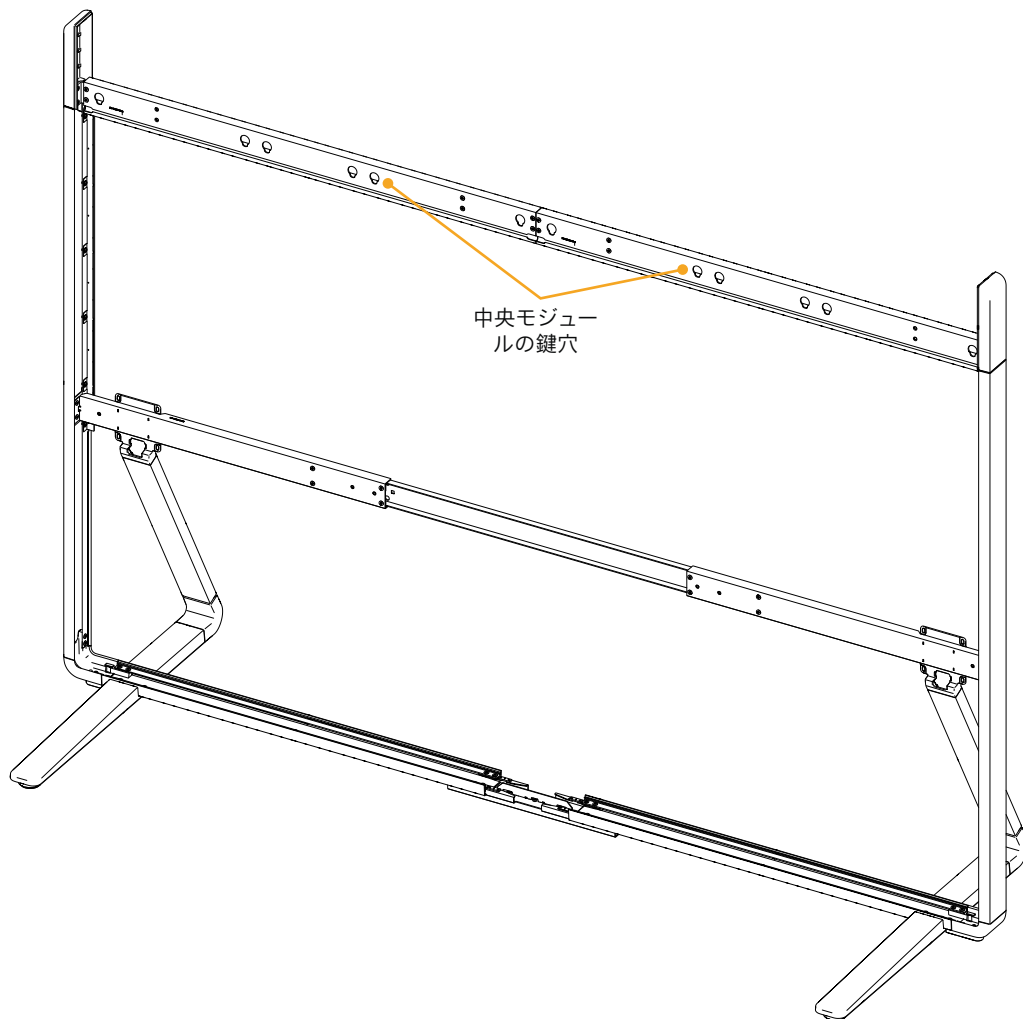
4つのナットを梁のノッチにスライドさせます。図のように、鍵穴の下にナットを配置します。

ナットは、手順3.4でモジュールを梁に固定するときに必要です。

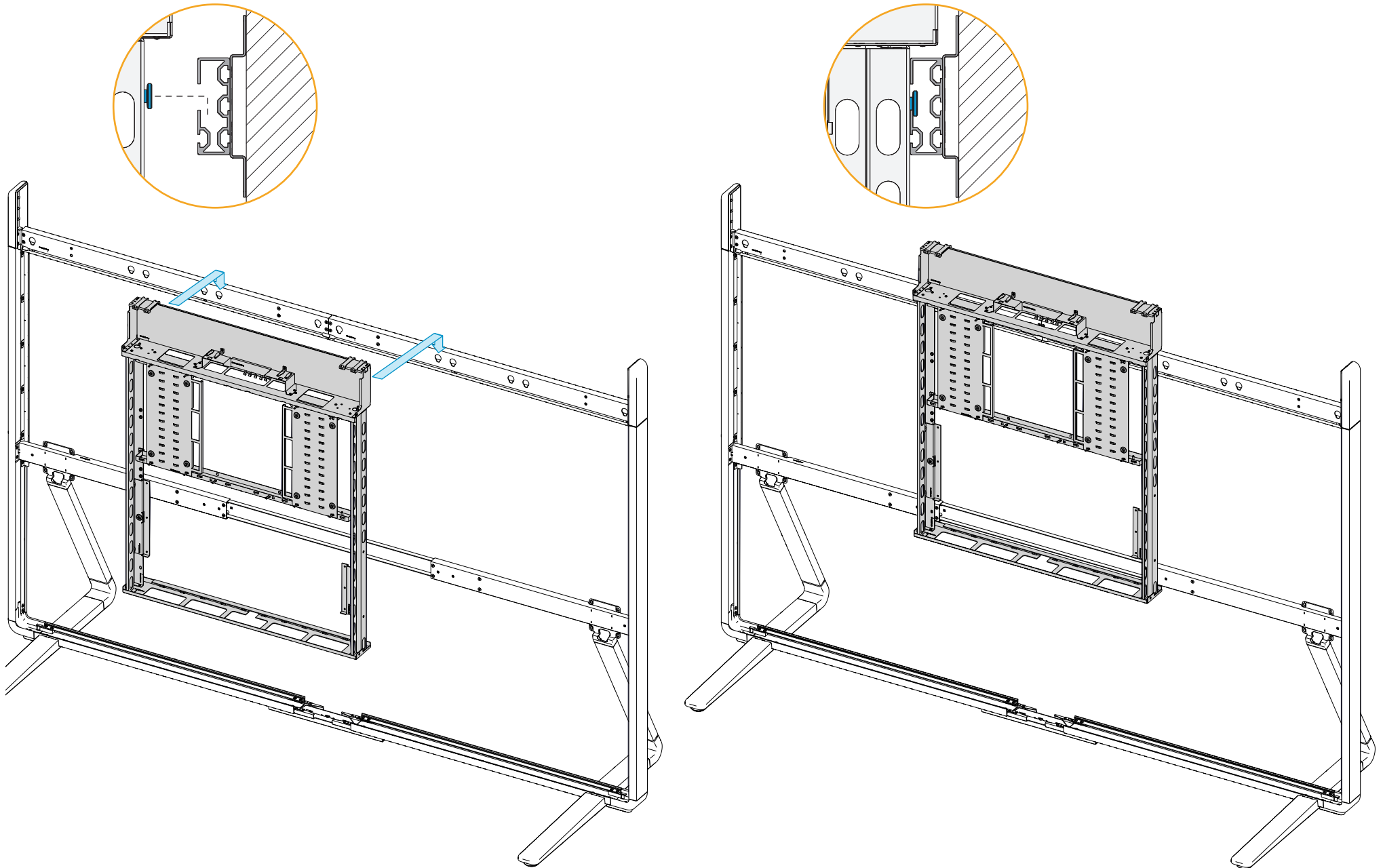


3.2. 中央モジュールを梁に掛ける

1. 梁の鍵穴と、中央モジュールの背面にある大きなネジ頭を確認します。
これらのネジ頭を鍵穴に掛けます。



2. モジュールの背面にある大きなネジ頭を梁の鍵穴に掛けます。

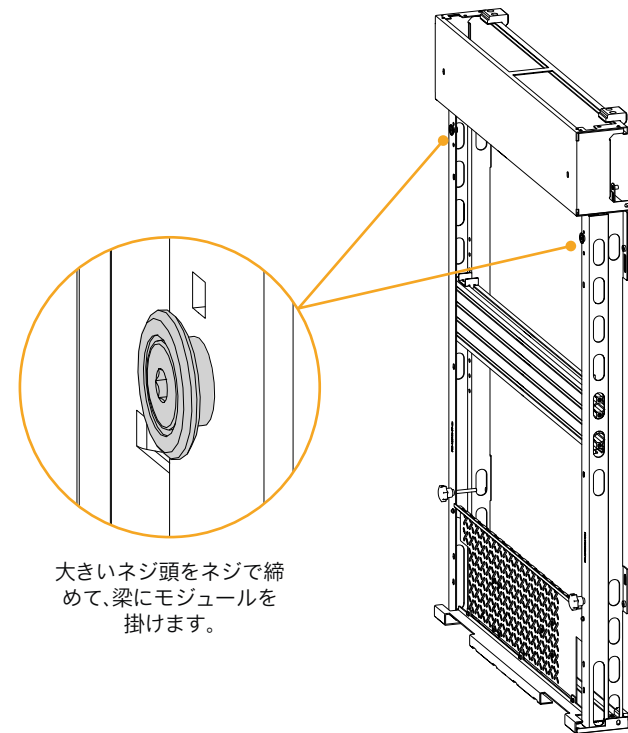
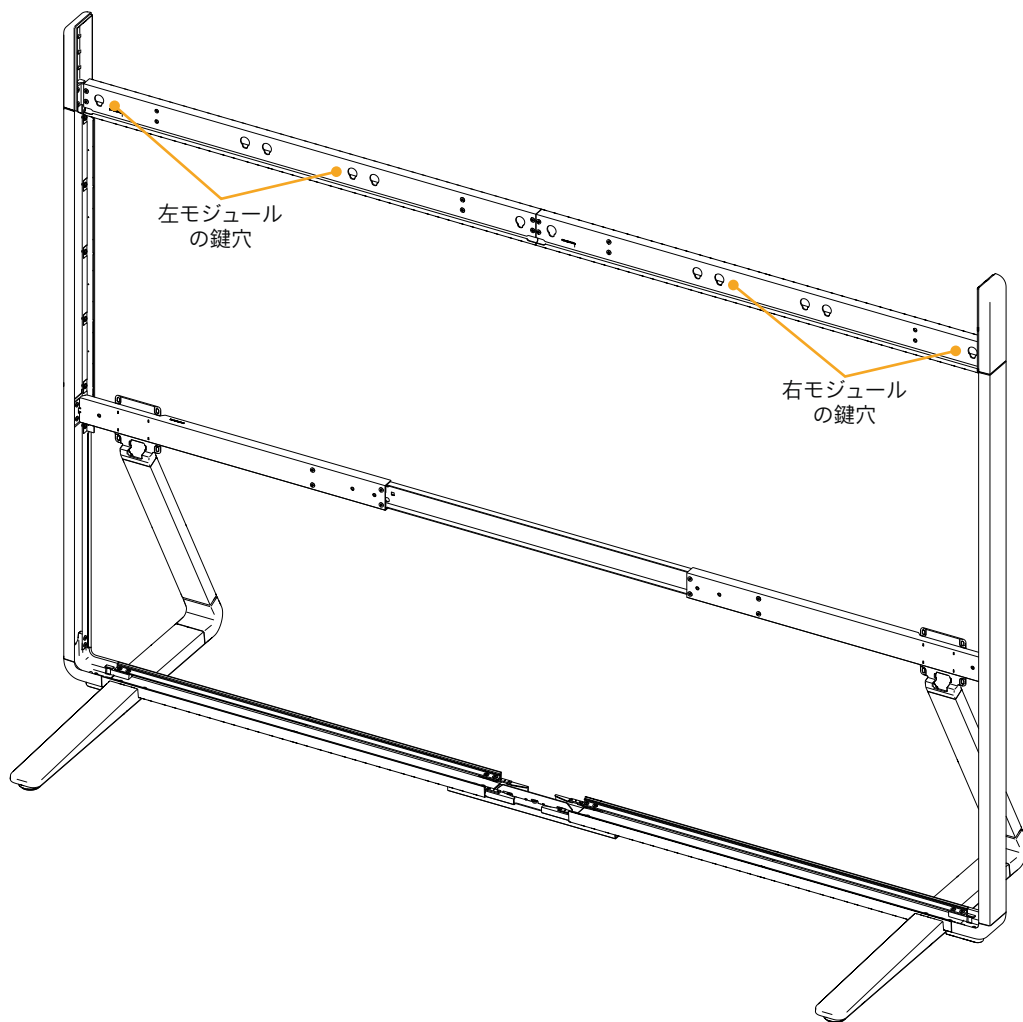


3.3. サイドモジュールを梁に掛ける

両側のモジュールに対してこれを繰り返します。サイドモジュールは同じです。

1. 梁の鍵穴と、サイドモジュールの背面にある大きなネジ頭を確認します。

これらのネジ頭を鍵穴に掛けます。

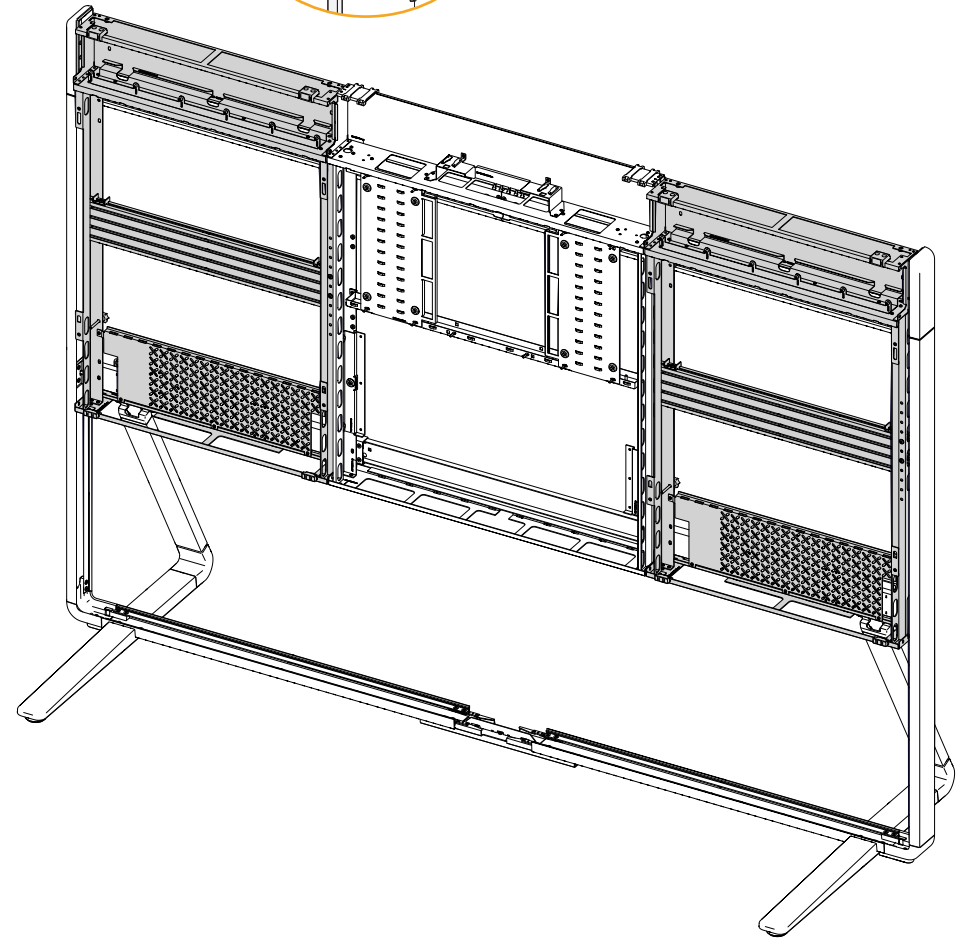
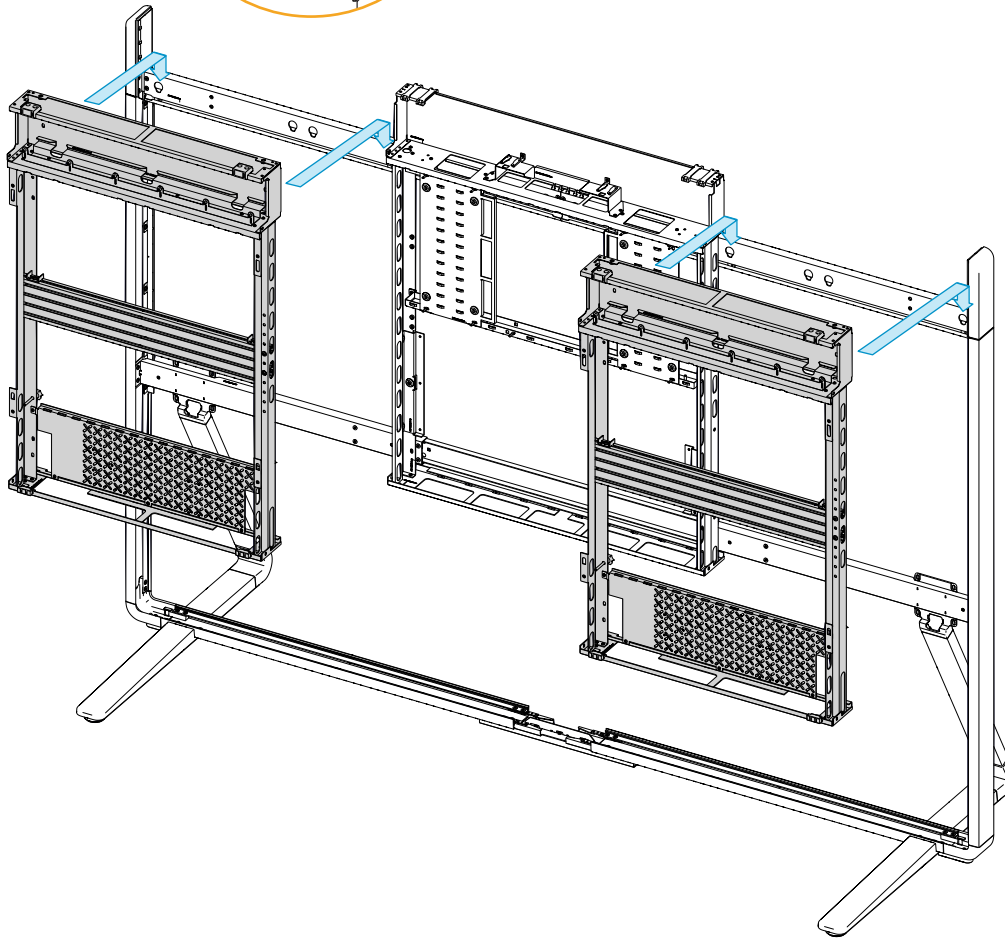
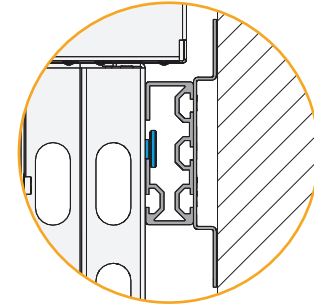
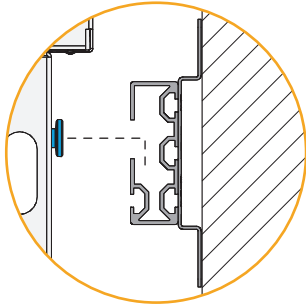


サイドモジュールの背面図

2. モジュールの背面にある大きなネジ頭を梁の鍵穴に掛けます。

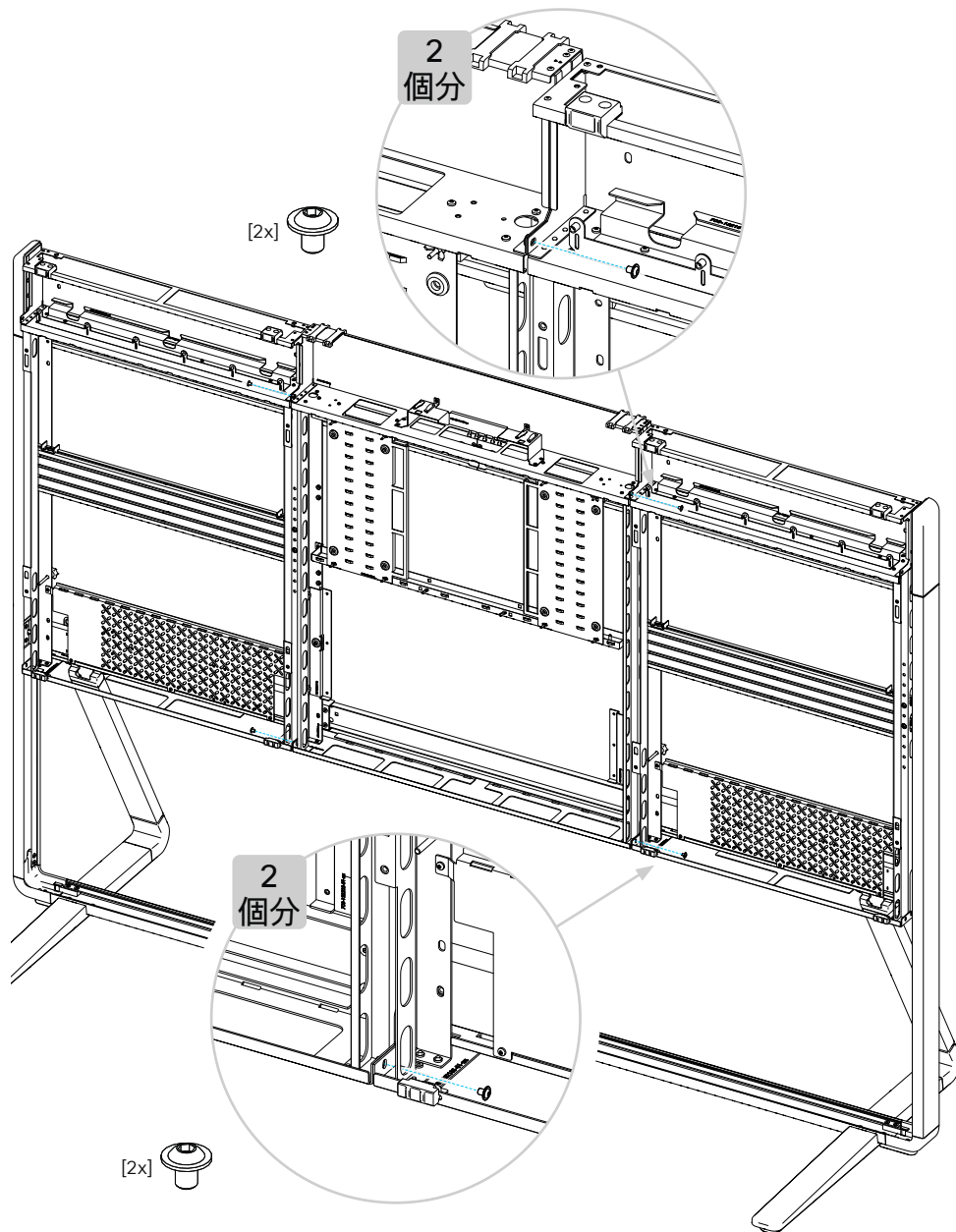


モジュールの間に指を挟まないように、モジュールの上部と下部をつかんで再度モジュールを持ち上げます。中央モジュール側ではありません。

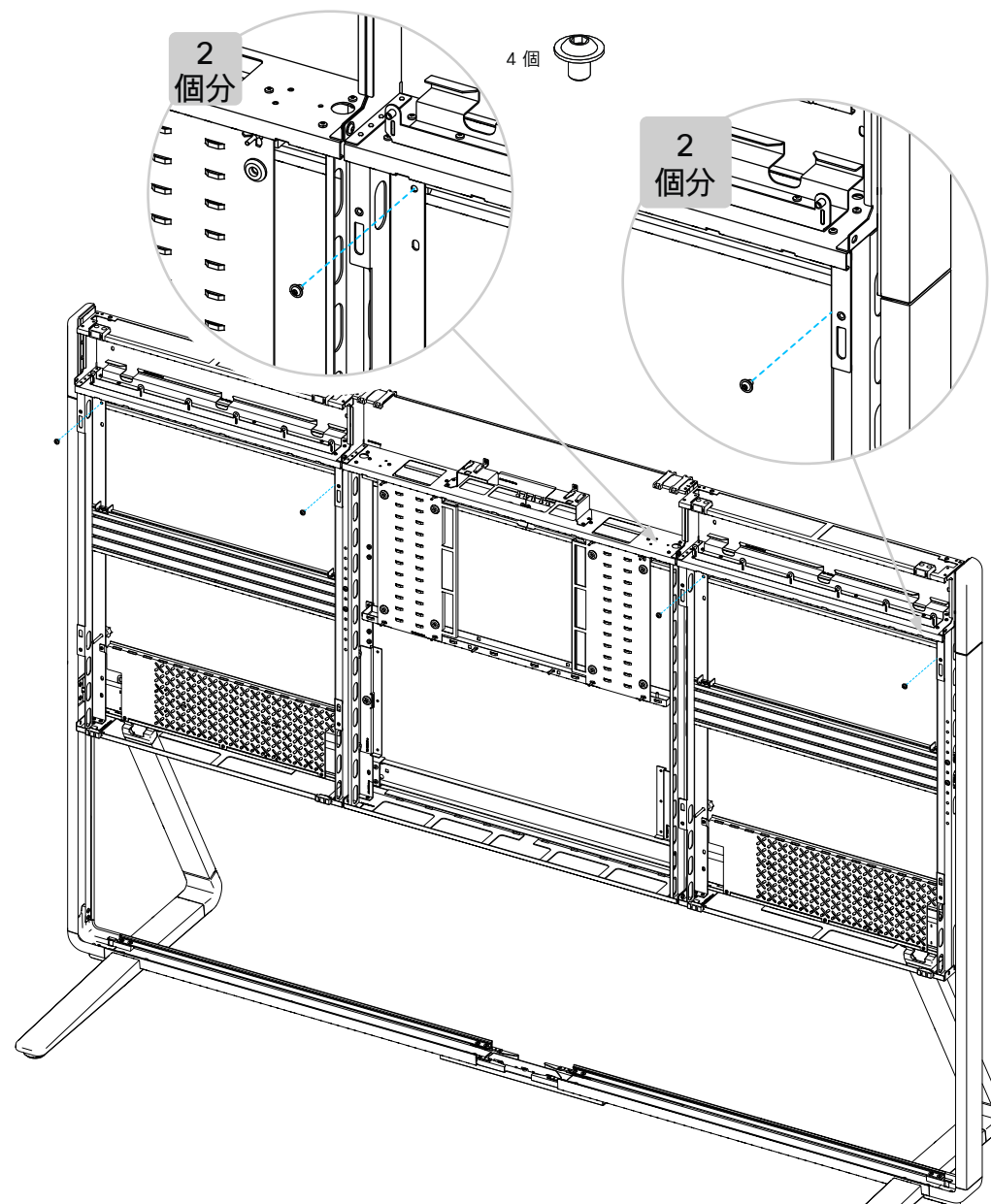


3.4. モジュールを固定する

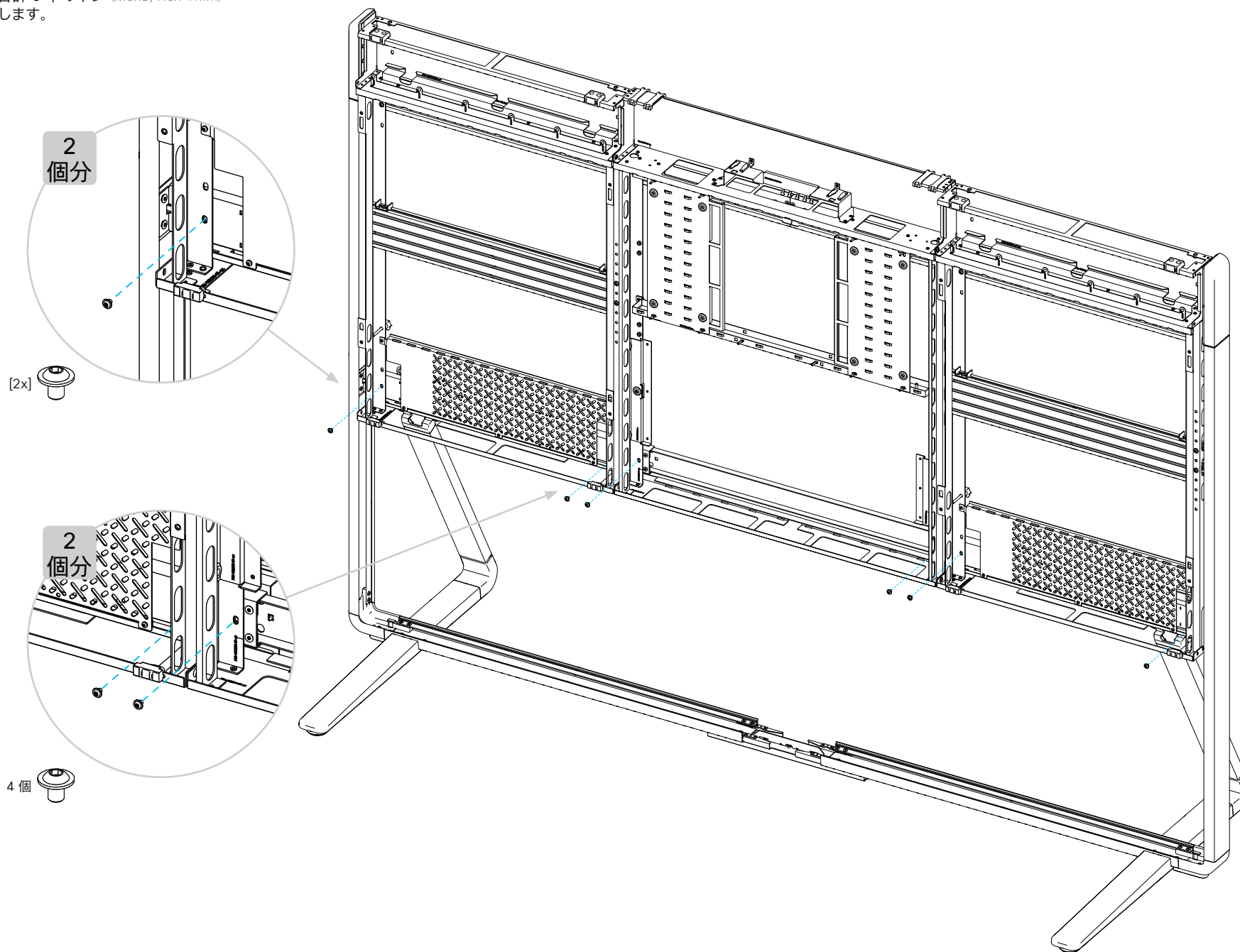
1. 両方のサイドモジュールをそれぞれ 2 本のネジ (M6x8, Hex 4mm) で中央モジュールに固定します。



2. モジュールを合計 4 本のネジ (M6x8, Hex 4mm) で梁に固定します。ネジは、手順 3.1 で追加したナットに挿入します。

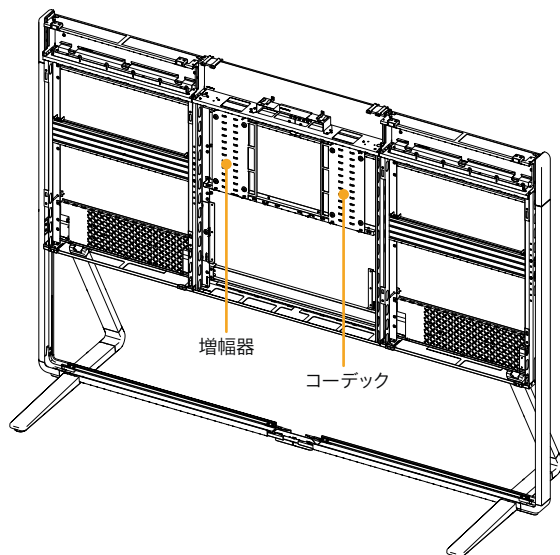


3. モジュールを合計 6 本のネジ (M6x8, Hex 4 mm) でバーに固定します。



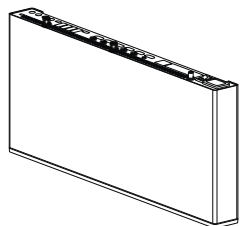
4. コーデックと増幅器を挿入する

コーデックと増幅器は、中央モジュールの金属製クランプの後ろのベイに配置されます。

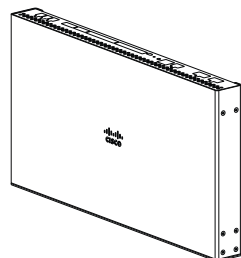


コーデックと増幅器

コーデック x 1
(箱: Codec)

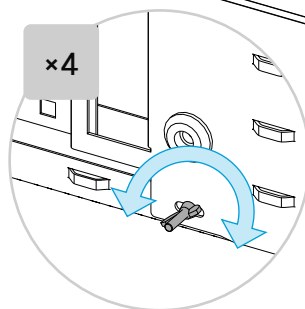
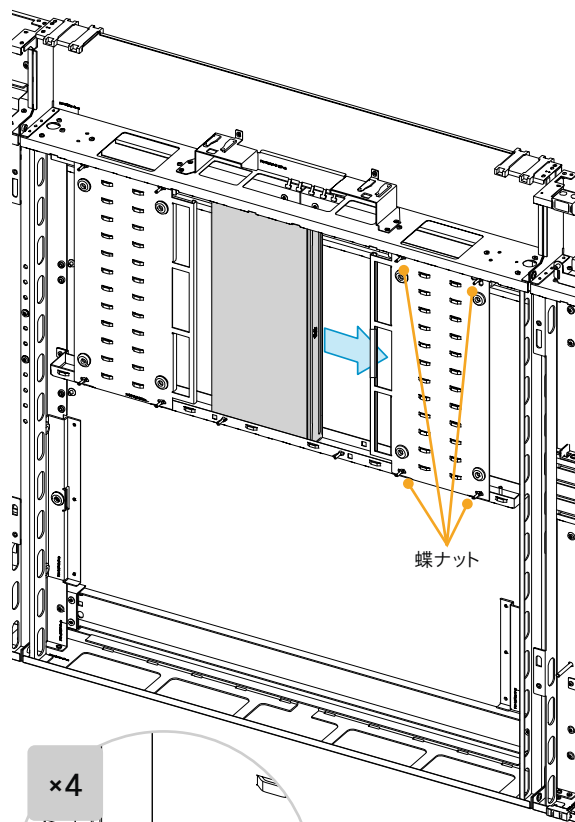


増幅器 x 1
(箱: Amplifier)



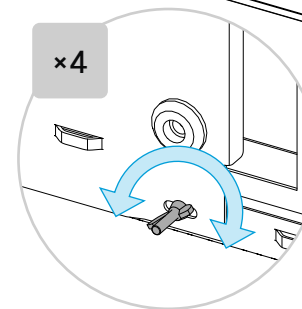
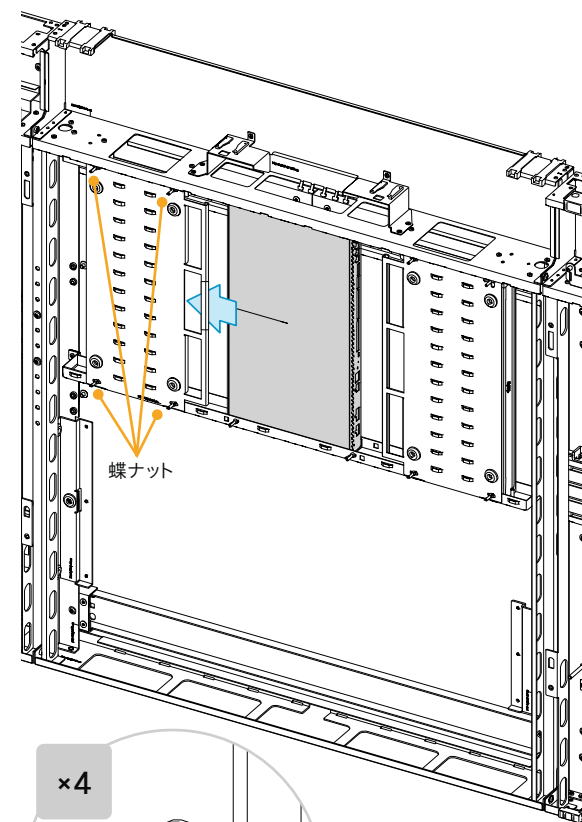
4.1. コーデックを挿入する

1. 右側の金属製クランプを固定している 4 つの蝶ネットを少し緩めます。
2. コーデックをクランプの後ろのベイに完全にスライドさせます。コネクタは中央を向いています。電源ソケットを上に向けてみます。
3. 金属製のクランプをコーデックの端で止まるまで右にスライドさせます。次に、4 つの蝶ネットを締めてコーデックを固定します。



4.2. 増幅器を挿入する

1. 増幅器にロックイヤーがある場合は、取り外します。(Torx T10)。
2. 左側の金属製クランプを固定している 4 つの蝶ネットを少し緩めます。
3. 増幅器をクランプの後ろのベイに完全にスライドさせます。コネクタは中央を向き、ファンコネクタは上を無体状態です。
4. 金属製のクランプを増幅器の端で止まるまで左にスライドさせます。次に、4 つの蝶ネットを締めて増幅器を固定します。



ケーブル配線について

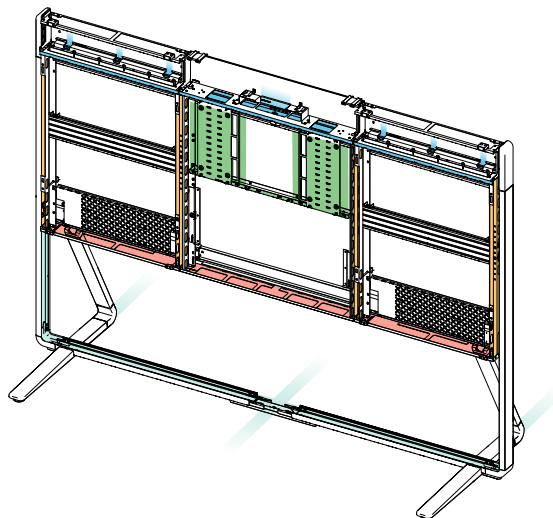
手順 5 以降でコンポーネントを取り付ける場合は、関連するケーブルの配線と接続を同時に行います。正しく、整ったケーブル配線を行うための重要な注意事項を次に示します。

まだ電源に接続しないでください!

「29. しあげ」78 ページの手順を実行する前に壁面ソケットのコンセントに電源ケーブルを接続しないでください。

ケーブル配線

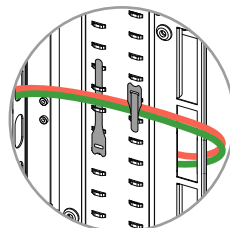
この図の色付きの部分は、ケーブル配線の主要な領域を示しています。詳細については、次のページを参照してください。



各手順では、その特定のケーブルの推奨配線を示します。すべてのケーブルを通す穴を明示的に示すことはありません。

マジックテープを使用してケーブルを整理

マジックテープのストラップを使用して骨組みにケーブルを固定することを強くお勧めします (箱: Center kit)。これは、ケーブルやコネクタの負担やがたつきによる雑音を避けるためであり、すっきりと整頓された外観を維持するためです。

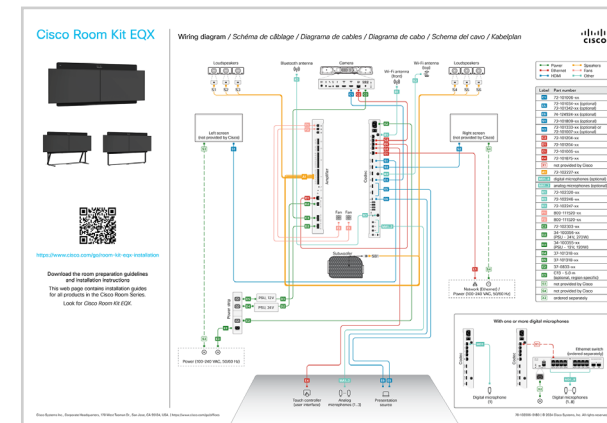


骨組みには、マジックテープストラップ用に多くの固定ポイントが用意されています。

3本のナイロン製ケーブルタイ (箱: Center kit) は、手順 11.3 でカメラケーブルを固定するためのものです。

配線図

完全な配線図は製品に同梱されて配送されます。また、<https://www.cisco.com/go/room-kit-eqx-installation> からオンラインで入手することもできます。



配線図には、ケーブルの配線方法のガイダンスも記載されています。

ケーブルのマーキング

各ケーブルには 製品番号があり、ケーブルに印刷されています。設置ガイドと配線図では、簡単に参照できるように、ケーブルのラベルを参照してください。

配線図に、部品番号に各ラベルをマッピングした表があります。

Label	Part number
C1	72-101006-xx
E5	72-101034-xx (optional) 72-101342-xx (optional)
E6	74-124924-xx (optional)

ケーブルの場所

ケーブルはアクセサリキットの箱に入っています (箱: Acc kit 1, Acc kit 2)。

主なケーブル配線エリア

フラップの後ろ - チャネルから、およびカメラとスピーカーの穴を通して。ガタガタという音が出ないようにするため、ケーブルをスピーカーから離します。付属のマジックテープストラップを使用します。

下部トレイ。ガタガタという音が出ないようにするため、ケーブルをバスから離します。付属のマジックテープストラップを使用します。

モジュール間のチャンネル。また、部屋のコンセントの位置に合わせて、側面のチャンネルを使用することもできます。

必要に応じて、穴にケーブルを通します。

スタンド内。スタンドにケーブルを配線できます。ケーブルはスタンドカバーで隠れます。

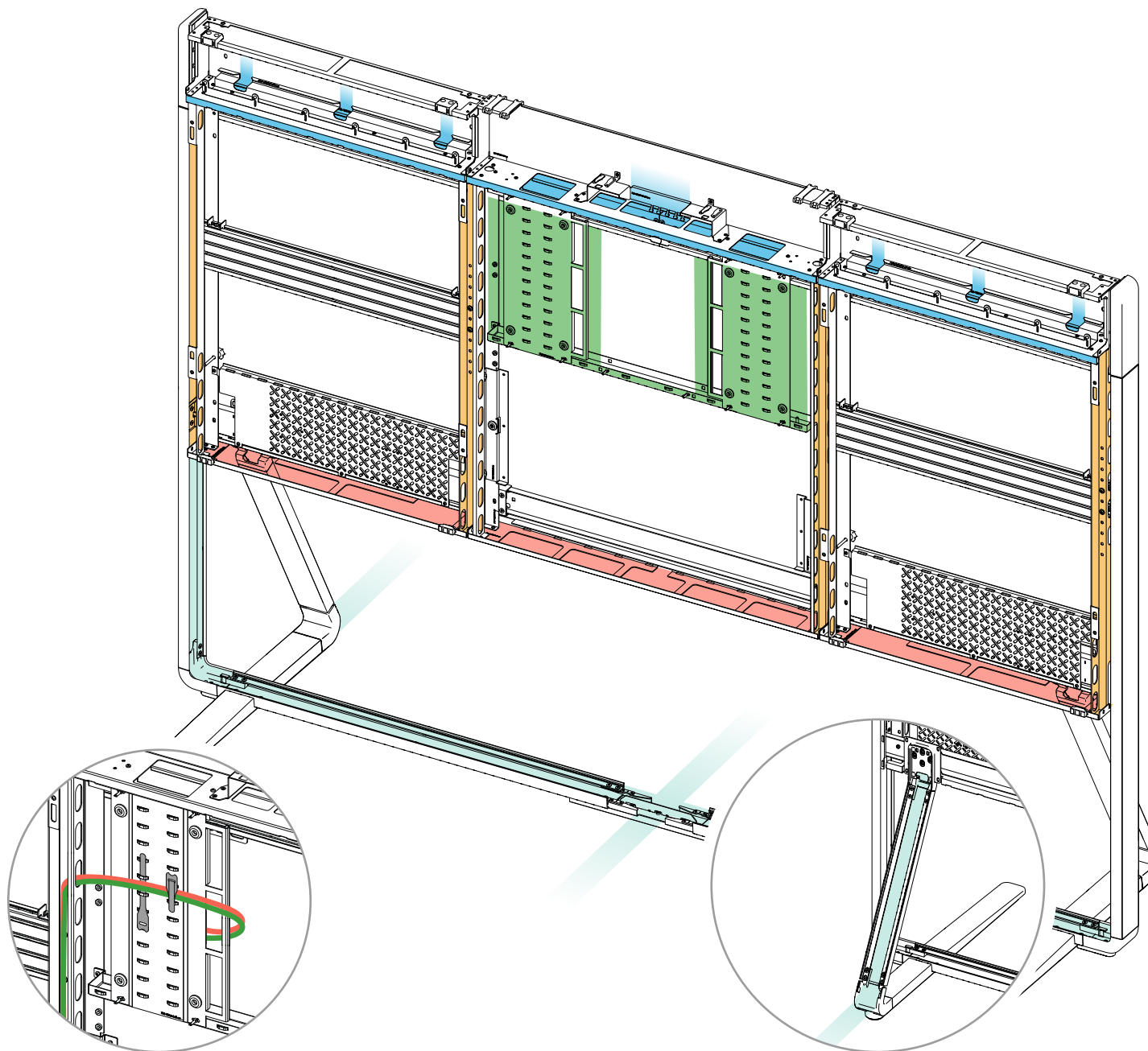
ケーブルは、スタンドの中央、または後脚から引き出せます。前面(テーブル)、背面、または下に配線できます。

コーデックと増幅器のクランプの前。コーデック/増幅器のすべてのケーブルは、モジュール間のチャンネルから引き出します。

ケーブルを穴の1つから引き出し、クランプを横切ってから、コネクタパネルに戻します。これは、負荷を緩和させるために重要です。

完了したら、マジックテープでケーブルを固定します。

いくつかのケーブルも、クランプのすぐ下で左から右に配線されています。ガタガタという音が出ないようにするため、ケーブルをバスから離します。付属のマジックテープストラップを使用します。



後脚、背面図

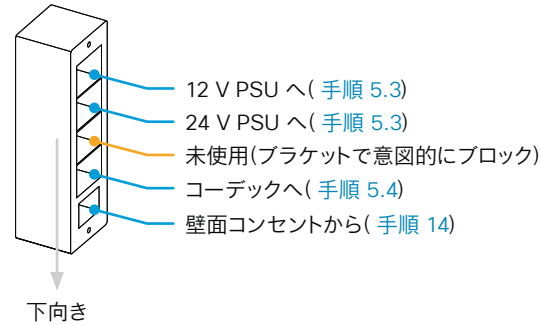
5. 電源ストリップと PSU を取り付ける

電源ストリップと PSU は、左モジュールの下部近くに配置されます。

この時点では、電源ストリップを壁のコンセントに接続しないでください。

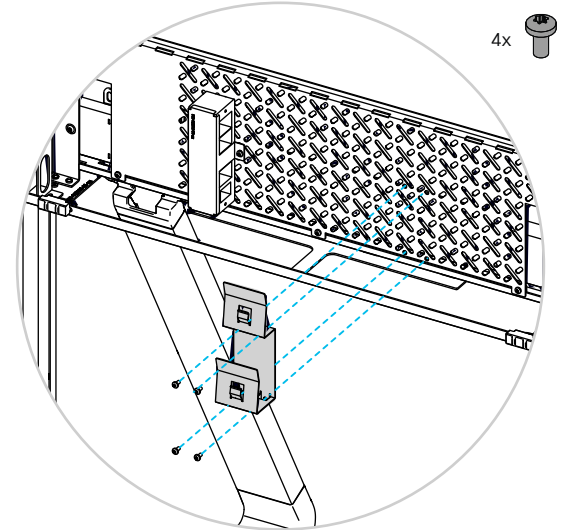
5.1. 電源ストリップを取り付ける

ブラケットを電源ストリップの上に置き、3本のネジ (M4x8, Torx T20) で背面プレートに固定します。

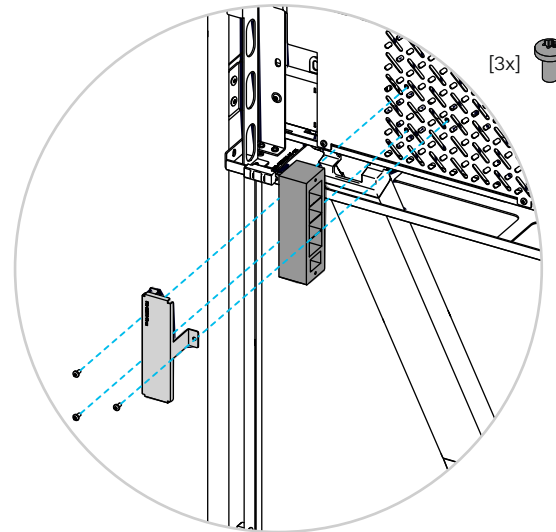
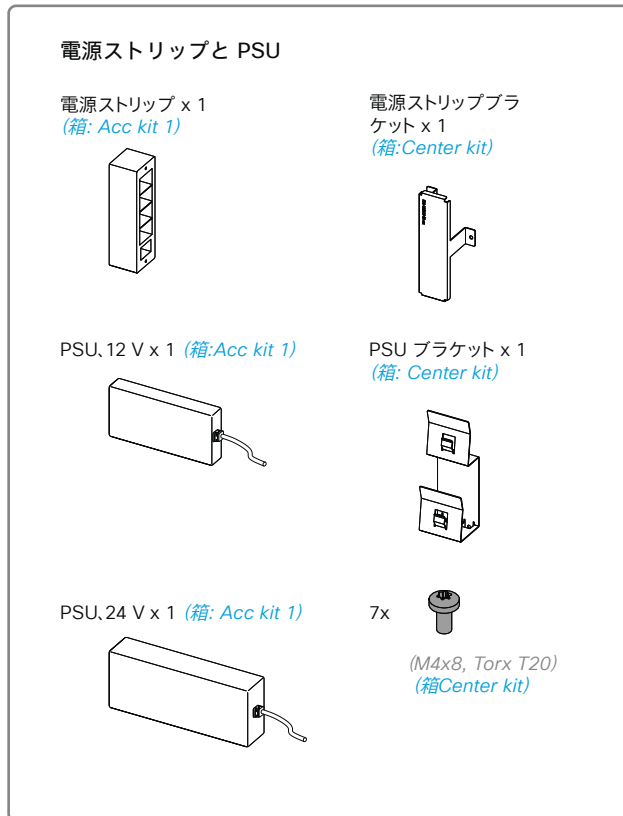
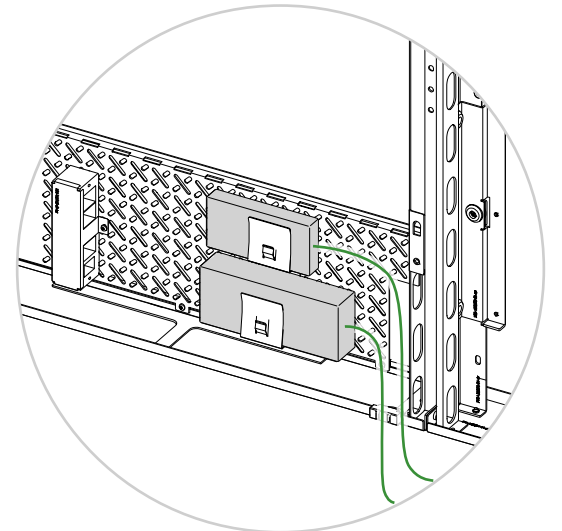


5.2. PSU を取り付ける

- 4本のネジ (M4x8, Torx T20) で PSU ブラケットをバックプレートに固定します。



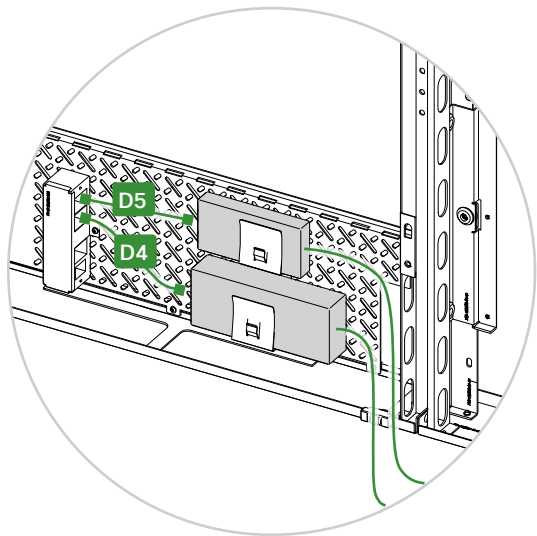
- 2つの PSU をブラケットにスライドさせます。小さい方の 12 V PSU は、大きい方の 24 V PSU の上にあります。PSU に固定されているケーブルは右側にあります。



5.3. PSU ケーブルを接続する

1. PSU を電源ストリップに接続します。

- ・ 24 V PSU の場合は D4
- ・ 12 V PSU の場合は D5

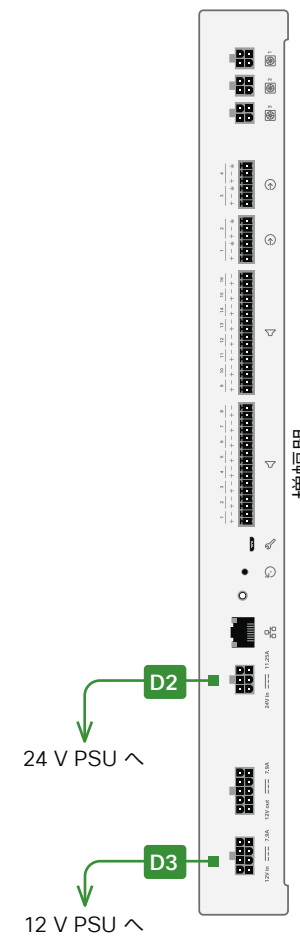
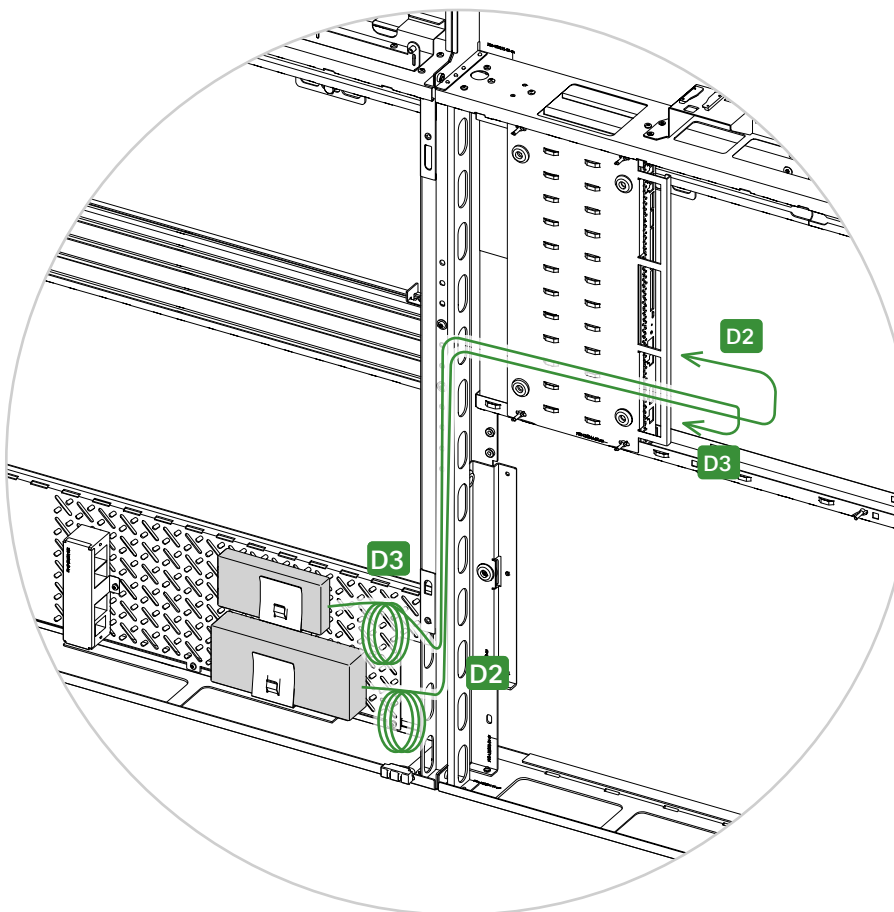


2. 24 V の PSU(最も大きい PSU)には電源スイッチがあります。オンに切り替えます。

3. 図に示すように、ケーブルを通し、PSU を増幅器に接続します。

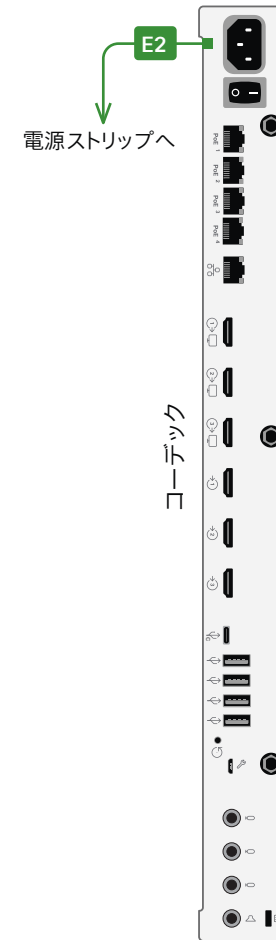
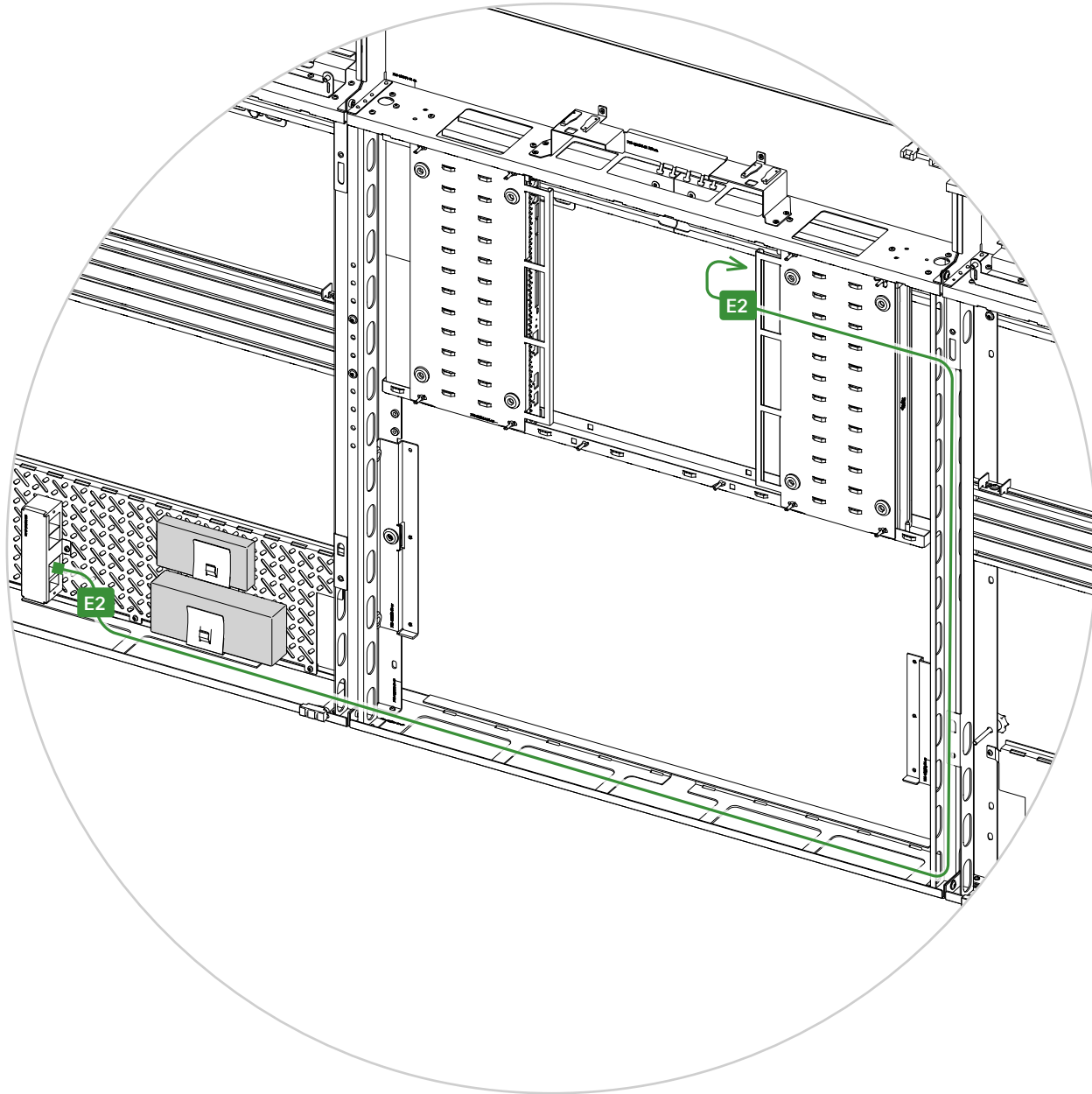
- ・ 24 V PSU の場合は D2
- ・ 12 V PSU の場合は D3

PSU に近いコイルとストラップ(マジックテープ)の余分なケーブル(図を参照)。



5.4. コーデック電源ケーブルを接続する

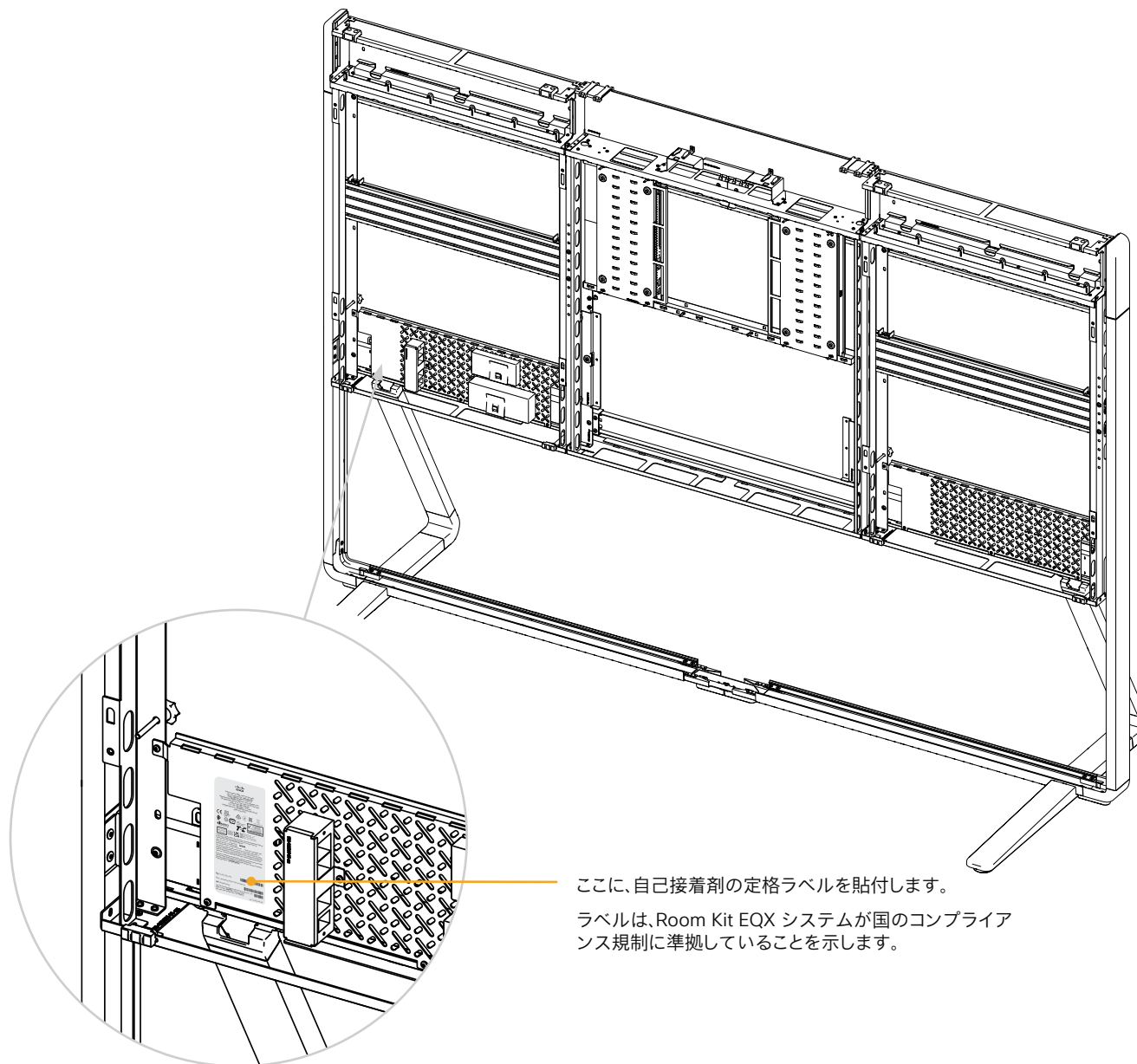
コーデックと電源ストリップ E2 間に電源ケーブルを接続します。



6. 定格ラベルを貼付する

定格ラベル (箱:Acc kit 2)

定格ラベル x 1



ここに、自己接着剤の定格ラベルを貼付します。
ラベルは、Room Kit EQX システムが国のコンプライアンス規制に準拠していることを示します。

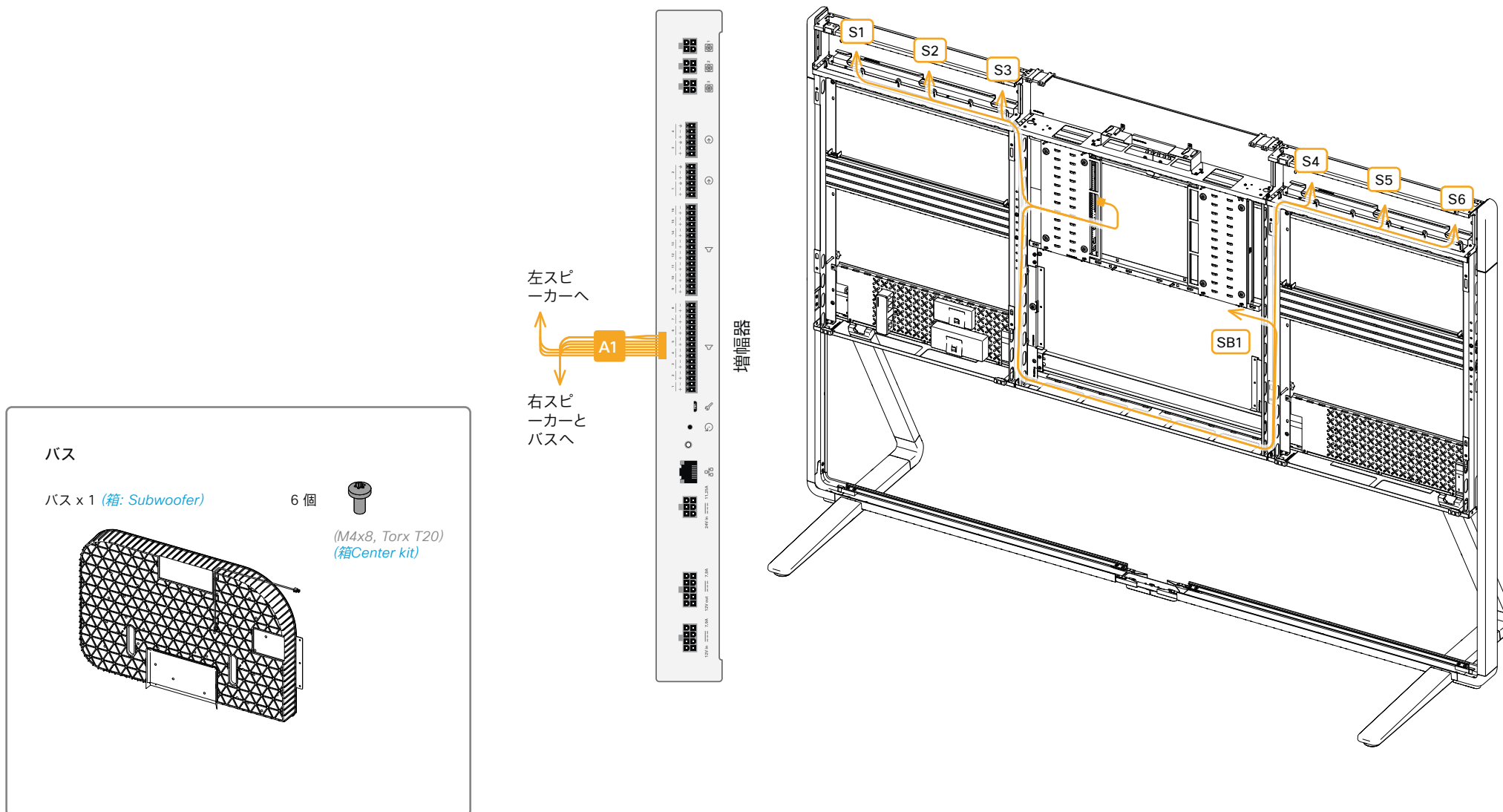
7. 低音部を取り付ける

両側に3つのスピーカーとバスユニットがあります。ケーブルは束ねられており、増幅器に接続された共通のコネクタがあります。ケーブル束のもう一方の端にはS1、S2、S3、S4、S5、S6、SB1というラベルが付いており、どのケーブルがどのスピーカーに接続されているかを識別できます。

7.1. ケーブルを接続して配線する

1. スピーカーに増幅器を接続します。
2. 図に示すように、ケーブル束のもう一方の端を配線します。この時点で、両端が自由にぶら下がるようにします。

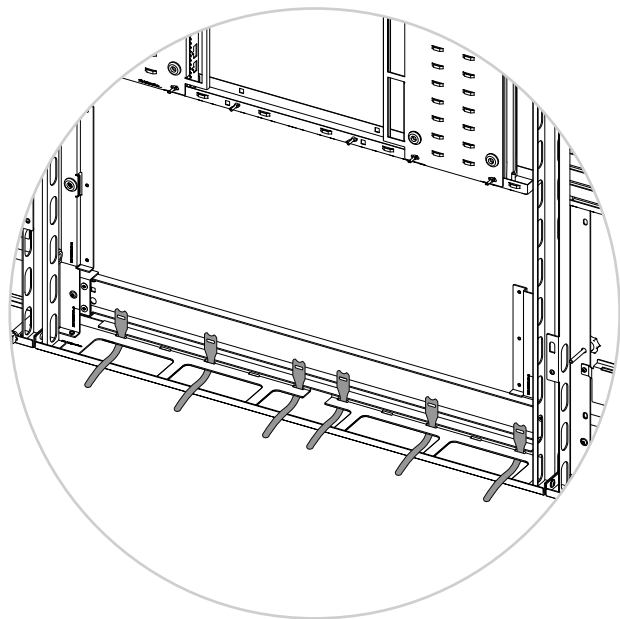
正しいケーブルが正しいスピーカーに接続されていることが音声エクスペリエンスでは重要であるため、ラベルを確認します。



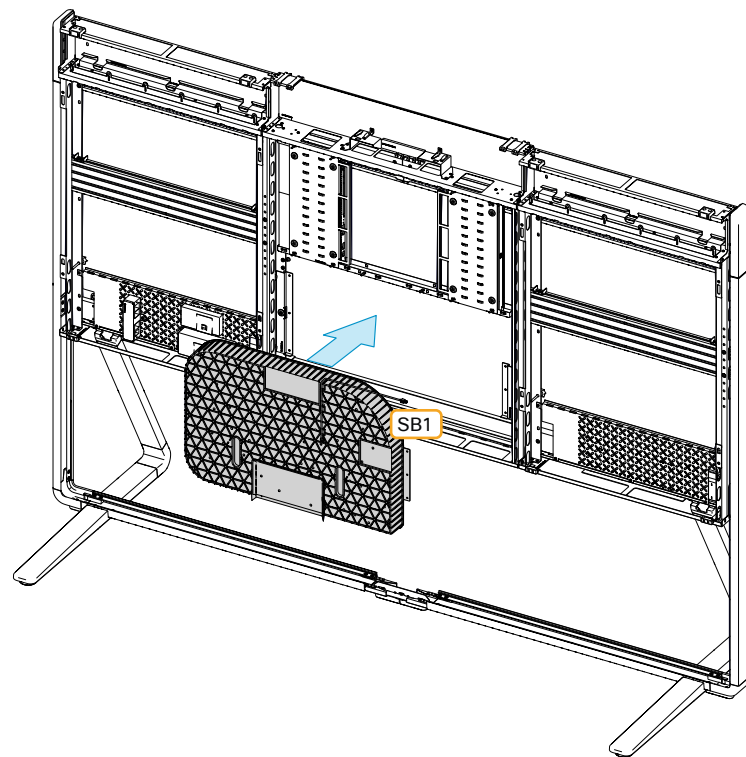
7.2. 下部トレイにマジックテープストラップを付ける

低音部を所定の位置に移動すると作業が困難になる場合があるため、この時点で中央トレイに面ファスナーストラップを付けることが推奨されます。

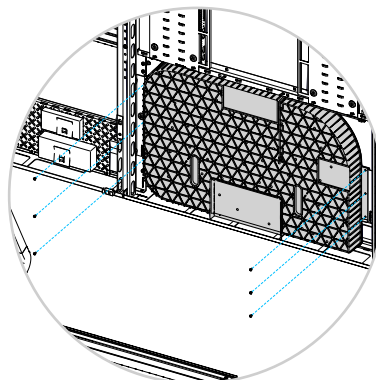
設置プロセスの後半で、低音部の下に配線するケーブルを固定するために使用します。



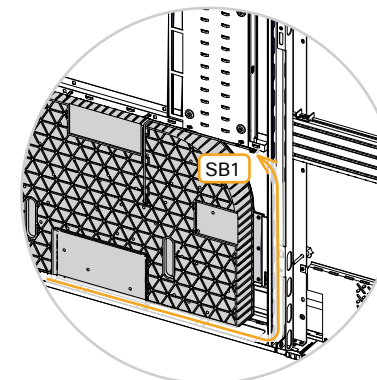
7.3. バスを挿入する



1. バスをフレームに配置し、6本のネジ (M4x8, Torx T20) で固定します。



2. ケーブルをバスに接続します。ケーブルにはSB1というマークが付いています。



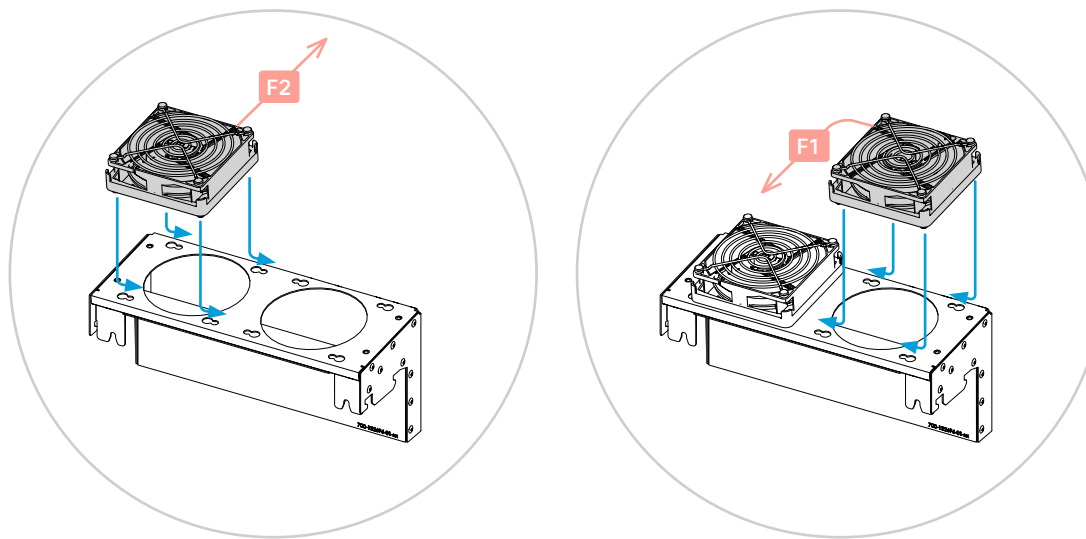
ケーブルがバスに触れていないことを確認します。触れている場合、がたがたという雑音が出る場合があります。

8. ファンモジュールを取り付ける

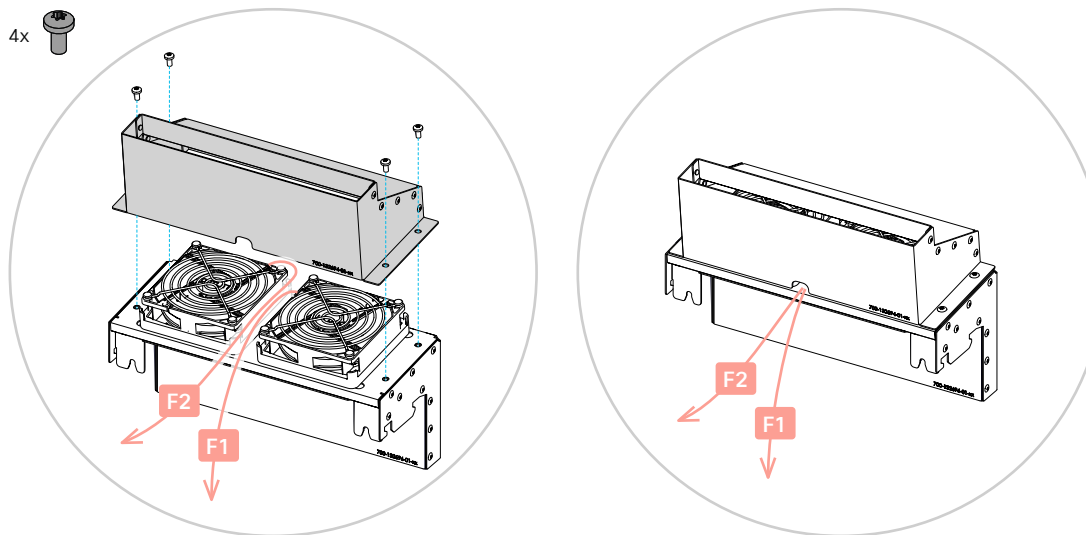
ファンモジュールはバスの上に配置します。2つの同じファンがあります。

8.1. ファンモジュールを組み立てる

1. F2ケーブルが後方を向き、F1ケーブルが左を向くようにファンを回転させます(図を参照)。次に、ファンをファンダクトの下部にスライドさせます。



2. ファンダクトの上部に乗せ、4本のネジ (M4x8, Torx T20) で固定します。ケーブル(F1、F2)が挟まれずに前面スロットに通されていることを確認します。

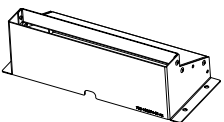


ファンモジュール

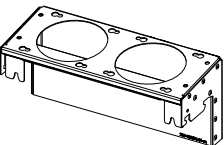
ファン x 2 (箱: Fans)



ファンダクト上部 x 1 (箱: Center kit)



ファンダクト下部 x 1 (箱: Center kit)



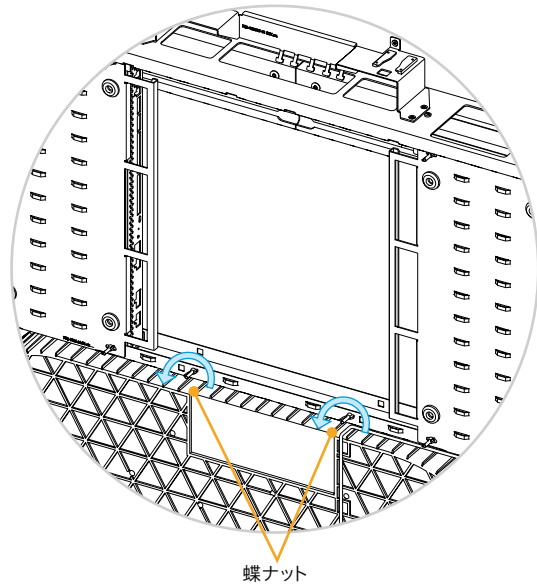
4個



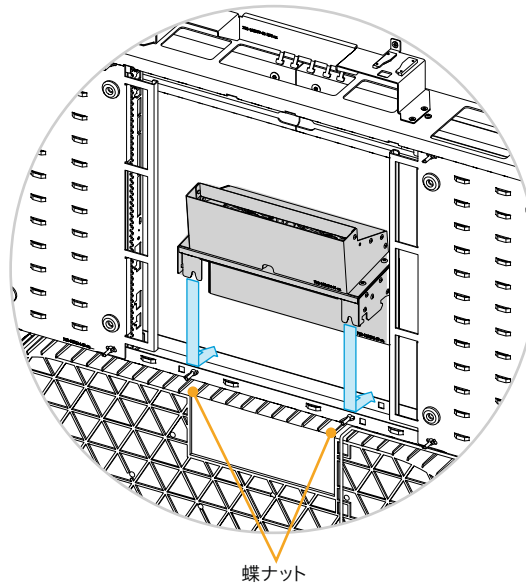
(M4x8, Torx T20)
(箱Center kit)

8.2. ファンモジュールを取り付ける

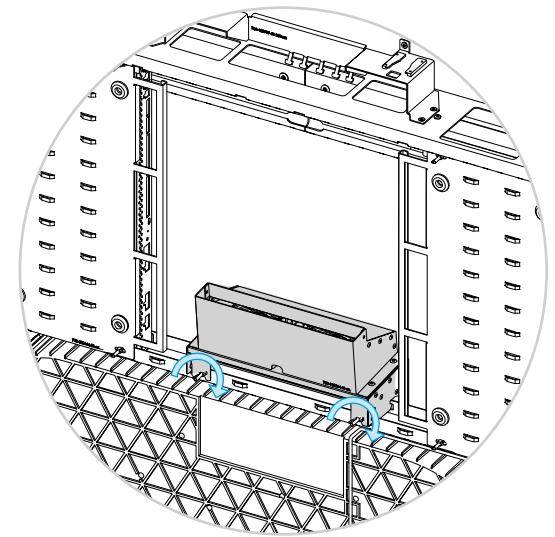
1. 2つの蝶ナットを緩めますが、取り外さないでください。



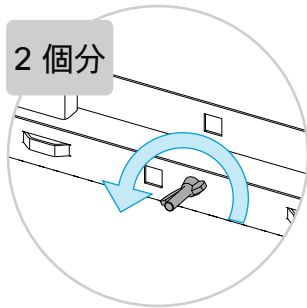
2. ファンモジュールを蝶ナットでネジの上に下ろし、溝に押し込みます。



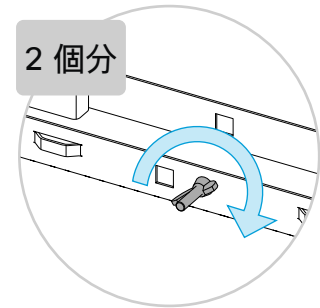
3. 2つの蝶ナットを締めます。



2 個分

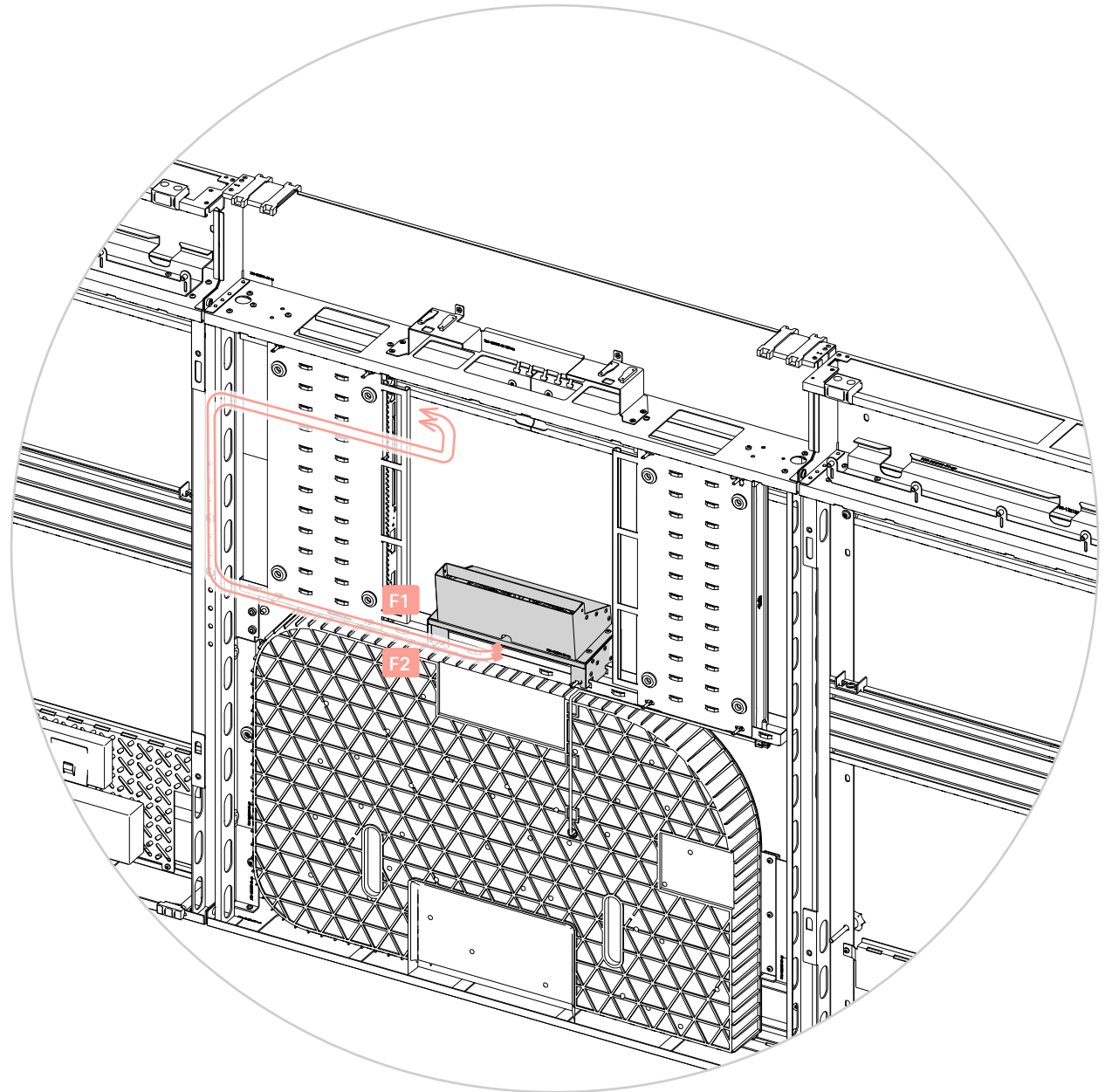
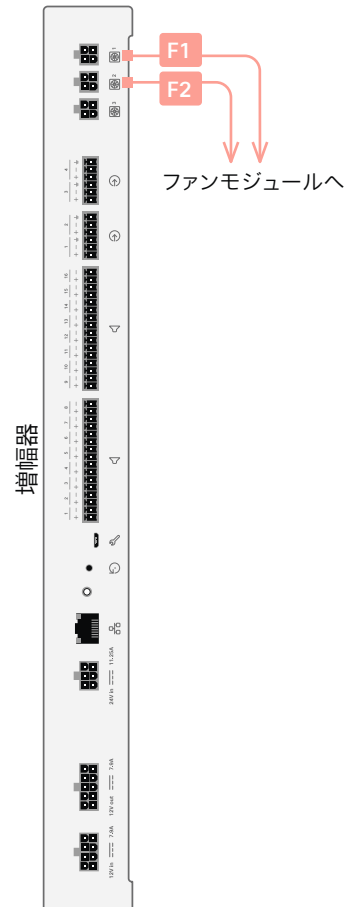


2 個分



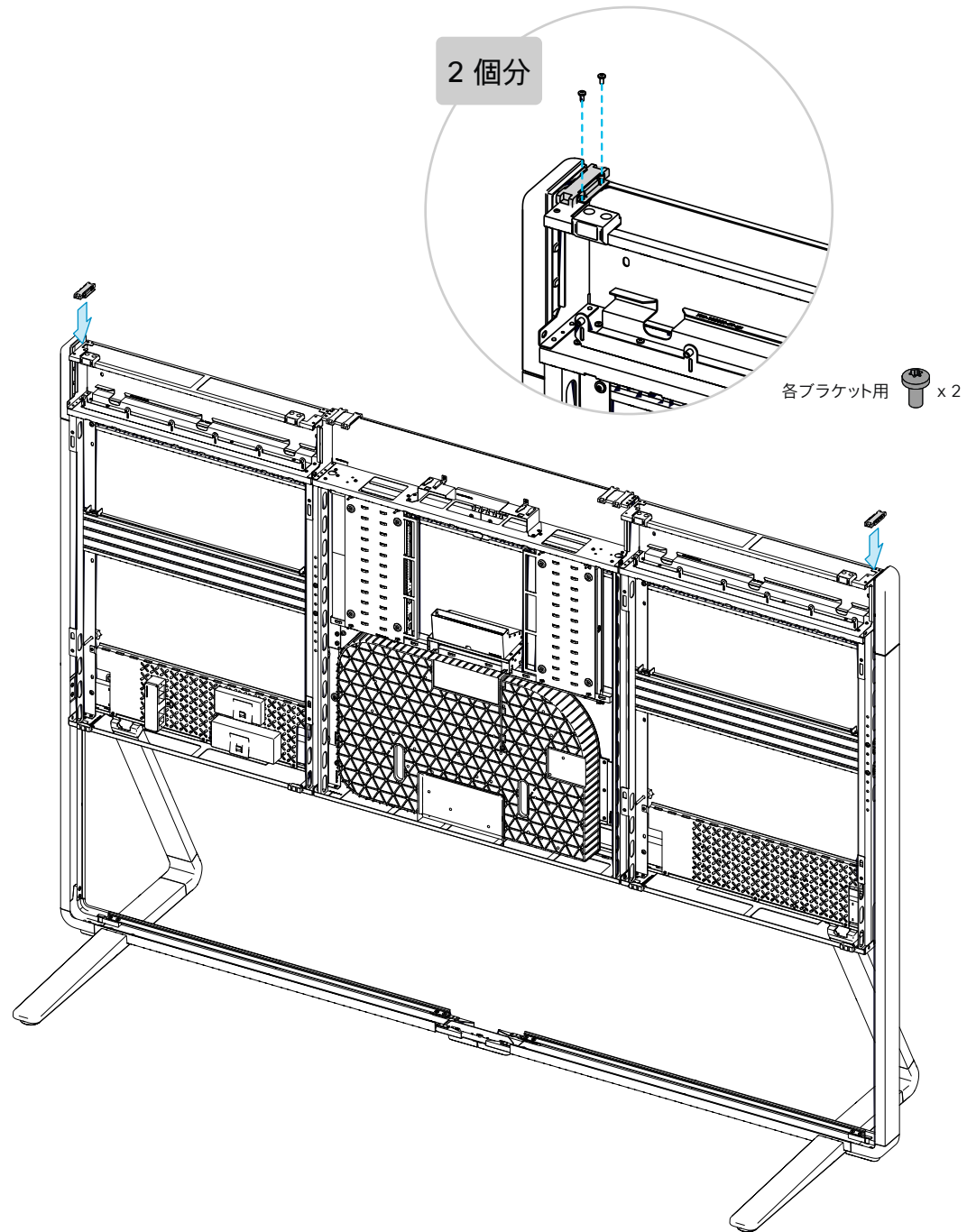
8.3. ファンを増幅器に接続する

図に示すように、ファンケーブル(F1、F2)を配線し、増幅器に接続します。2つのファンは同一のものです。



9. 上部ブラケットを取り付ける

小さな上部ブラケットを、それぞれの側に 1 つ取り付け、それぞれ 2 本のネジ (M4x8, Torx T20) で固定します。



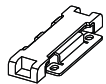
上部ブラケット (箱: Center kit)

上部ブラケット x 2

4 個



(M4x8, Torx T20)



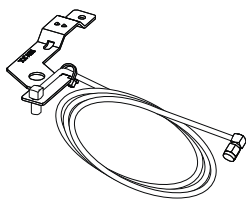
10. アンテナブラケットを取り付ける

システムには、2つのWi-Fiアンテナと1つのBluetooth®アンテナがあります。

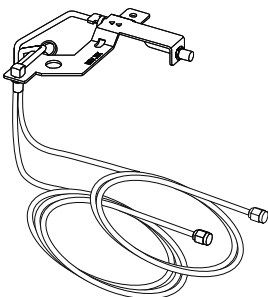
アンテナケーブルはブラケットに事前に取り付けられています。ウィップアンテナ自体は [手順12](#)で取り付けます。

アンテナ (箱: Acc kit 2)

Bluetooth アンテナブラケット x 1 (アンテナケーブル付き)



Wi-Fi アンテナブラケット x 1 (アンテナケーブル x 2 付き)



4 個

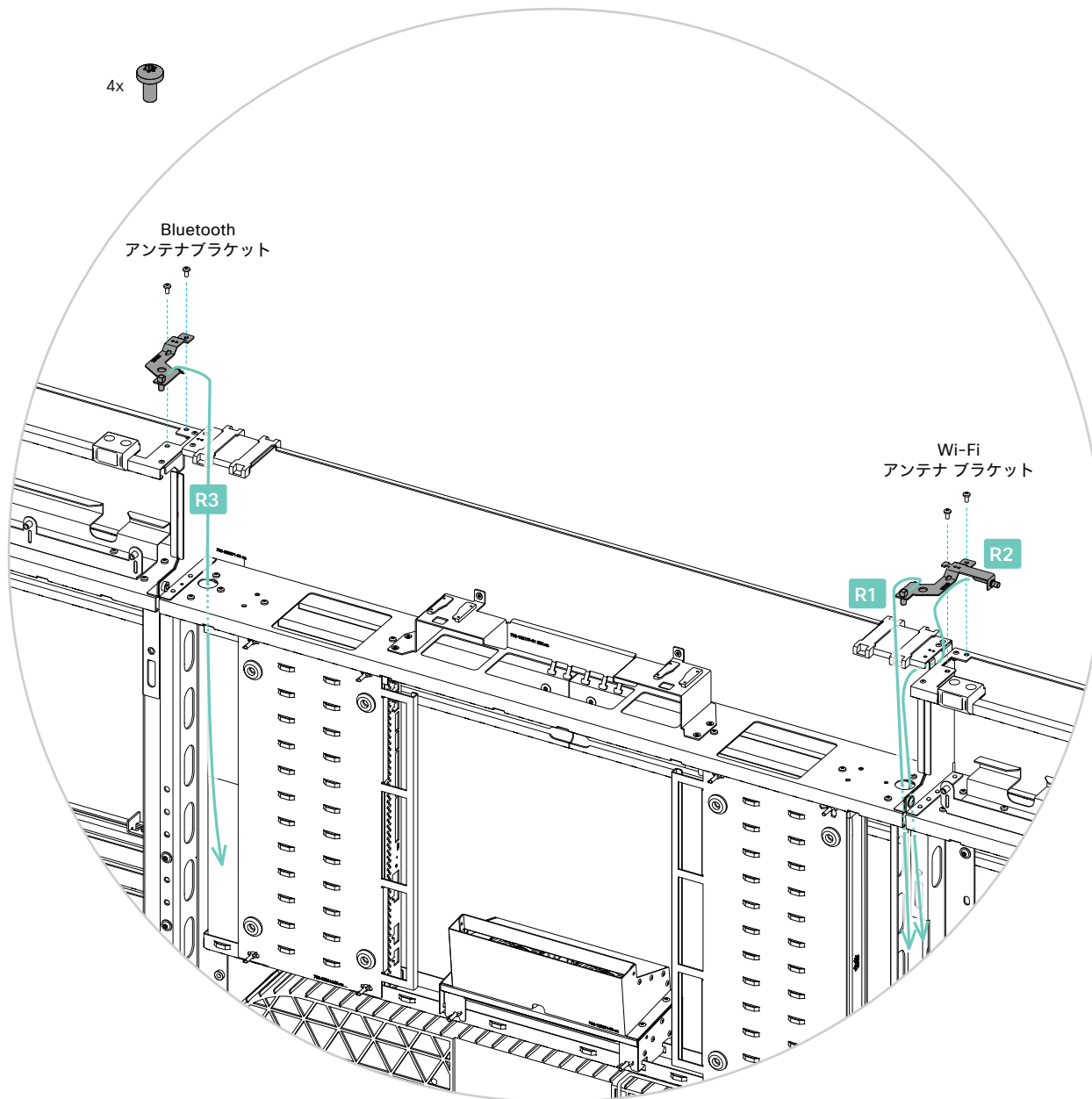


(M4x8, Torx T20)

10.1. アンテナブラケットを固定する

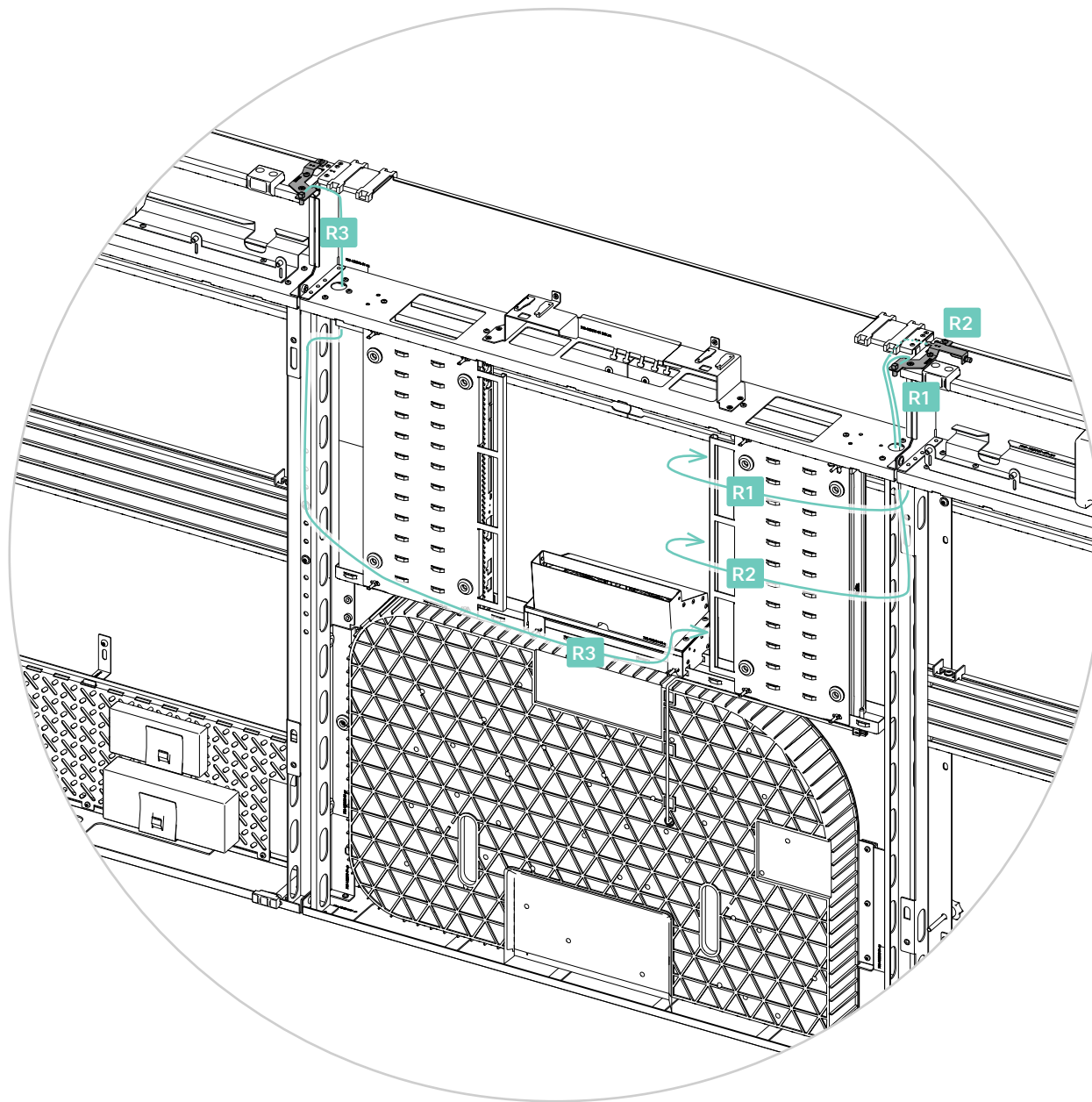
アンテナケーブルを穴に通し、2つのアンテナブラケットをそれぞれ2本のネジで固定します (M4x8, Torx T20)。

4x



10.2. アンテナケーブルを配線し、コーデックに接続する

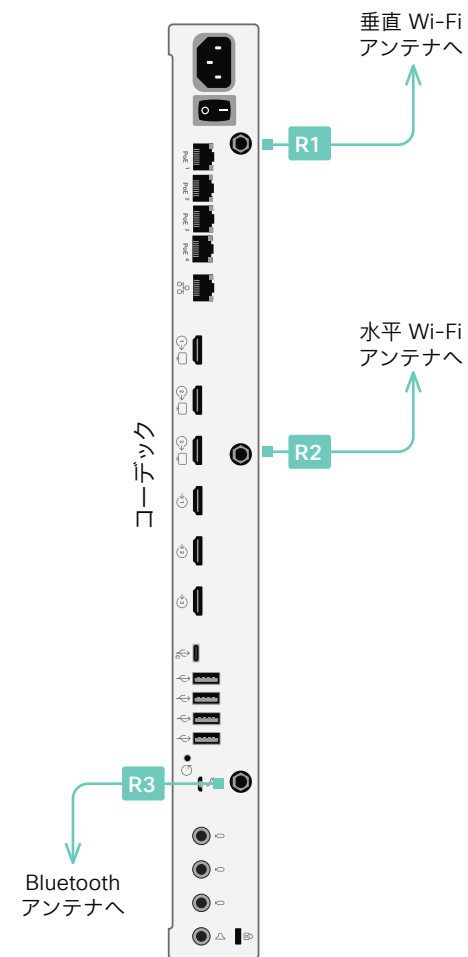
1. 図に示すように、アンテナケーブルを配線します。



2. アンテナケーブルをコーデックに接続します。

正しいアンテナをコーデックの正しいコネクタに接続することが重要です。

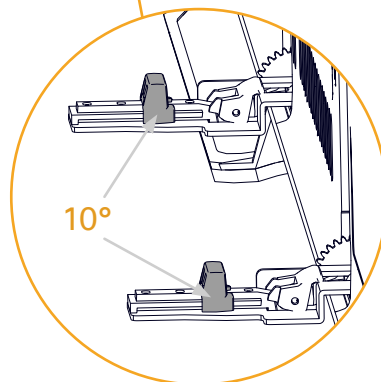
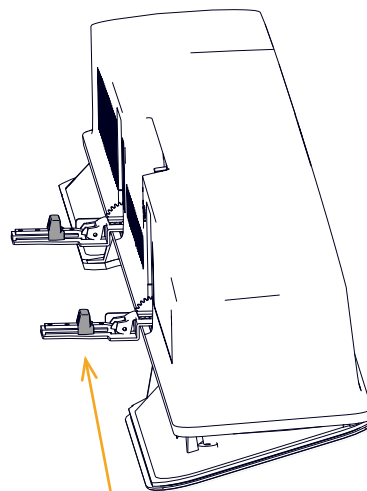
詳細については、システムに付属している完全な配線図を参照してください。オンラインでも入手できます。



11. カメラを挿入する

11.1. カメラの傾斜角度を 10° に設定する

カメラの下部にカメラの傾斜角度を調整するための 2 つのスライダがあります。

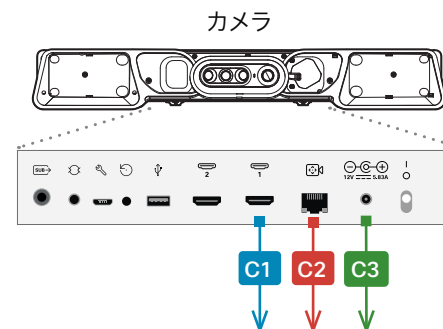


ヒンジをひっくり返して、スライダを 10° 動かします。これは、この製品に必要な傾斜角度です。

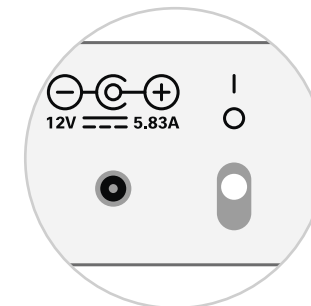
完了したらヒンジをもう一度ひっくり返します。

11.2. ケーブルをカメラに接続する

1. ケーブルをカメラに接続します (C1、C2、C3)。もう一方の端は接続しません。

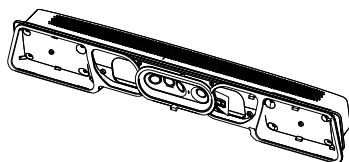


2. カメラの電源スイッチがオンになっていることを確認します。



カメラ

カメラ 1 個 (箱: Camera)

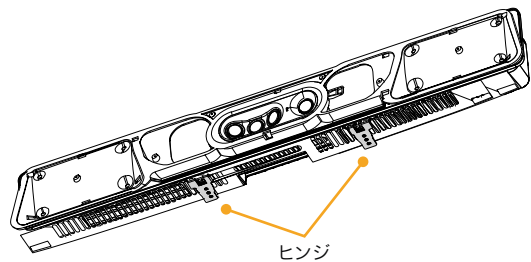


ナイロンケーブルタイ 3 個 (箱: Center kit)

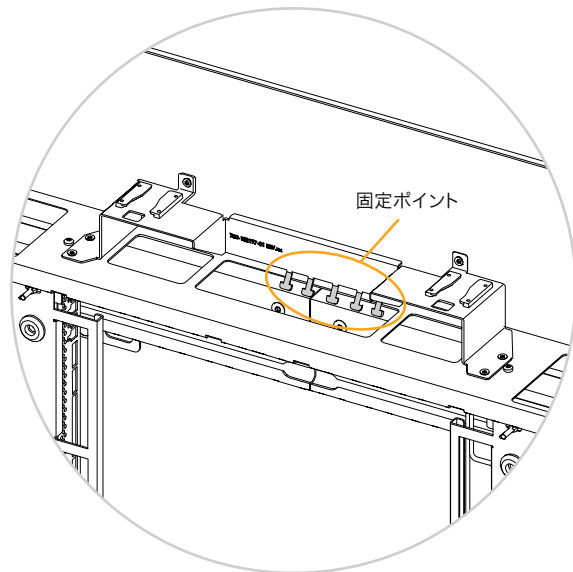


11.3. カメラをブラケットに固定する

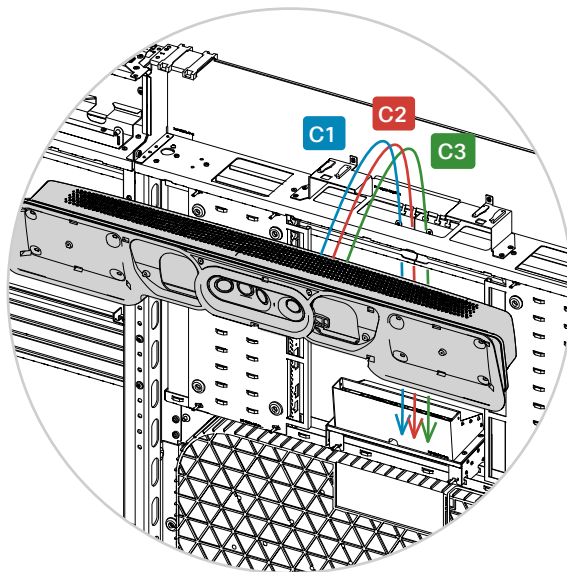
1. カメラの下にある小さなヒンジを確認します。手順 4 でこれをブラケットにはめ込みます。



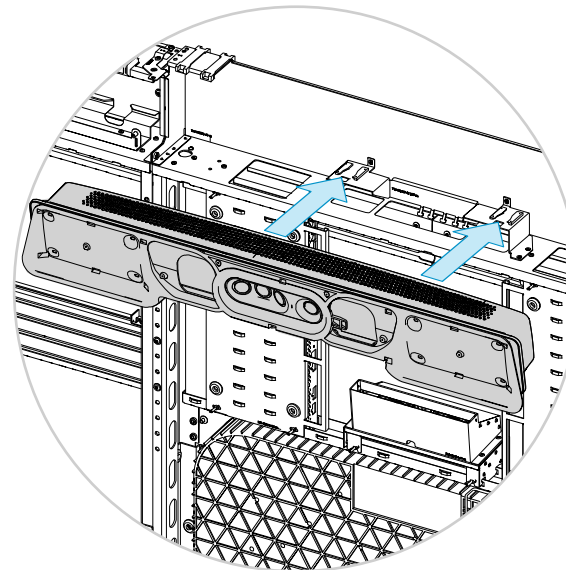
2. カメラブラケットの下にあるこれらの固定ポイントを確認します。手順 5 でカメラケーブルを固定するために使用します。



3. カメラブラケットの横にある穴にケーブルを通します。



4. ケーブルを挟んだり、取り外したりせずに、ブラケットにカメラのヒンジをクリックします。



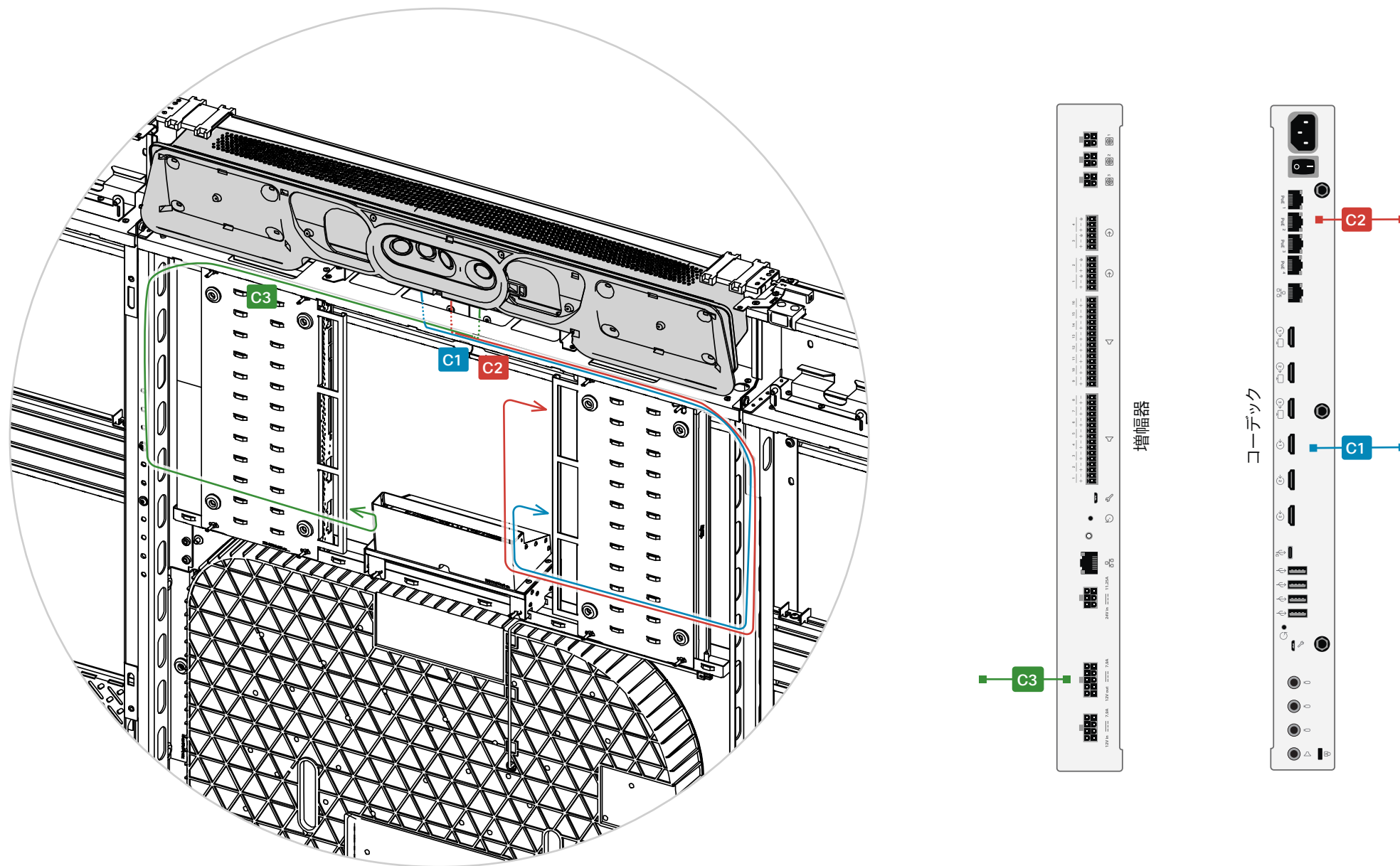
カメラをゆっくりと引っ張って、カメラがしっかりと固定されていることを確認します。

5. カメラケーブルが誤って引き出されないように、付属のナイロン製ケーブルタイでカメラブラケットの下の固定ポイントに固定します。

11.4. カメラをコーデックと増幅器に接続する

図に示すように、ケーブルを配線します。

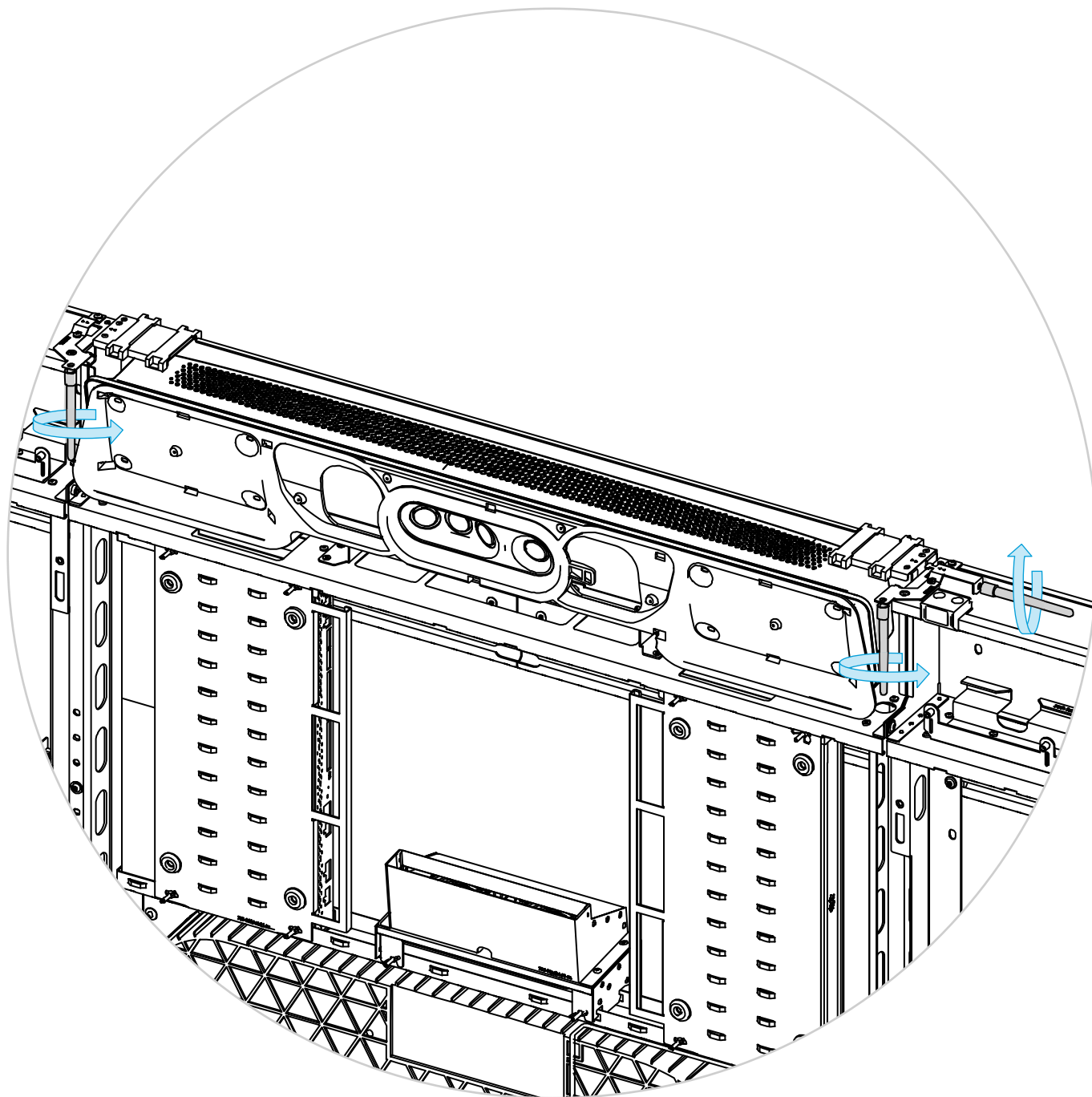
- ・ HDM(C1) ケーブルとカメラ制御(C2)ケーブルをコーデックに接続します。
- ・ 電源ケーブル(C3)を増幅器に接続します。



12. アンテナを取り付ける

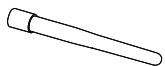
手順10で取り付けしたアンテナブラケットに、ウィップアンテナをカメラの左側に1つ、カメラの右側に2つ取り付けます。

3つのホイップアンテナは同じものです。



アンテナ (箱: Acc kit 2)

アンテナ x 3



13. 画面ケーブルを接続する

画面用の HDMI ケーブル:

- ・ 左(S1)および右(S2)画面の HDMI ケーブルをコーデックに接続します。
- ・ 図に示すように、ケーブルを配線し、画面の端に自由にぶら下げておきます。ケーブルは手順29で画面に接続します。

画面の電源ケーブル:

- ・ 左側(S3)と右側(S4)の画面の電源ケーブルを、対応するサイドモジュールにマジックテープで固定します。

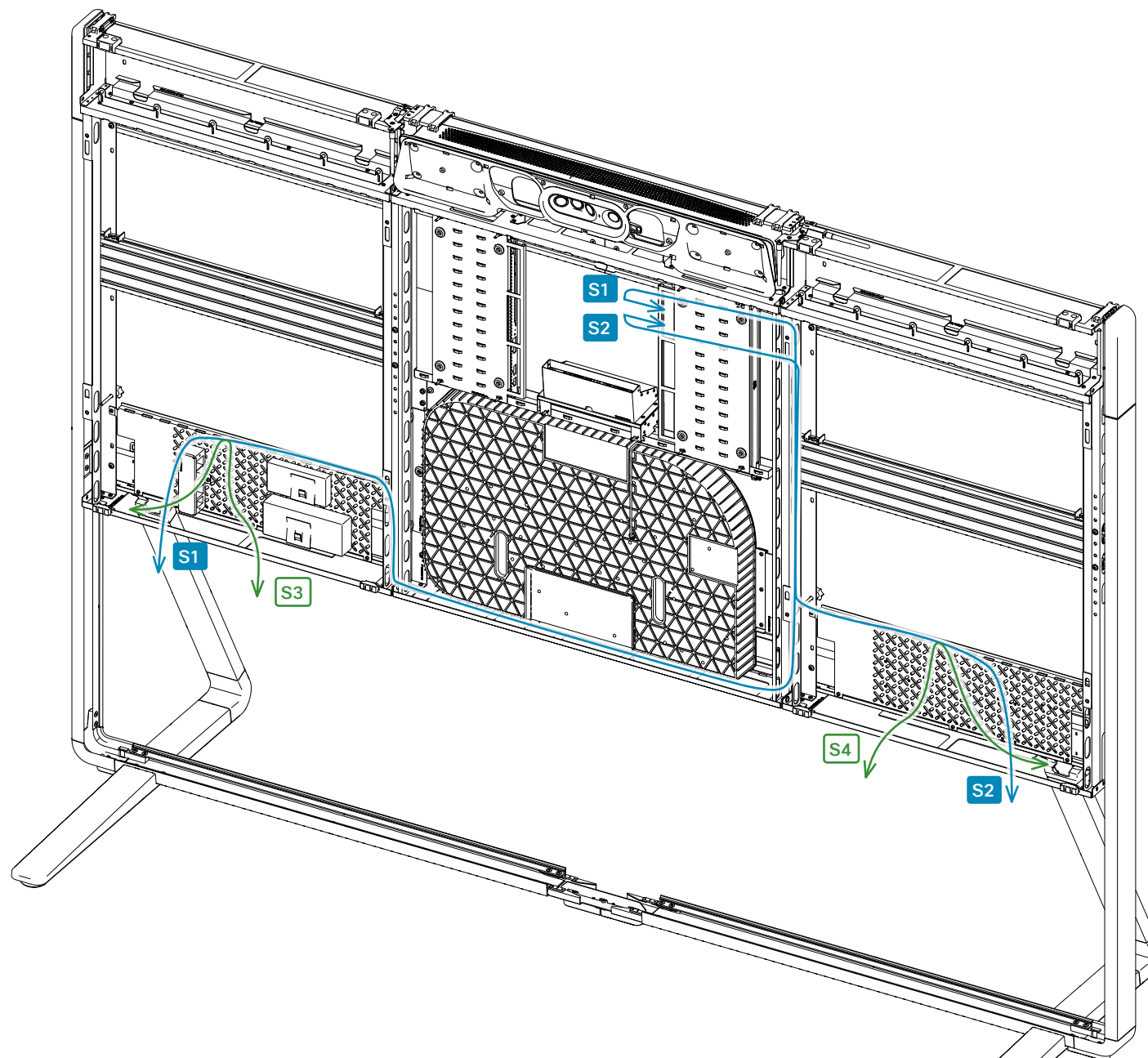
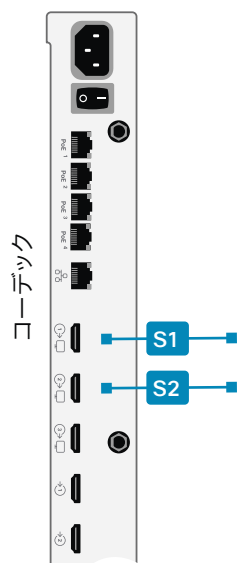
最適な配置は、画面と電源コンセントの位置によって異なります。

これらの電源ケーブルは、ほとんどの場合、画面に同梱されて配送されます。ここで画面ボックスを開くことが不便な場合は、後で電源ケーブルをサイドモジュールに固定できます。

- ・ 壁面ソケットのコンセントにケーブルを配線する場合は、通常のケーブル配線を使用します。

壁面ソケットにまだ接続しないでください。

- ・ ケーブルは手順29で画面に接続します。



14. 電源ケーブルとネットワークケーブルを接続する

増幅器をコーデックに接続します。

- 増幅器とコーデック(D1)間にケーブルを接続します。図に示すように、配線します。

メインのネットワークケーブル:

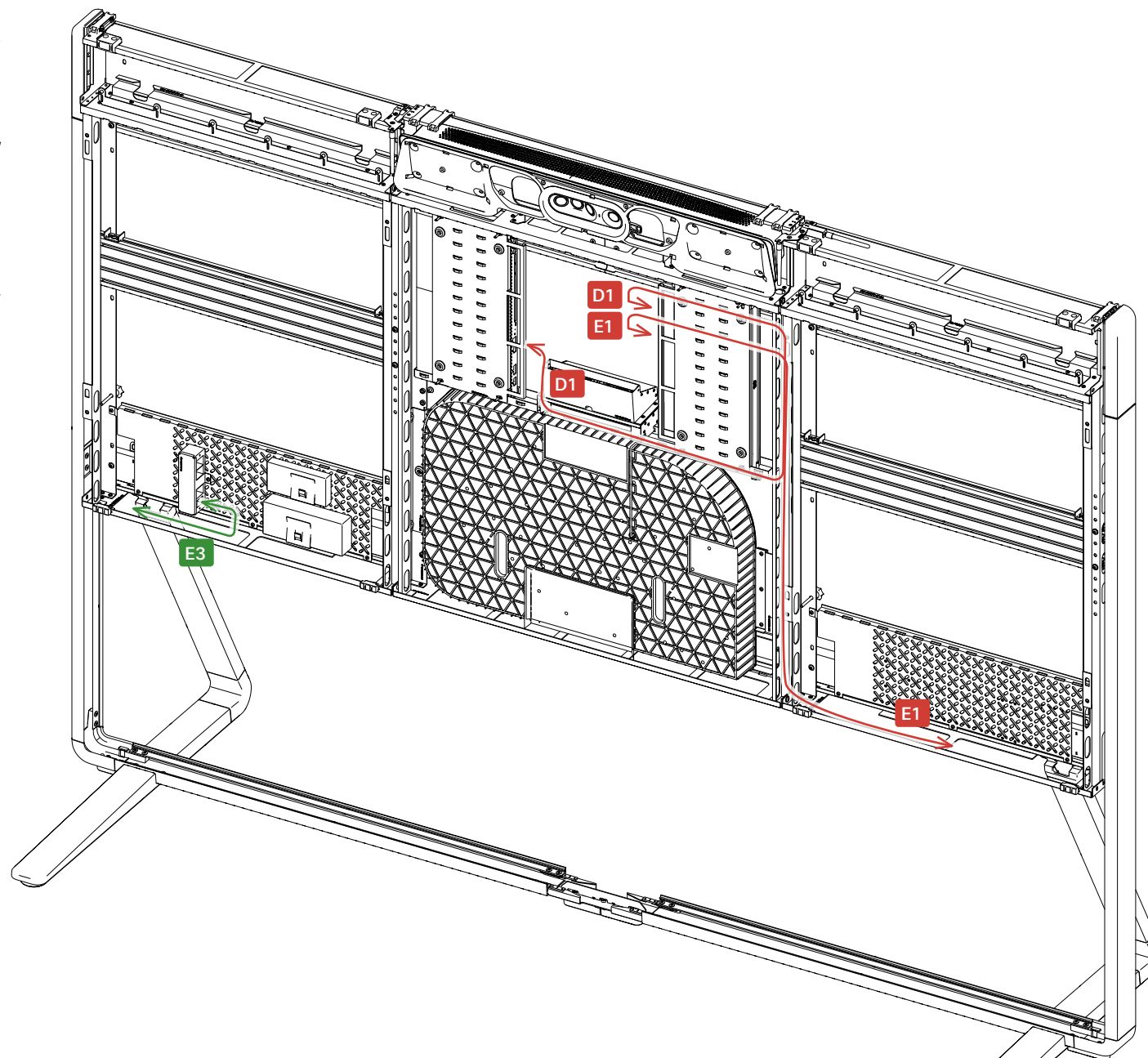
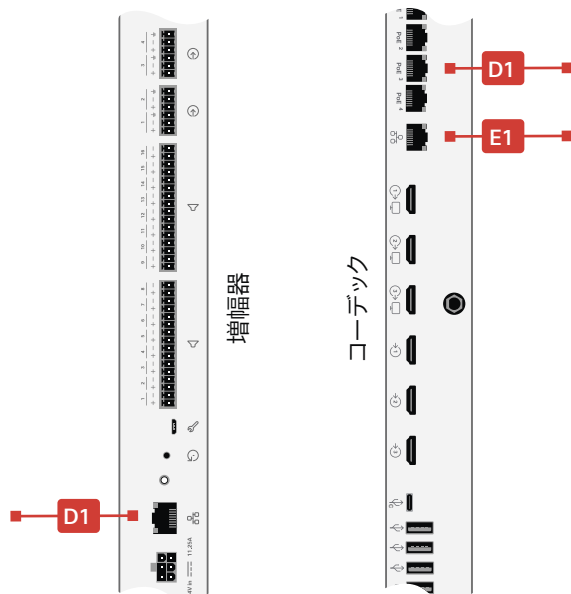
- ネットワークケーブルをコーデック(E1)に接続します。壁面ネットワークソケットに向けてケーブルを配線する場合は、通常のケーブル配線を使用します。

壁面ソケットにまだ接続しないでください。

主電源ケーブル:

- ケーブルを電源ストリップ(E3)に接続します。壁面ネットワークソケットに向けてケーブルを配線する場合は、通常のケーブル配線を使用します。

壁面ソケットにまだ接続しないでください。

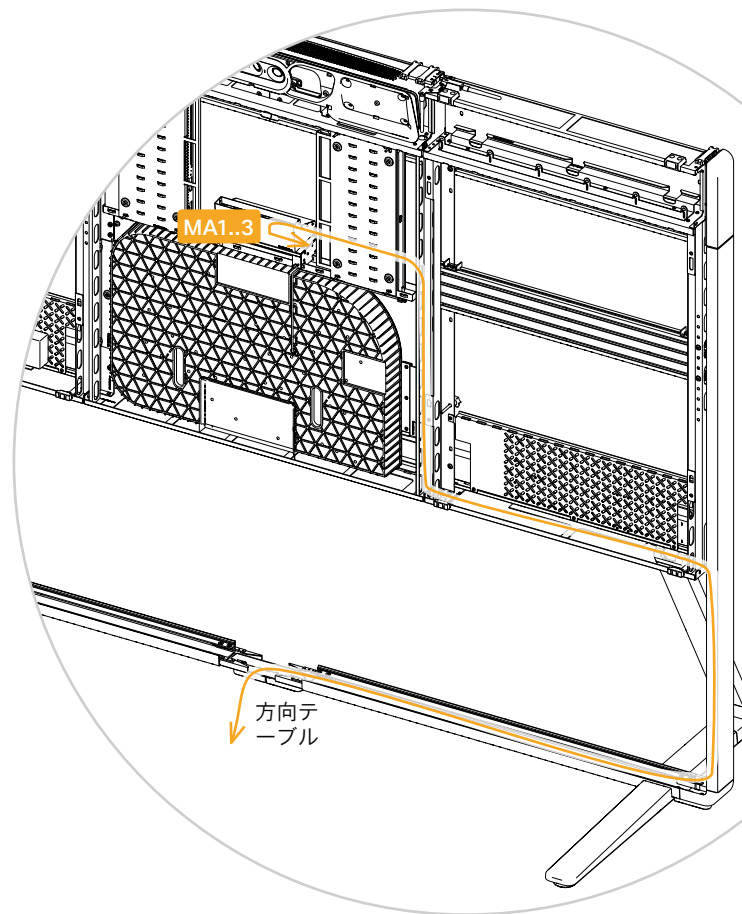
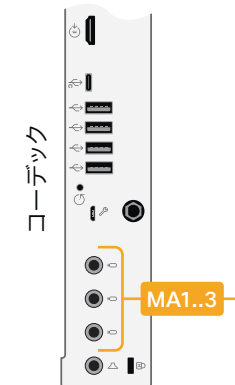


15. マイクを接続する

システムには外付けマイクが必要です。シスコにアナログマイクまたはデジタルマイクを注文した場合や、サードパーティのマイクソリューションを使用している場合があります。

アナログマイク:

- 通常のケーブル配線を使用して、マイクケーブルをテーブルからシステムに配線します。次に、それらをコーデック (MA1..3) に接続します。



マイク (オプション)

テーブルマイク (0..3 個)
箱: Acc kit 2)



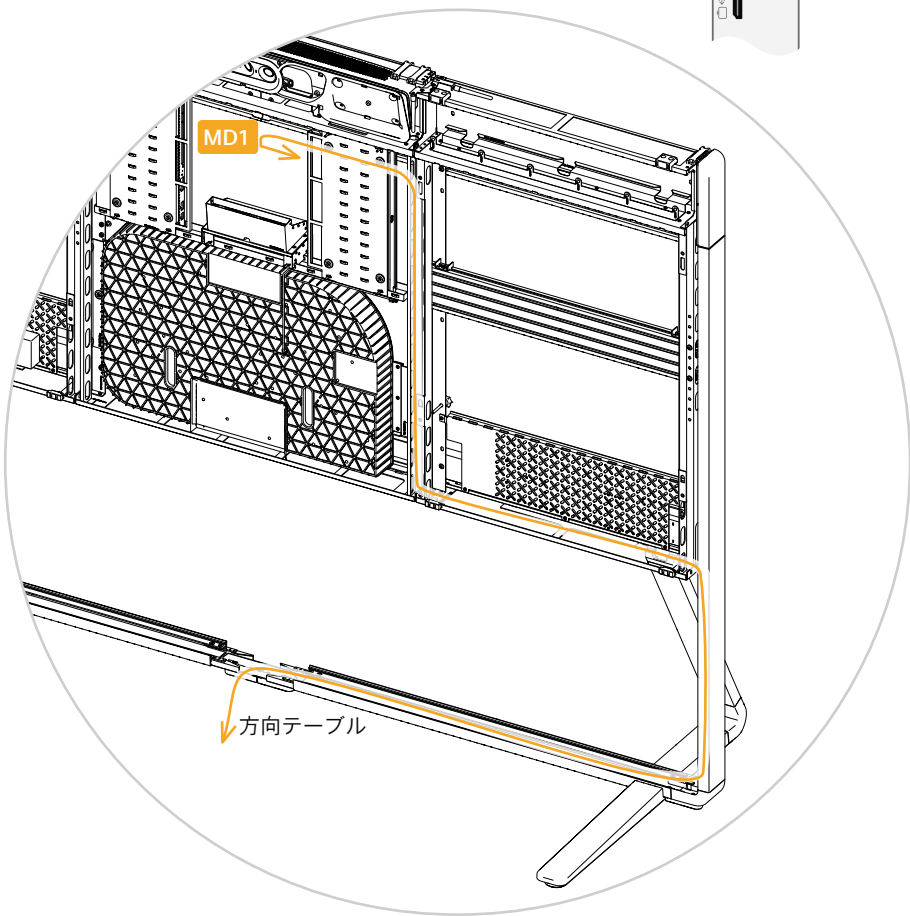
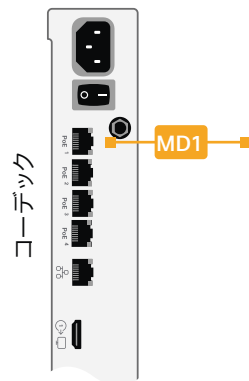
テーブルマイクプロ (0..3 個)
箱: Table Mic Pro)



サードパーティベンダーのマイクを使用している場合があります。

デジタルマイク x 1:

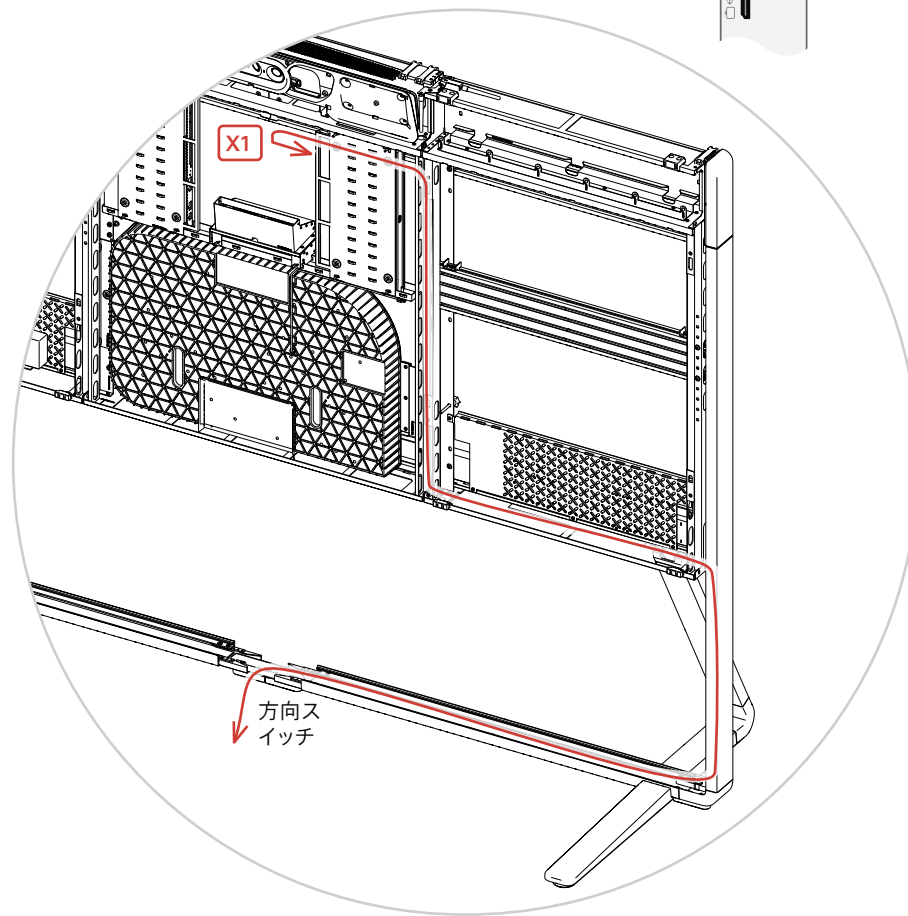
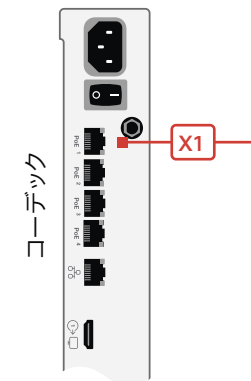
- 通常のケーブル配線を使用して、マイクケーブルをテーブルからシステムに配線します。次に、コーデック(MD1)に接続します。



複数のデジタルマイク:

イーサネットスイッチを介してマイクをコーデックに接続する必要があります(配線図を参照)。

- テーブルのそばにイーサネットスイッチを配置し、コーデック(x 1)に接続します。また、スイッチを電源(x 2)に接続します。
- マイクをスイッチ(MD1..3)に接続します。



16. Room Navigator とプレゼンテーションケーブルを接続する

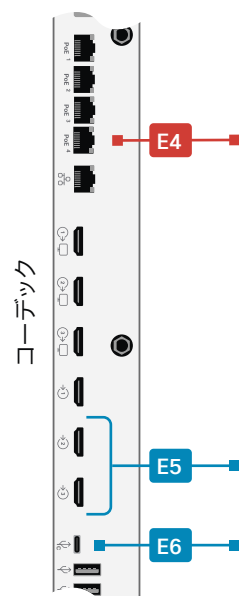
Room Navigator:

- Room Navigator をコーデック(E4)に接続します。

または、手順15でデジタルマイクについて説明したように、テーブルによってイーサネットスイッチを接続した場合は、コーデックではなく、このスイッチに Room Navigator (E4)を接続することもできます。この代替案は、配線図には示されていません。

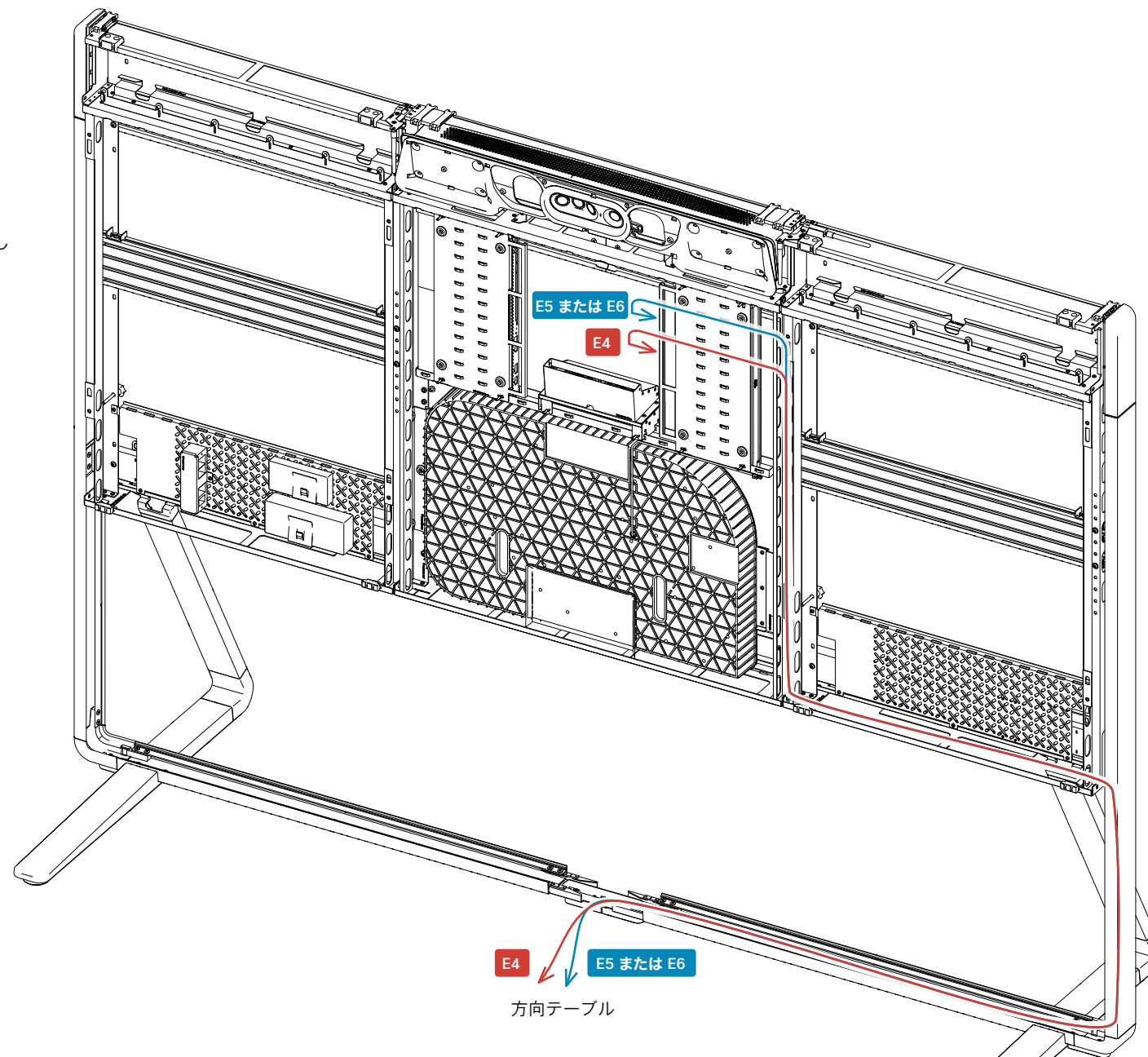
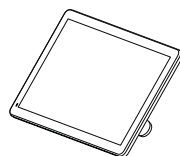
プレゼンテーションケーブル:

- 1 本以上のプレゼンテーションケーブルをコーデックに接続します。HDMI (E5)または USB-C (E6)を使用できます。
- テーブルに向かってケーブルを配線する場合は、通常のケーブル配線を使用します。



Room Navigator

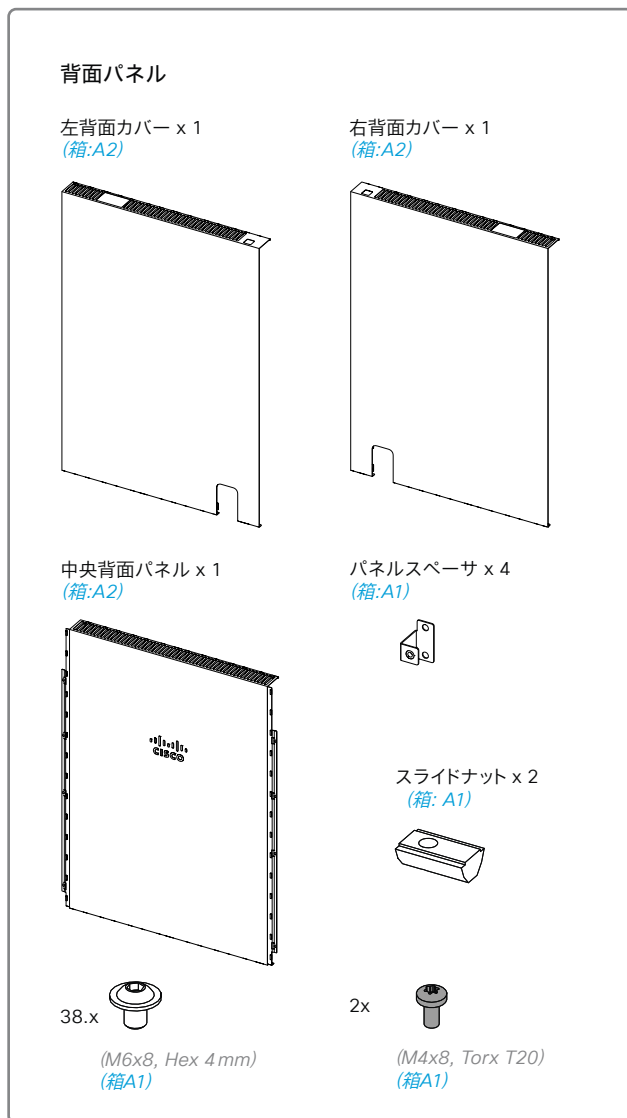
Room Navigator x 1
(箱: Navigator)



17. 背面パネルの取り付け

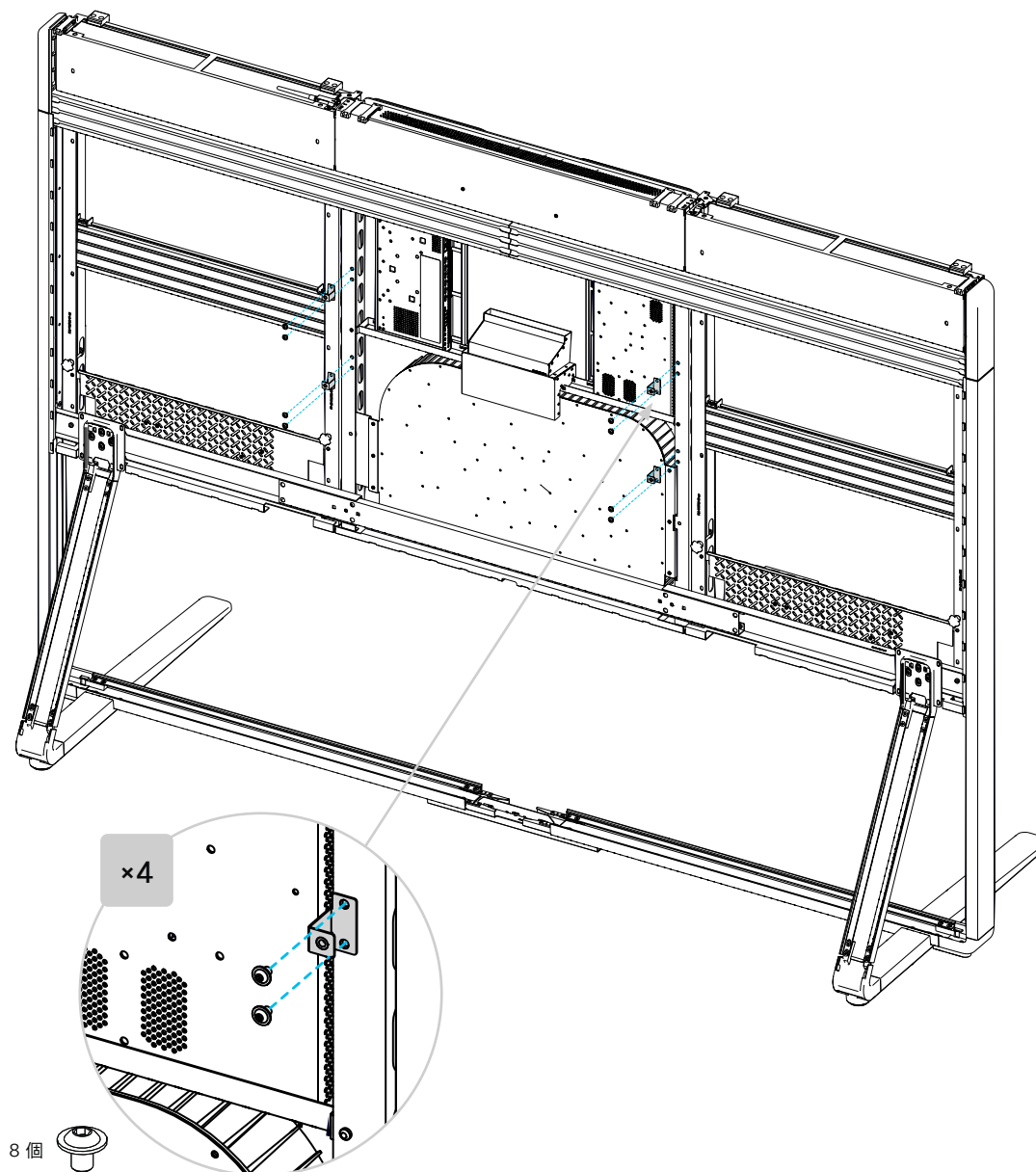
システムには、3枚の背面パネルがあります。中央のパネルをまず取り付け、それから左右のパネルを取り付けます。

がたつき音を避けるため、説明のように、パネルをゴムガスケットの上に載せます。また、アンテナケーブルに干渉しないようにします。



17.1. 中央パネルのスペーサを固定する

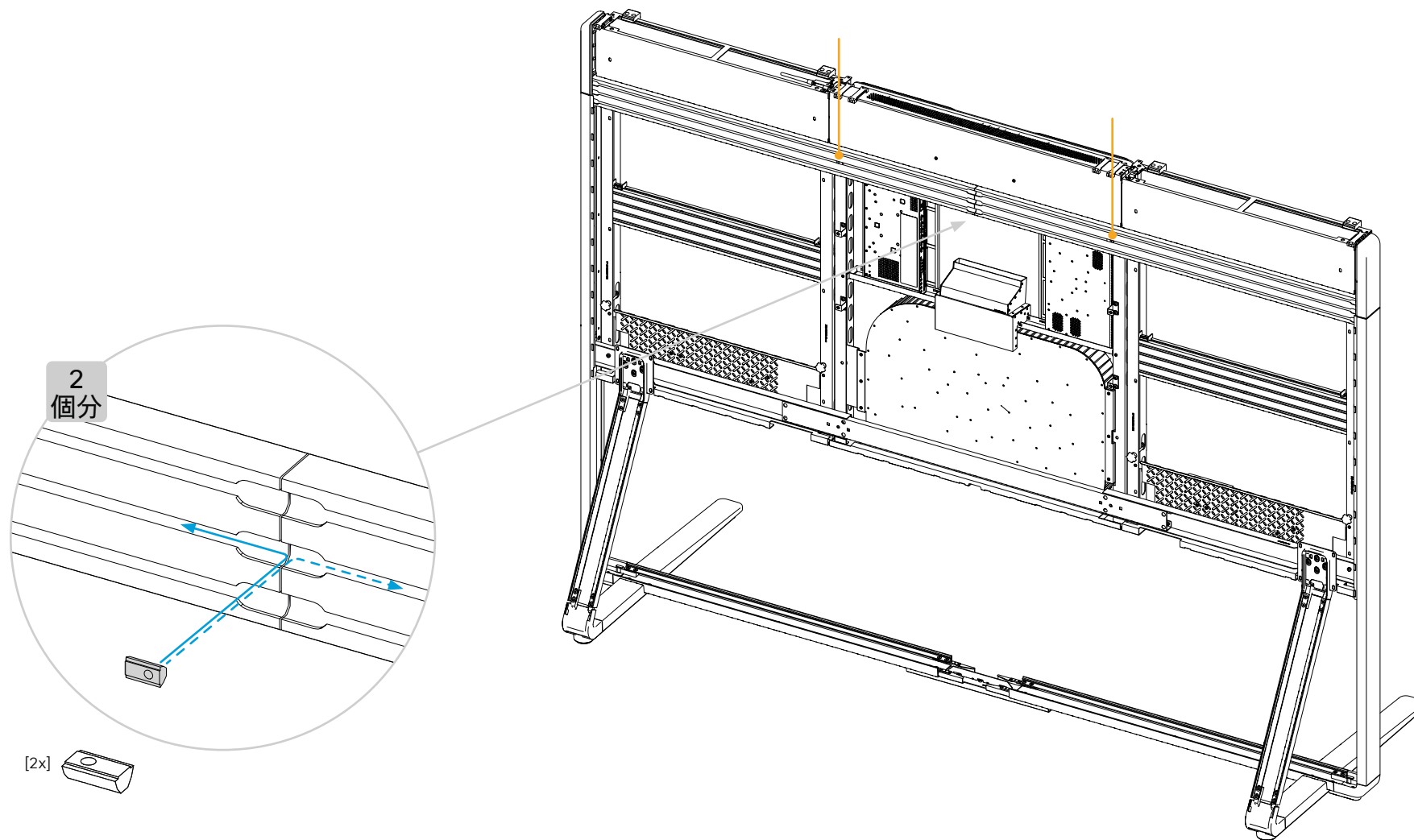
4つの背面パネルスペーサをそれぞれ2本のネジ(M6x8, Hex 4mm)で固定します。



17.2. ナットをビームのノッチにスライドさせる

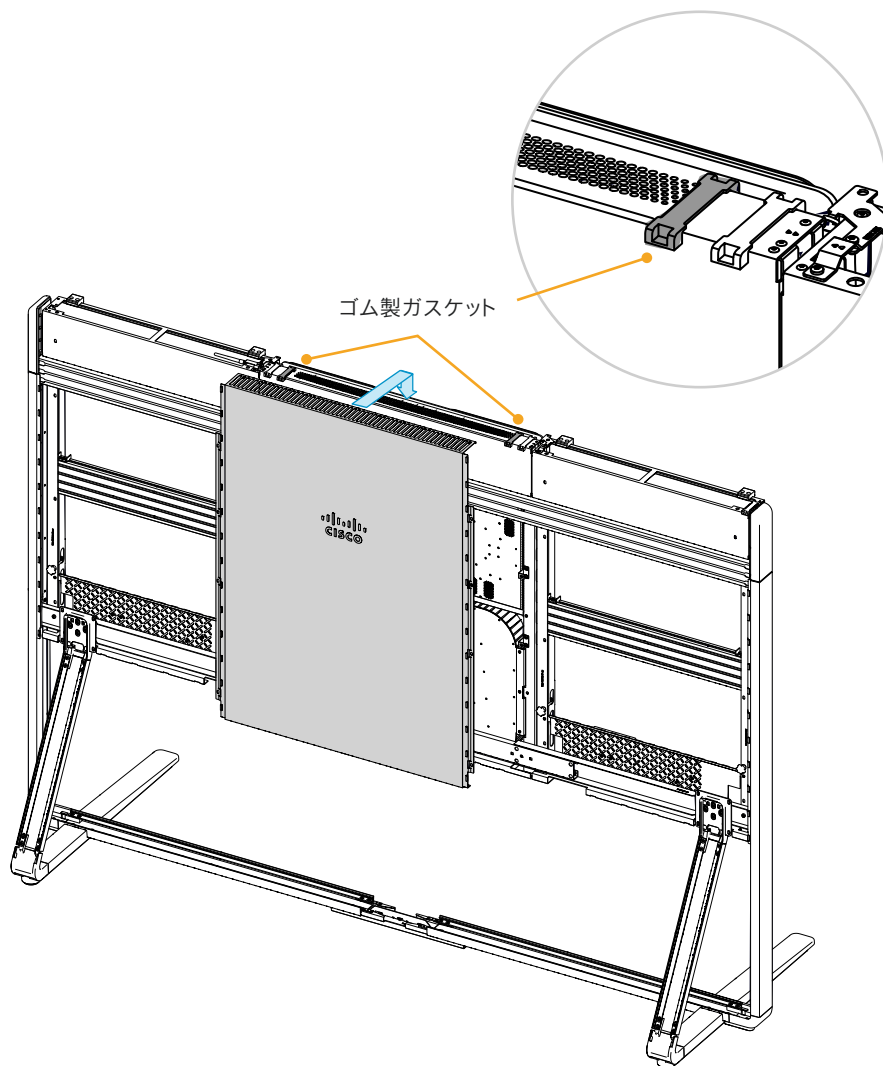
2 個のナットを、ビームの背側の側面の中央ノッチにスライドさせます。ナットを図のように配置します。

これらのナットは、[手順 17.3](#) で中央パネルを固定する際に必要です。

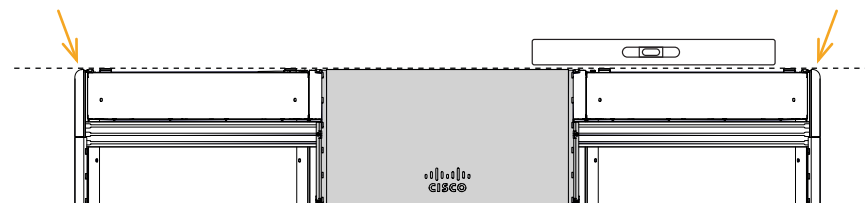


17.3. センターパネルを取り付ける

1. センターパネルを載せるゴム製のガスケットを確認します。内側ガスケットです。
2. 中央のパネルはこれらのガスケットに掛けます。
1人はシステム背面からパネルを持ち上げ、もう1人は(脚立に乗って)システム前面からガスケットにパネルを乗せるのをガイドするという方法を推奨します。

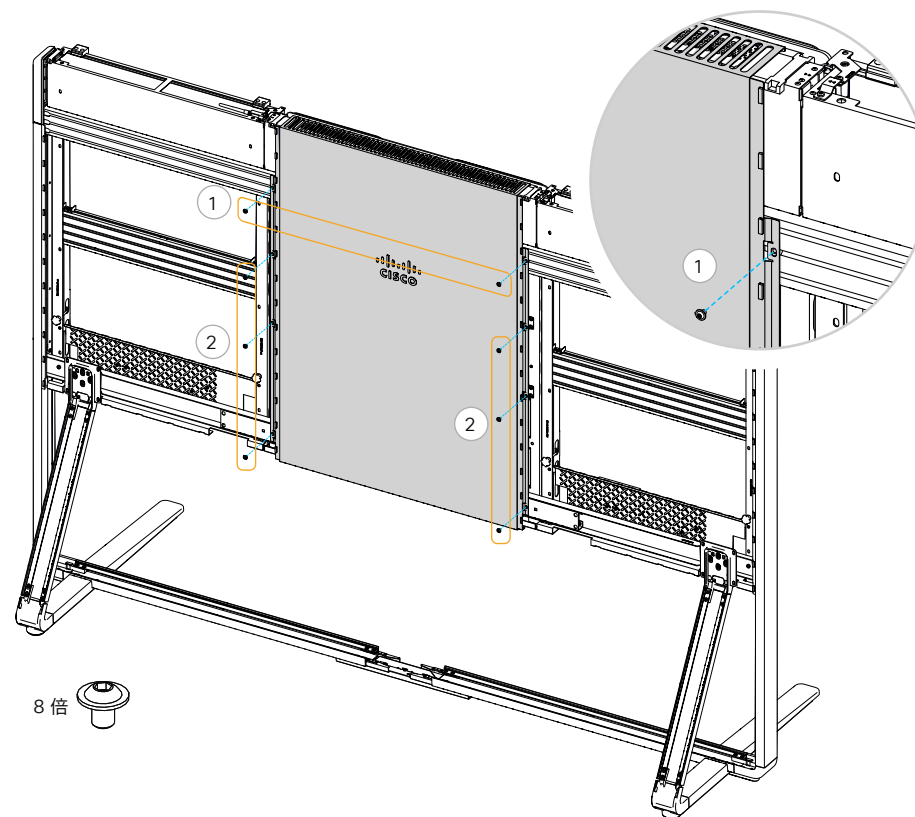


3. パネルの上部をシステムの2つのコーナーに合わせ、上側の2本のネジ(M6x8, Hex 4mm)で固定します。上部ネジは、手順17.2で追加したスライドナットに挿入します。



パネルをコーナーに完全に合わせる必要があります。このことは、背面パネルのすべてのネジが容易に入るようにするため、そしてきちんとした仕上がりにするために必要です。

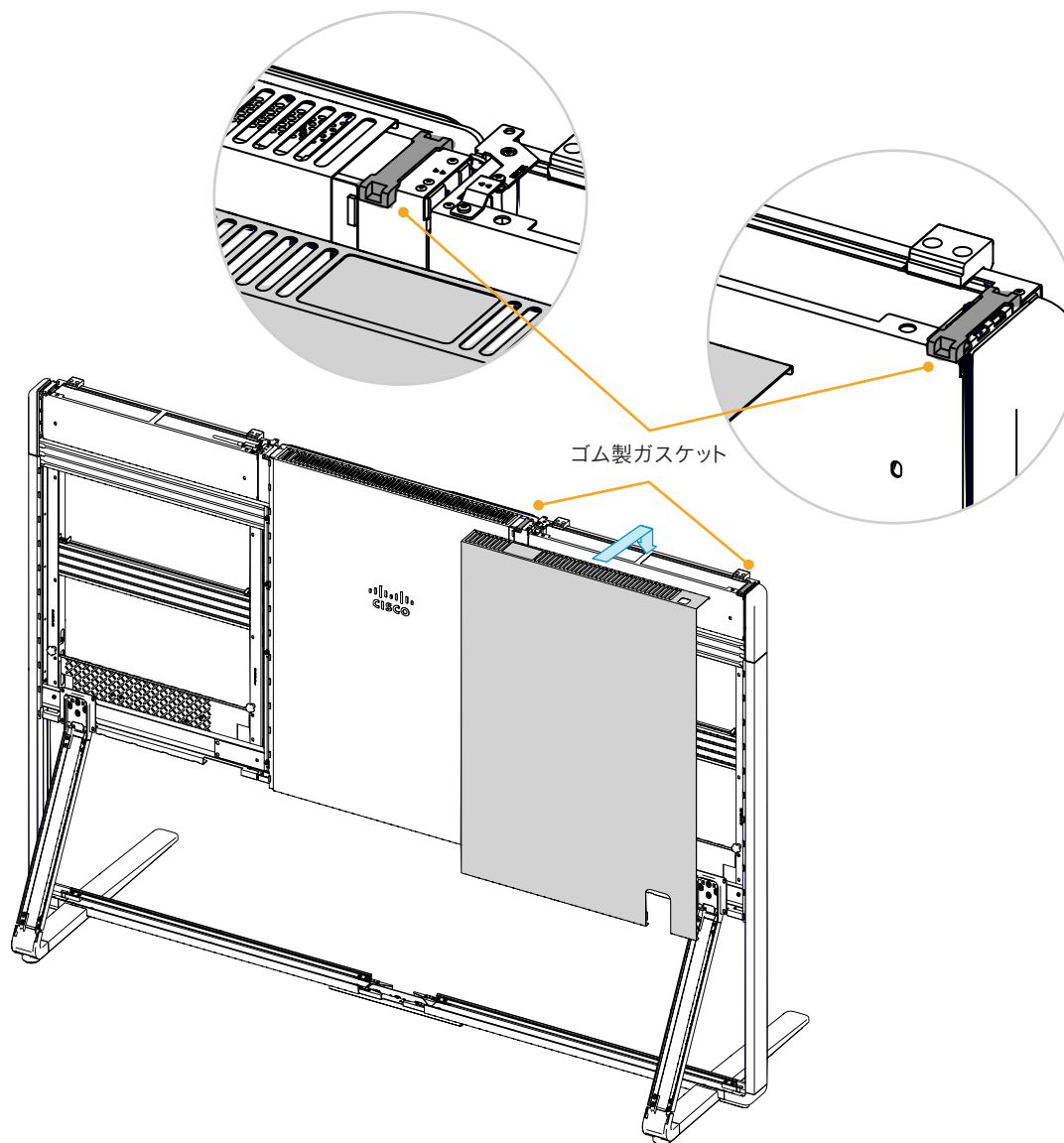
4. 残りの6本のネジ(M6x8, Hex 4mm)で固定します。



17.4. 左側パネルを取り付ける

側面パネルは 1 枚ずつ取り付けることを推奨します。このガイドでは、正面から見て左側のパネルをまず取り付けるようにしています。左側パネルと右側パネルで手順は同じです。

1. センターパネルを載せるゴム製のガスケットを確認します。
2. 側面パネルをガスケットに掛けます。
1 人はシステム背面からパネルを持ち上げ、もう 1 人は(脚立に乗って)システム前面からガスケットにパネルを乗せるのをガイドするという方法を推奨します。
3. パネルの位置を微調整し、次のページの図のように固定します。

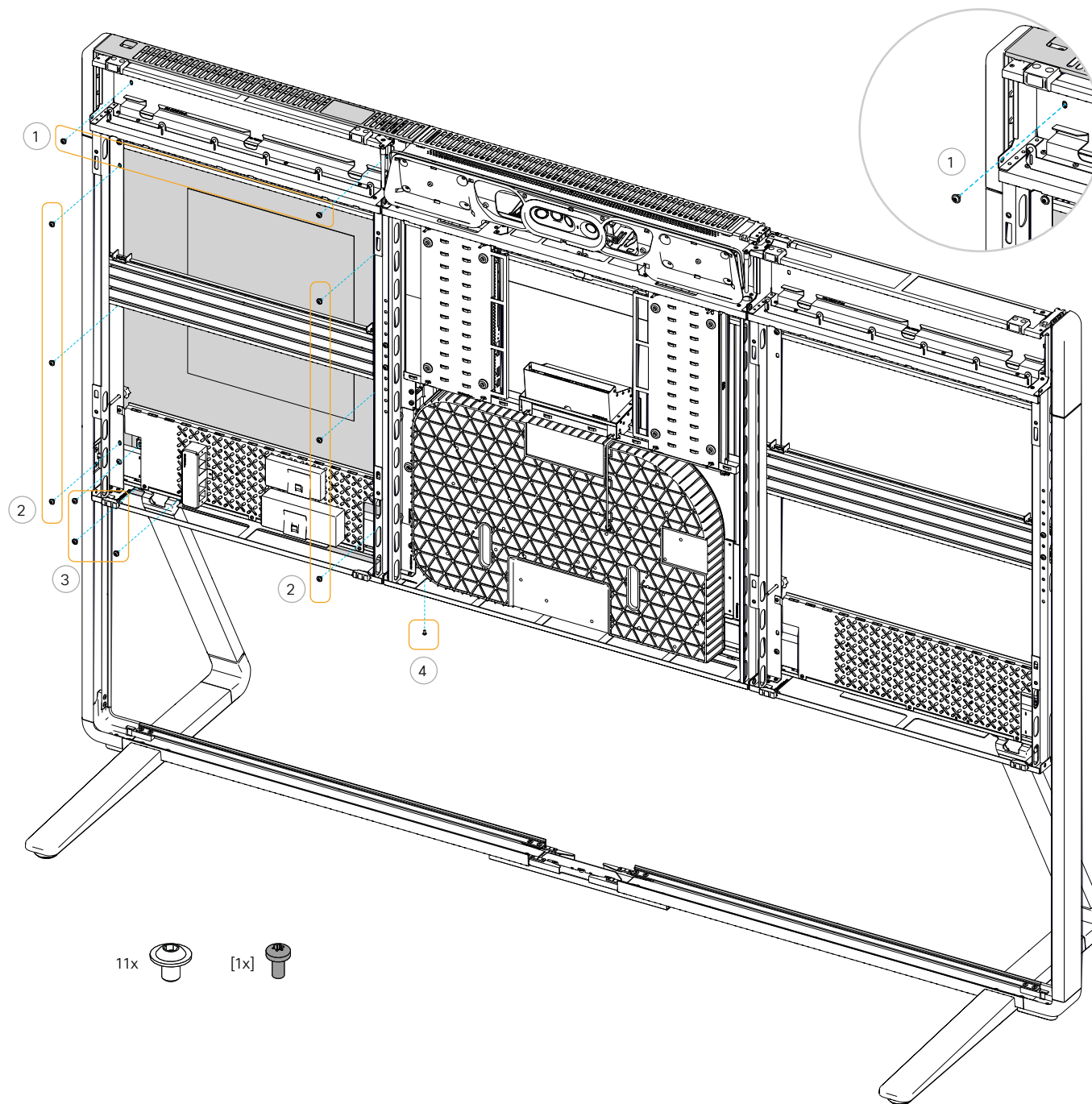


ネジは次の順序で固定します。

1. パネルの上部をシステムのコーナーおよび中央パネルに合わせます。次に、2 本の上部ネジ (M6x8, Hex 4mm) を締めます。

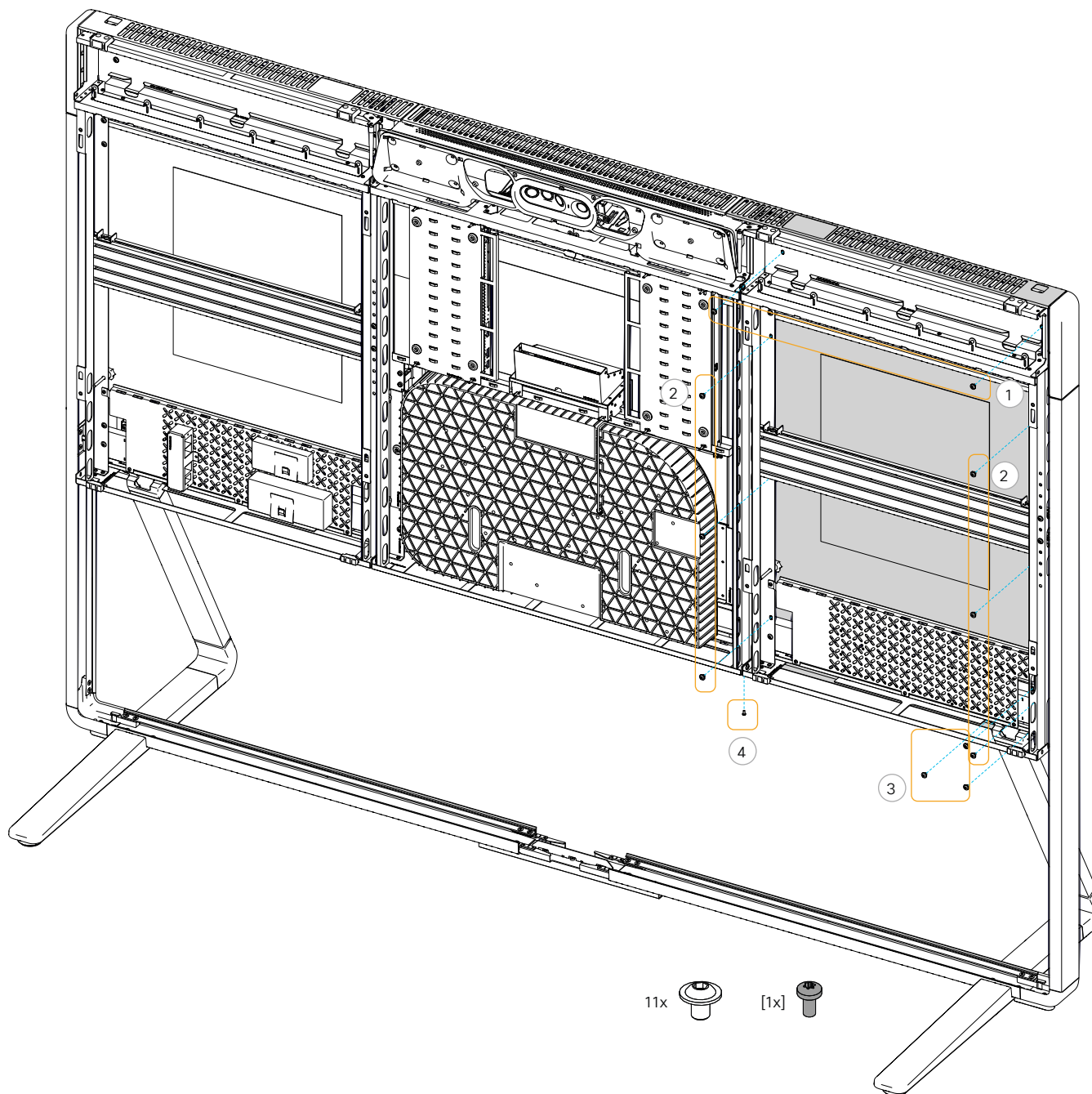
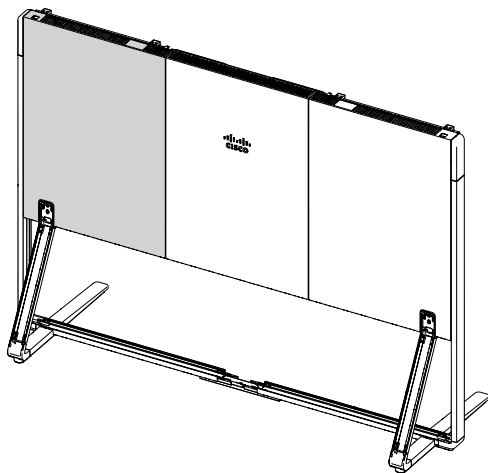
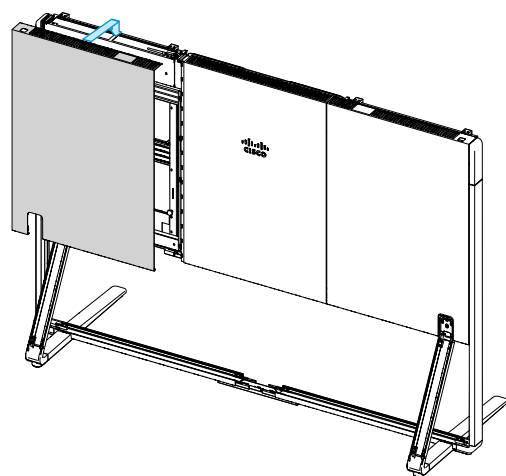
パネルをコーナーに完全に合わせる**ことが重要です**。このことは、背面パネルのすべてのネジが容易に入るようにするため、そしてきちんとした仕上がりにするために必要です。

2. 残りの 6 本のネジ (M6x8, Hex 4mm) でパネルの側面に沿って固定します。
3. 3 本のネジ (M6x8, Hex 4mm) で、パネルを後脚に固定します。
4. 1 本のネジ (M4x8, Torx T20) で、下から側面パネルを中央パネルに固定します。



17.5. 右側パネルを取り付ける

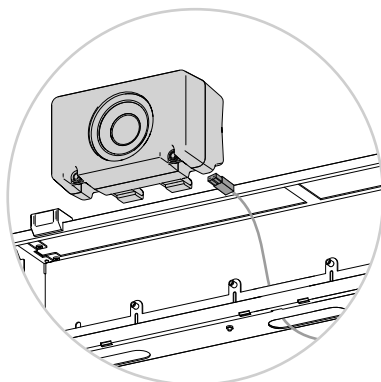
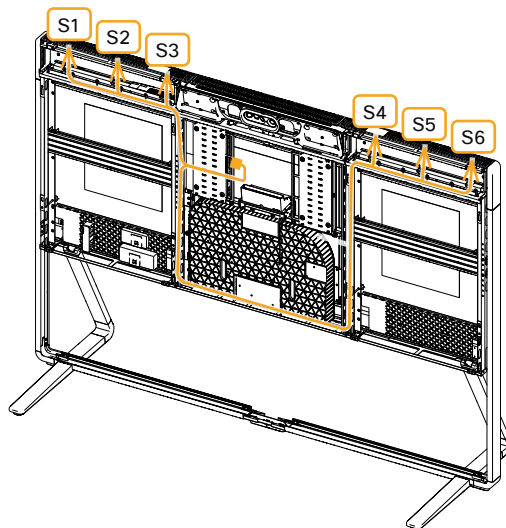
反対側のパネルについても、手順 17.4 を繰り返します。



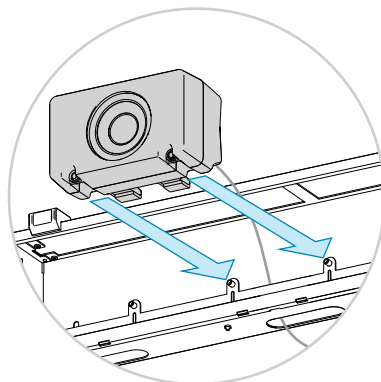
18. スピーカーを取り付ける

手順 7.1 で、スピーカーのケーブルを正しい位置に誘導しました。ケーブルには、S1、S2、S3、S4、S5、および S6 のラベルが付いています。

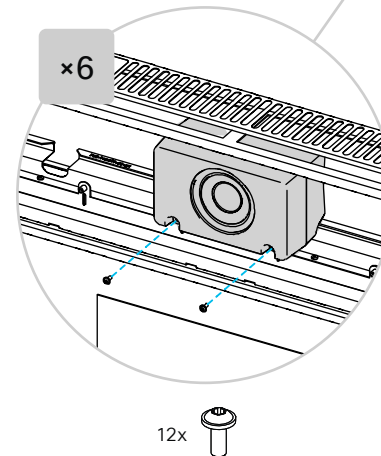
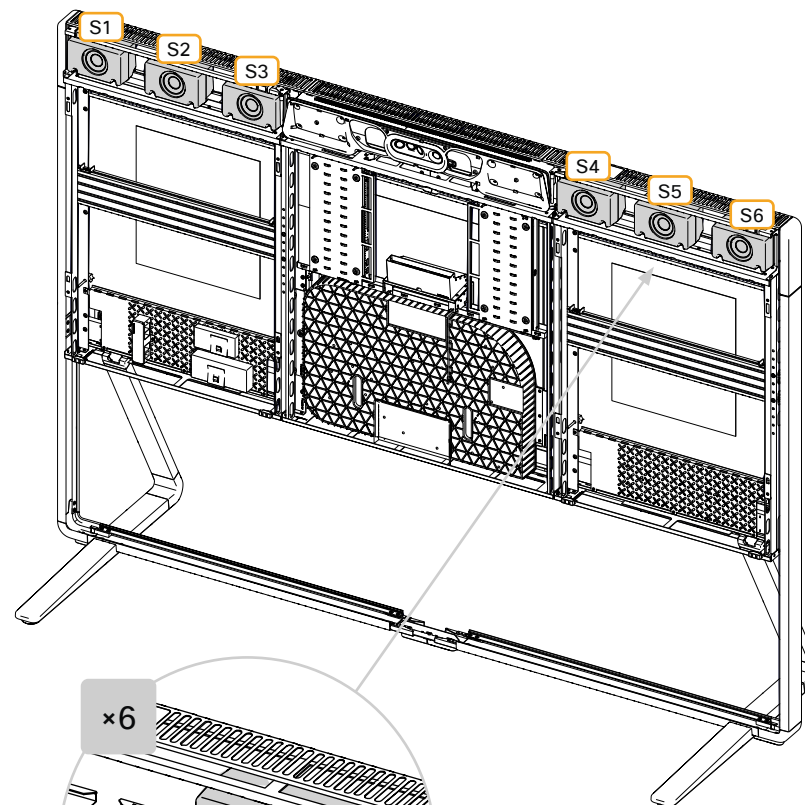
スピーカーは同じものが使用されています。すべてのスピーカーに対してこの手順を繰り返します。カメラのそれぞれの側に 3 つ取り付けます。



1. スピーカーに正しいケーブルを接続します。
ケーブルには、左から S1 ~ S6 とマークされています (図を参照)。



2. スピーカーをペグに挿入します。
ゴム製のガスケットがしっかりとペグに固定されているのを確認します。
ケーブルがスピーカーに触れないように注意します。触れている場合、がたがたという雑音が出る場合があります。
3. 2 本のネジを使用して各スピーカーを固定します (M4x10, Torx T20)。



ラウドスピーカー

スピーカー x 6 (箱: Loudspeakers)



12 個



(M4x10, Torx T20)
(箱Center kit)

19. 配線をまとめて電源をチェックする

19.1. 配線をまとめる

これで、グリルと画面の背後の配線がすべて完了しました。

ここで、面ファスナーを使ってすべてのケーブルをきちんとまとめ、フレームに固定することを推奨します。がたつきの音が出ないようにするため、ケーブルが低音部およびスピーカーから離れていることを確認します。

面ファスナーストラップで、低音部の下のケーブルをまとめます。

19.2. 電源のチェック

この時点で、システムを**一時的に**コンセントに接続し、以下のコンポーネントの LED が点灯することを確認するように推奨します。

1. カメラ(電源スイッチあり)
2. コーデック(電源スイッチあり)
3. アンプ(電源スイッチなし)
4. 24 V PSU(電源スイッチあり)
5. Room Navigator (電源 スイッチなし)

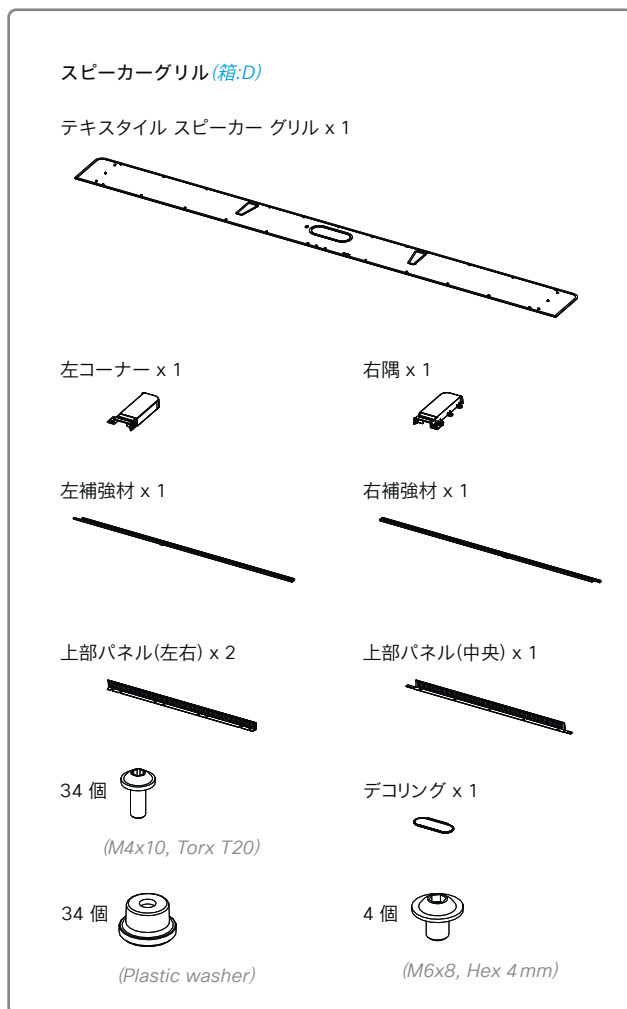
LED が予想通り点灯したら、**ソケットをコンセントから抜き、取り付けを続行します。**

LEDが正常に点灯しない場合は、前に戻って、ケーブル配線と電源スイッチを確認してください。

20. スピーカーグリルを取り付ける

スピーカーグリル(この手順で組み立て)と下部グリル(手順 21 で組み立て)は、どちらも複数の部品で構成されています。コーナーと補強材は両方のグリルで同じです。上部/下部パネルは異なります。

部品にはマークがあり、左側と右側どちらに何を配置するかをを区別しています。図に示すように、左右とはグリルを寝かせることを示します。



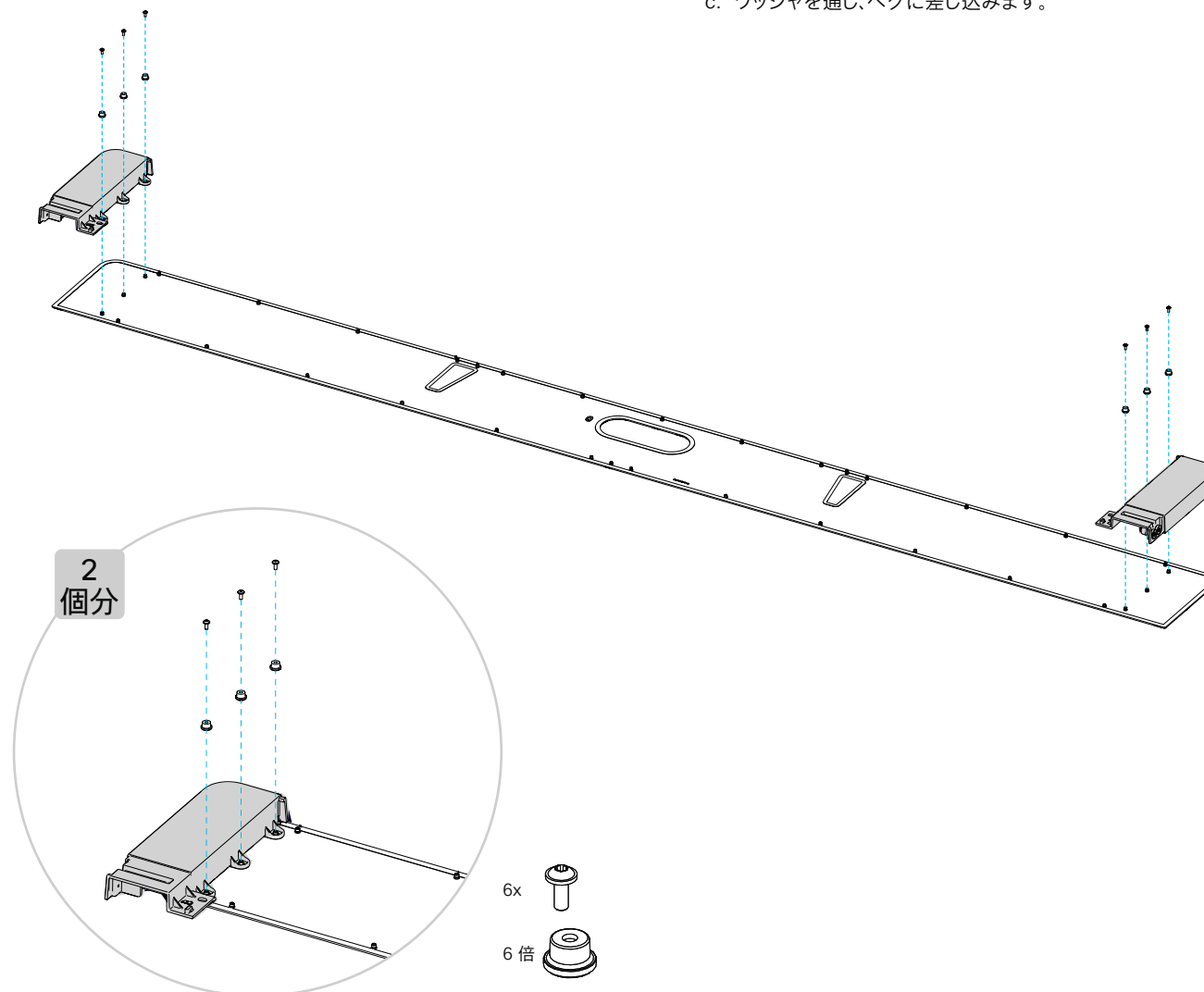
20.1. スピーカーグリルを組み立てる

1. テキスタイル スピーカー グリルを、前面を下にして平らで清潔な場所に置きます。

2. グリルのペグには、ネジ用のネジ穴があります。

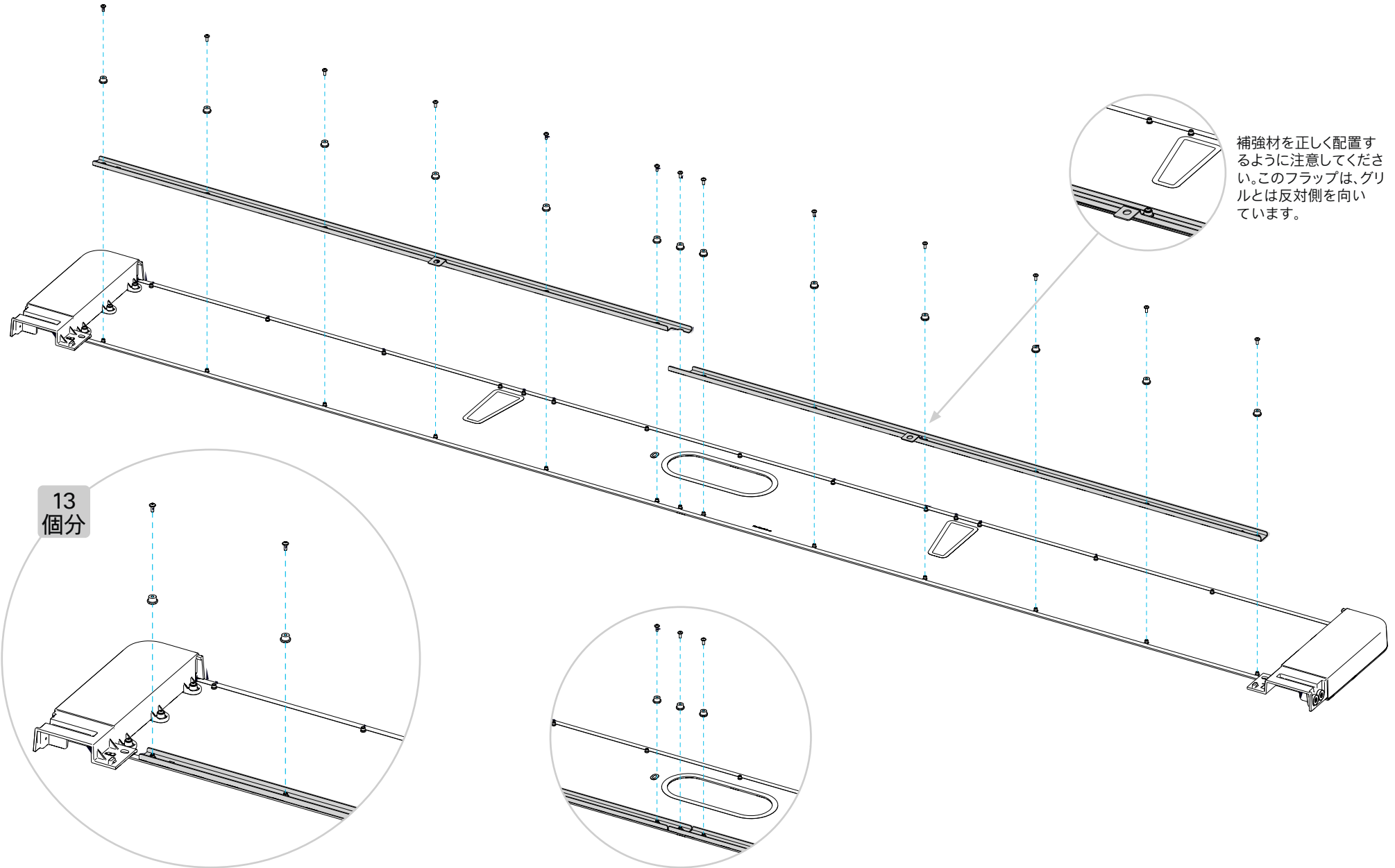
左右のコーナーは、各コーナーの 3 本のネジ (M4x10, Torx T20) とワッシャ (Plastic washer) でグリルの背面に固定されています。

- 図に示すようにコーナーをペグに配置します。
- ペグにワッシャを配置します。
- ワッシャを通し、ペグに差し込みます。



3. 左右の補強材は、合計 13 本のネジ (M4x10, Torx T20) とワッシャ (Plastic washer) でグリルに固定されています。

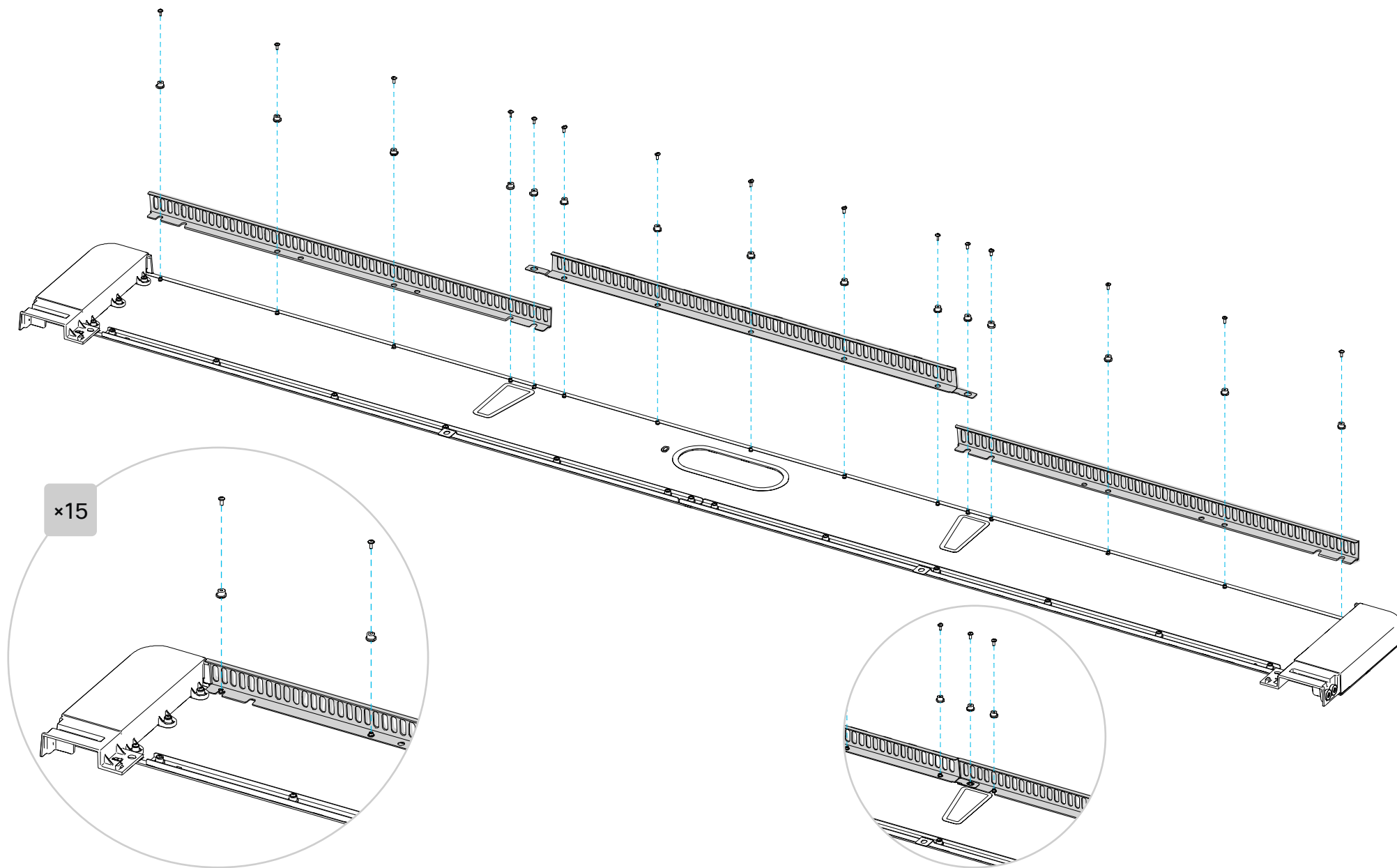
- a. 図に示すように、補強材をペグに配置します。
- b. ペグにワッシャを配置します。
- c. ワッシャを通し、ペグに差し込みます。



4. 上部パネルは、合計 15 本のネジ (M4x10, Torx T20) とワッシャ (Plastic washer) でグリルに固定されています。

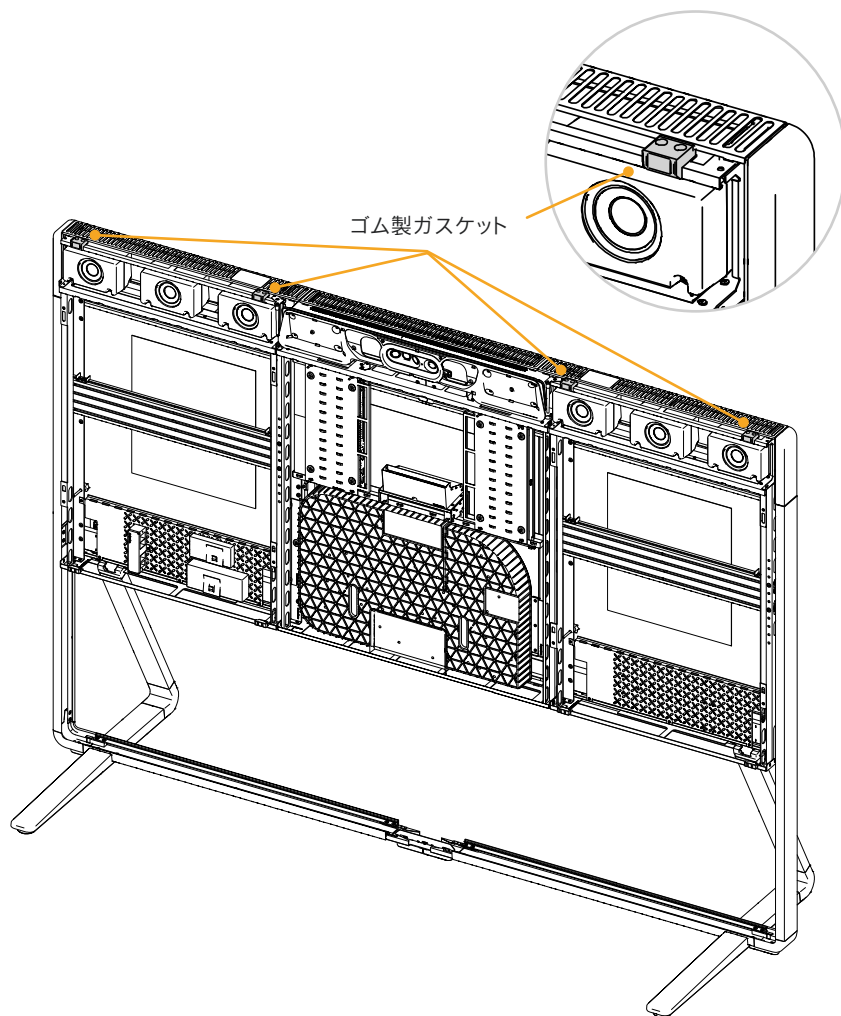
- まず、図に示すように、左右のパネルをベグに配置します。次に、中央パネルを上に乗せます。
- ベグにワッシャを配置します。
- ワッシャを通し、ベグに差し込みます。

15 倍  15 倍 

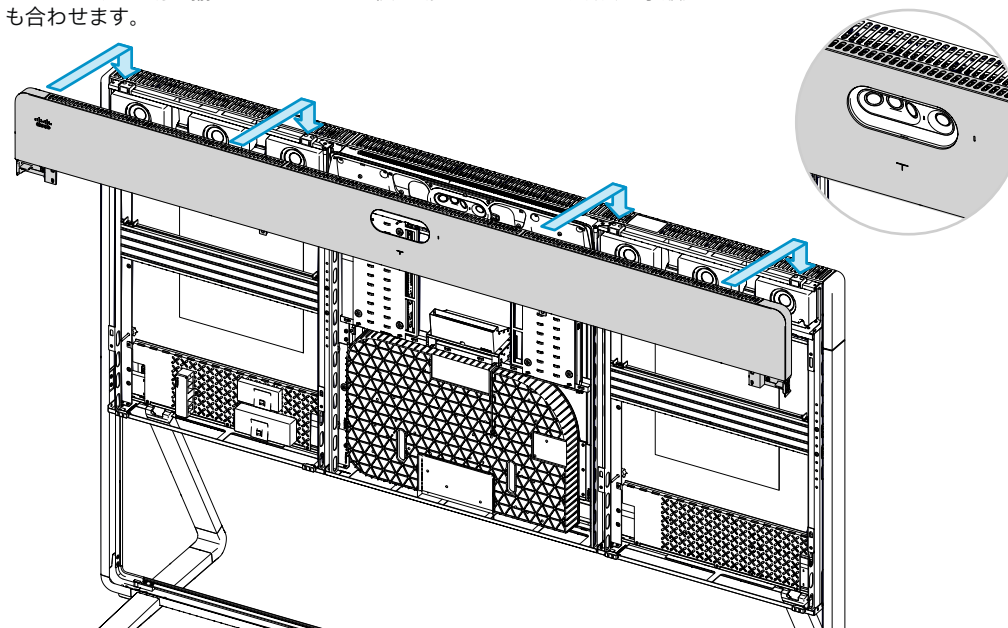


20.2. スピーカーグリルを取り付ける

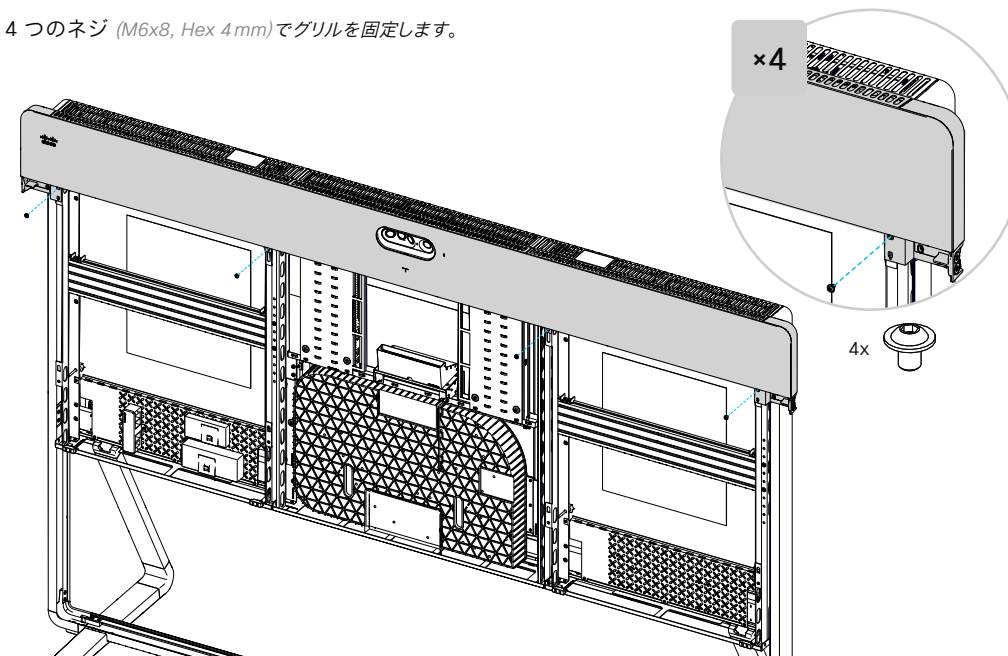
1. グリルを載せるゴム製のガスケットを確認します。



2. スピーカーグリルを骨組みに掛け、ゴム製ガスケットの上に置きます。
カメラの穴が適切に揃うように、カメラを横に動かします。ネジ穴(次の手順)も合わせます。

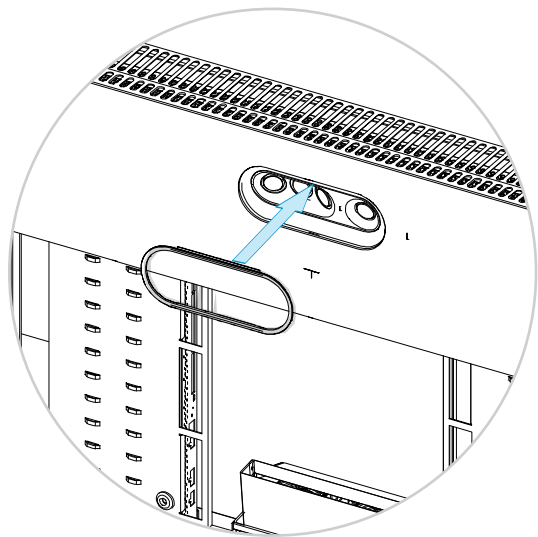


3. 4つのネジ (M6x8, Hex 4mm) でグリルを固定します。



20.3. デコリングを挿入する

カメラの周りにデコリングを配置します。リングは、グリルとカメラの間の的確な遷移を示します。



21. 下部グリルを取り付ける

スピーカーグリル(手順 20 で組み立て)と下部グリル(この手順で組み立て)は、どちらも複数の部品で構成されています。コーナーと補強材は両方のグリルで同じです。上部/下部パネルは異なります。

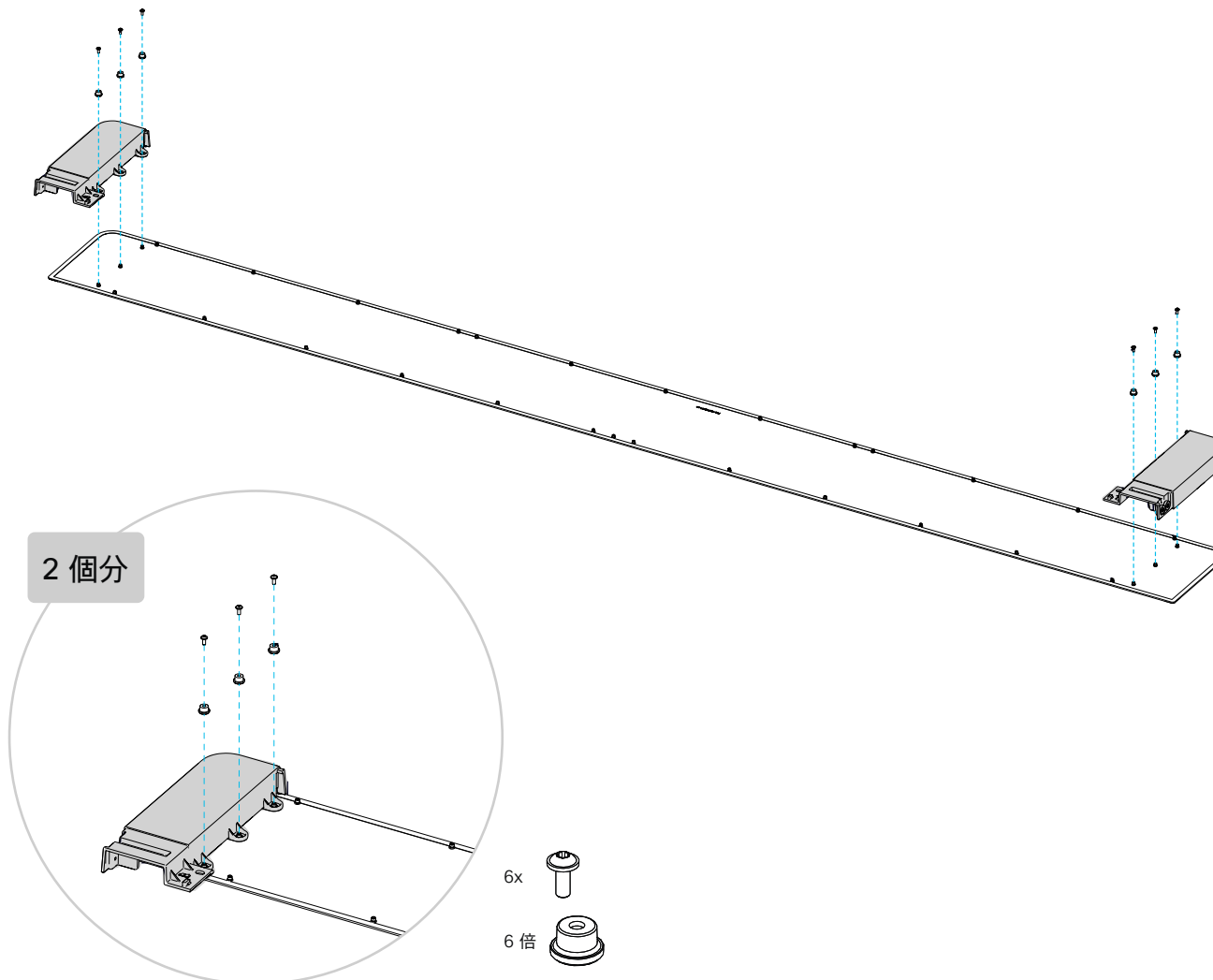
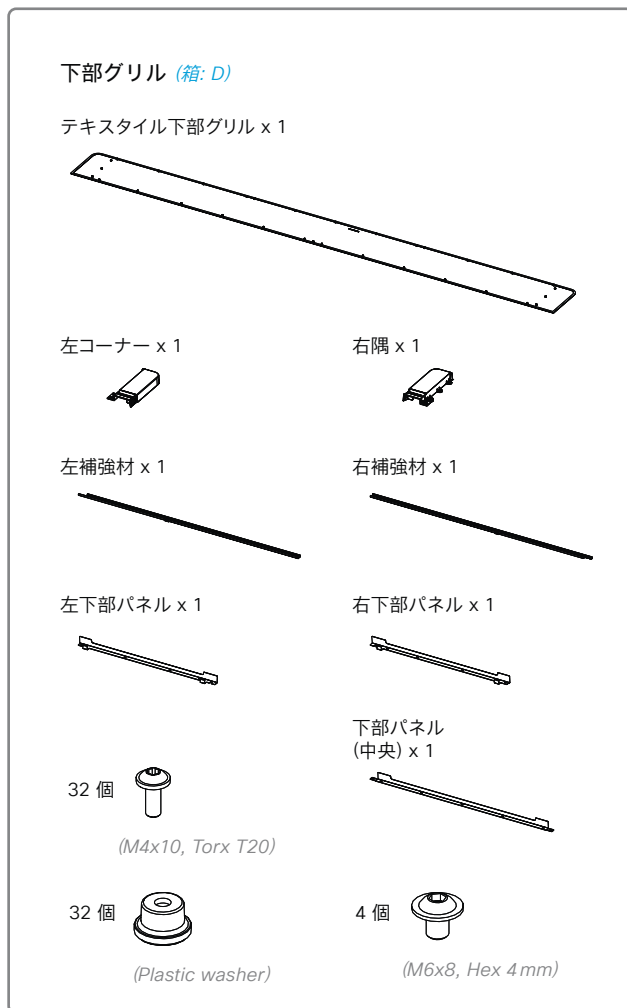
21.1. 下部グリルを組み立てる

1. 前面を下にして、テキスタイルの底面グリルを平らで清潔な場所に置きます。

2. グリルのペグには、ネジ用のネジ穴があります。

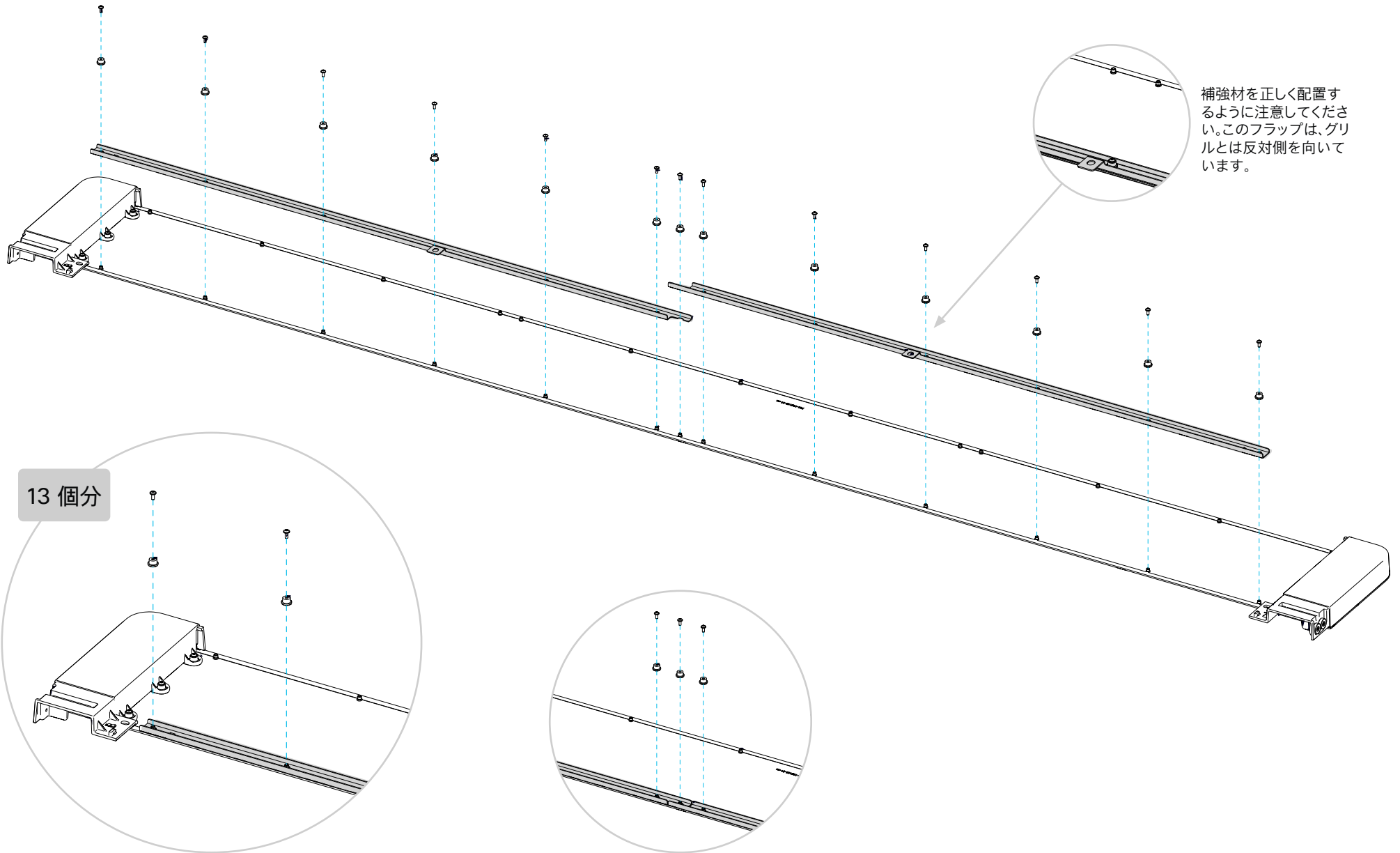
左右のコーナーは、各コーナーの 3 本のネジ (M4x10, Torx T20) とワッシャー (Plastic washer) を使用してグリルの背面に固定されています。

- 図に示すようにコーナーをペグに配置します。
- ペグにワッシャーを配置します。
- ワッシャーを通し、ペグに差し込みます。




3. 左右の補強材は、合計 13 本のネジ(M4x10, Torx T20)とワッシャ (Plastic washer) でグリルに固定されています。

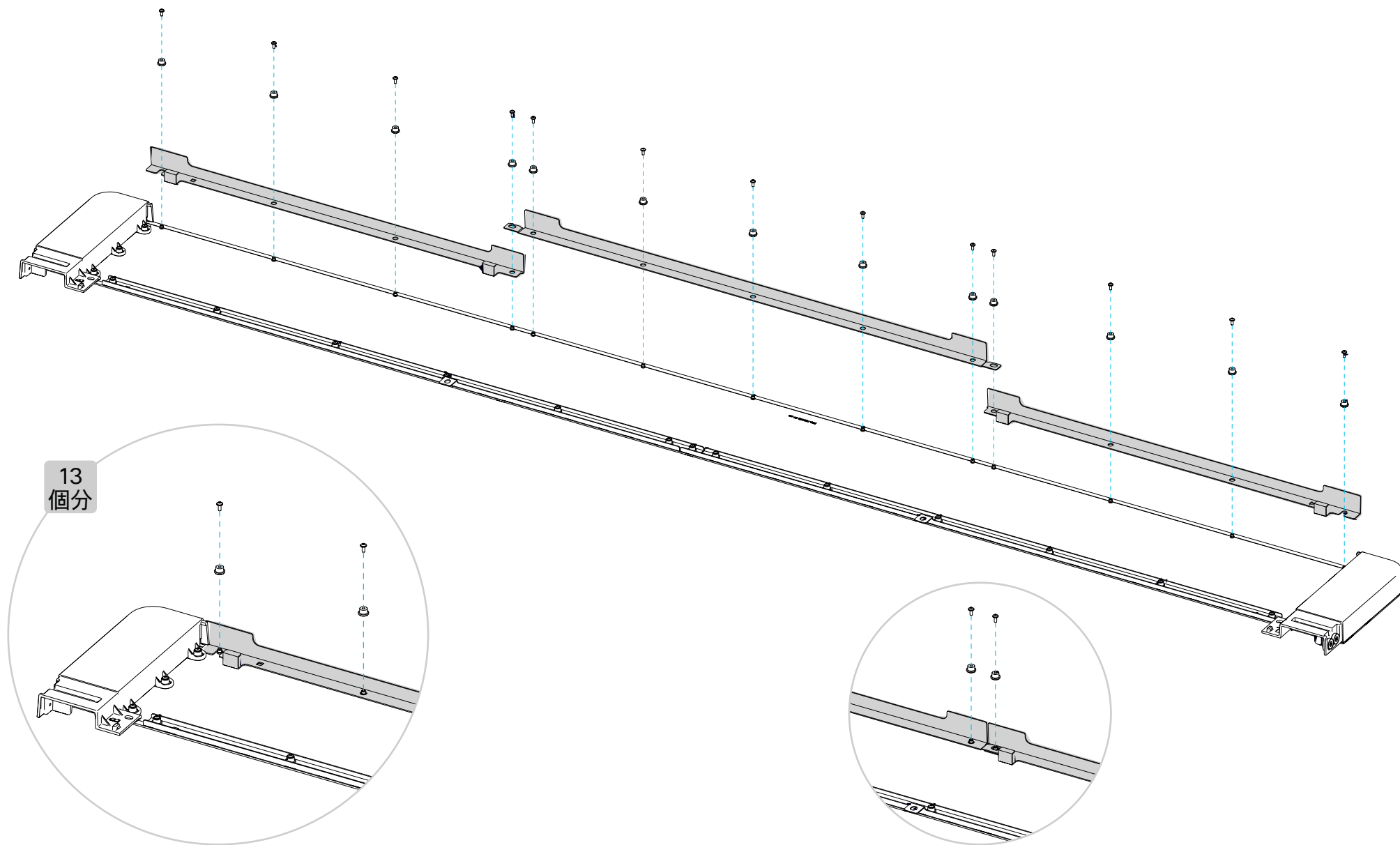
- 図に示すように、補強材をペグに配置します。
- ペグにワッシャを配置します。
- ワッシャを通し、ペグに差し込みます。



4. 下部パネルは、合計 13 本のネジ (M4x10, Torx T20) とワッシャ (Plastic washer) でグリルに固定されています。

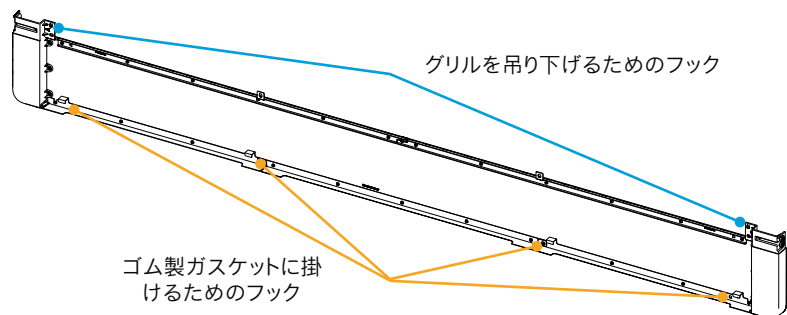
- まず、図に示すように、左右のパネルをペグに配置します。次に、中央パネルを上に乗せます。
- ペグにワッシャを配置します。
- ワッシャを通し、ペグに差し込みます。

13 倍  13 倍 

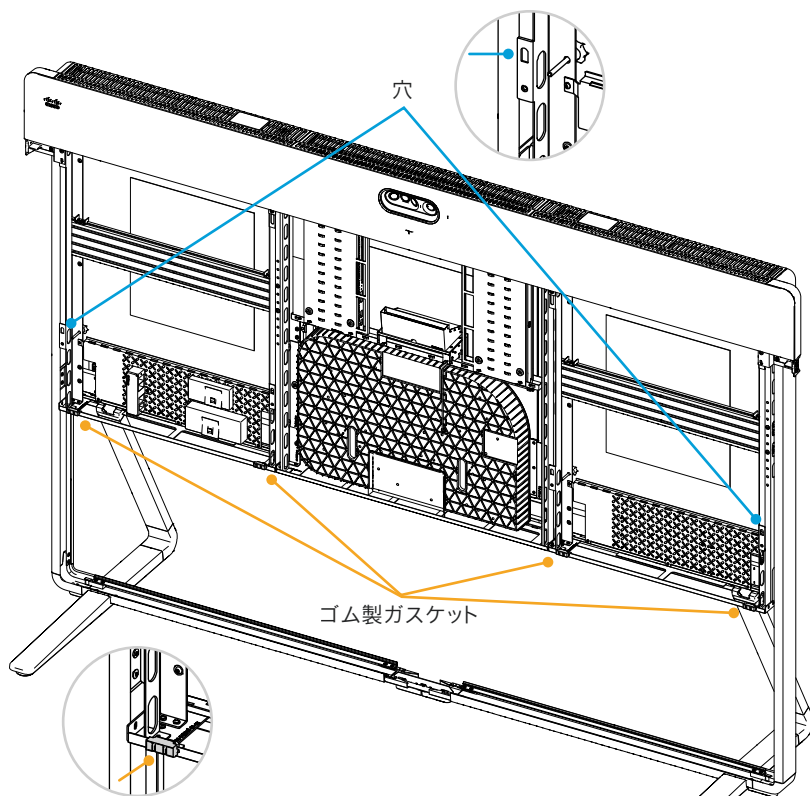


21.2. 下部グリルを取り付ける

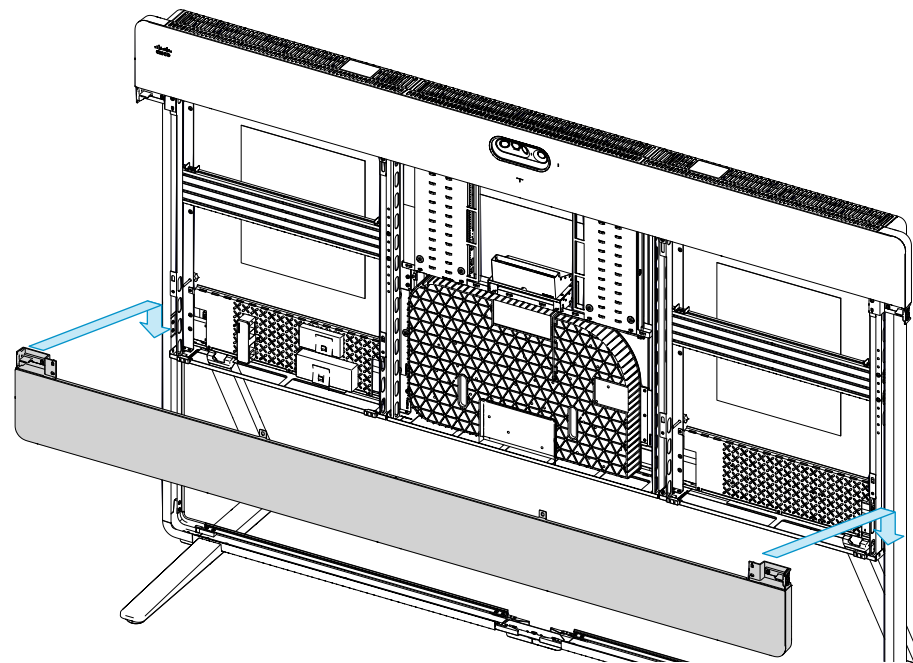
1. グリルの背面側にある次のフックを確認します。



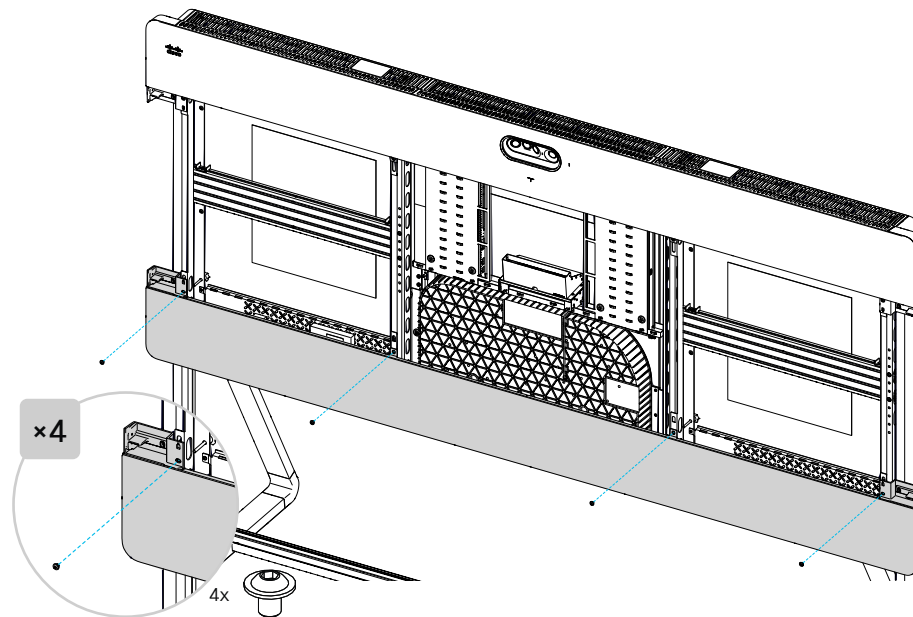
2. グリルを掛ける穴と、その上にあるゴム製ガスケットを確認します。



3. 下部グリルを穴に掛け、ゴム製ガスケットの上に置きます。

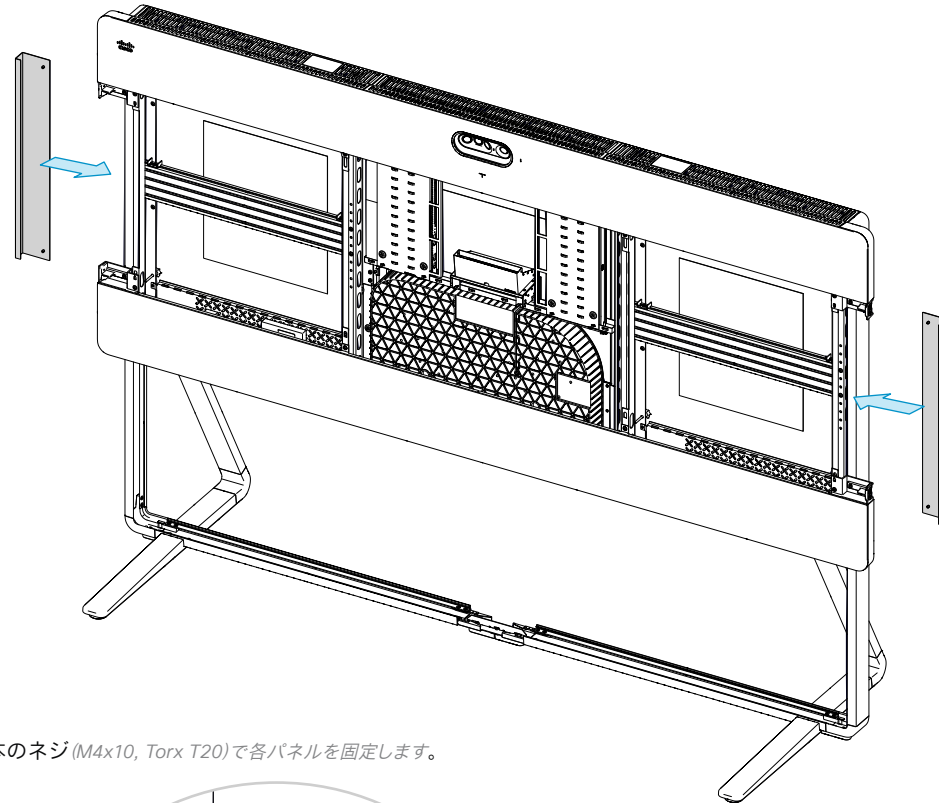


4. 4つのネジ (M6x8, Hex 4mm) でグリルを固定します。



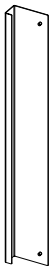
22. サイドパネルを取り付ける

1. 図に示すように、サイドパネルを挿入します。上下の隙間が等しくなるように位置を合わせます。



サイドパネル (箱: D)

サイドパネル x 2

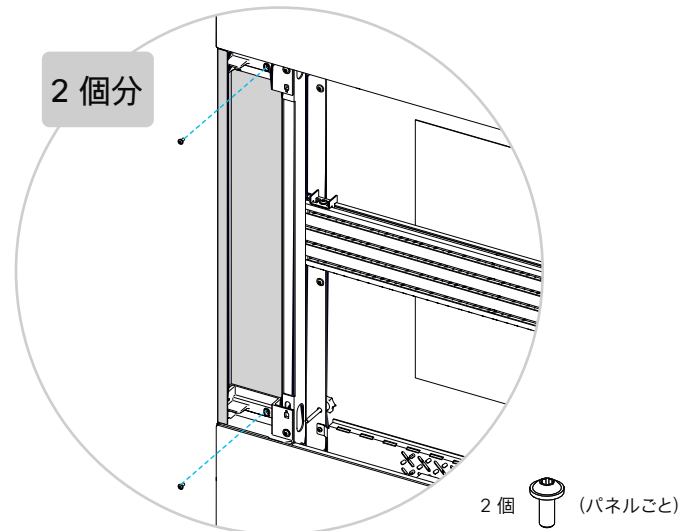


4 個



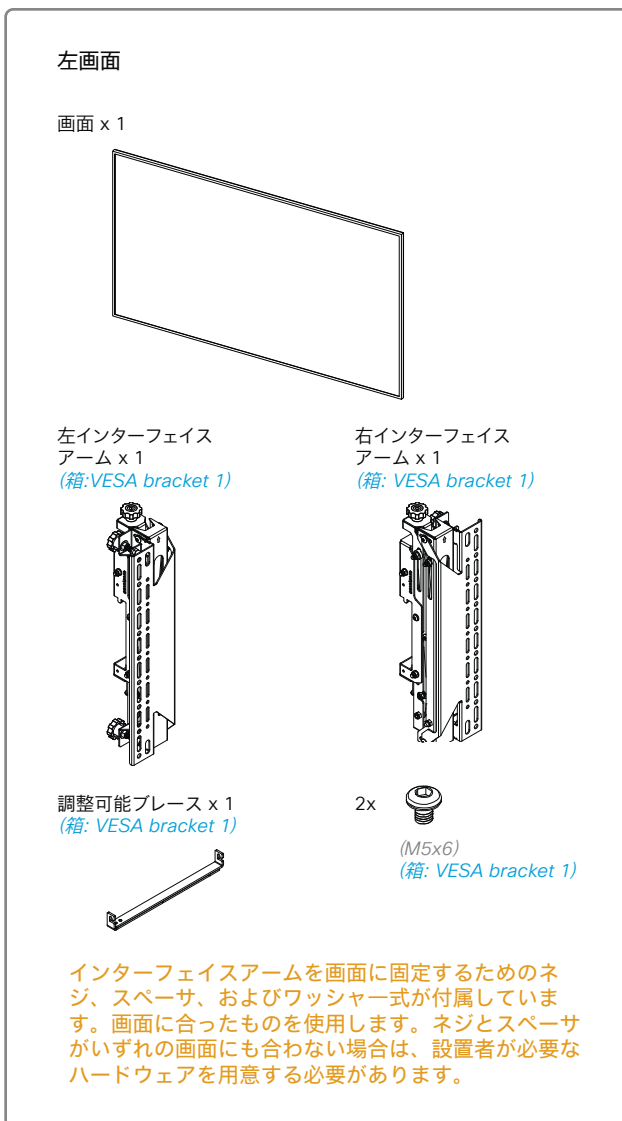
(M4x10, Torx T20)

2. 2 本のネジ (M4x10, Torx T20) で各パネルを固定します。



23. 左画面を準備する

画面の背面にある VESA 規格の穴にブラケットを取り付けます。ここに記載されている以外の詳細については、ブラケットの後ろにある設置ガイドを参照してください。



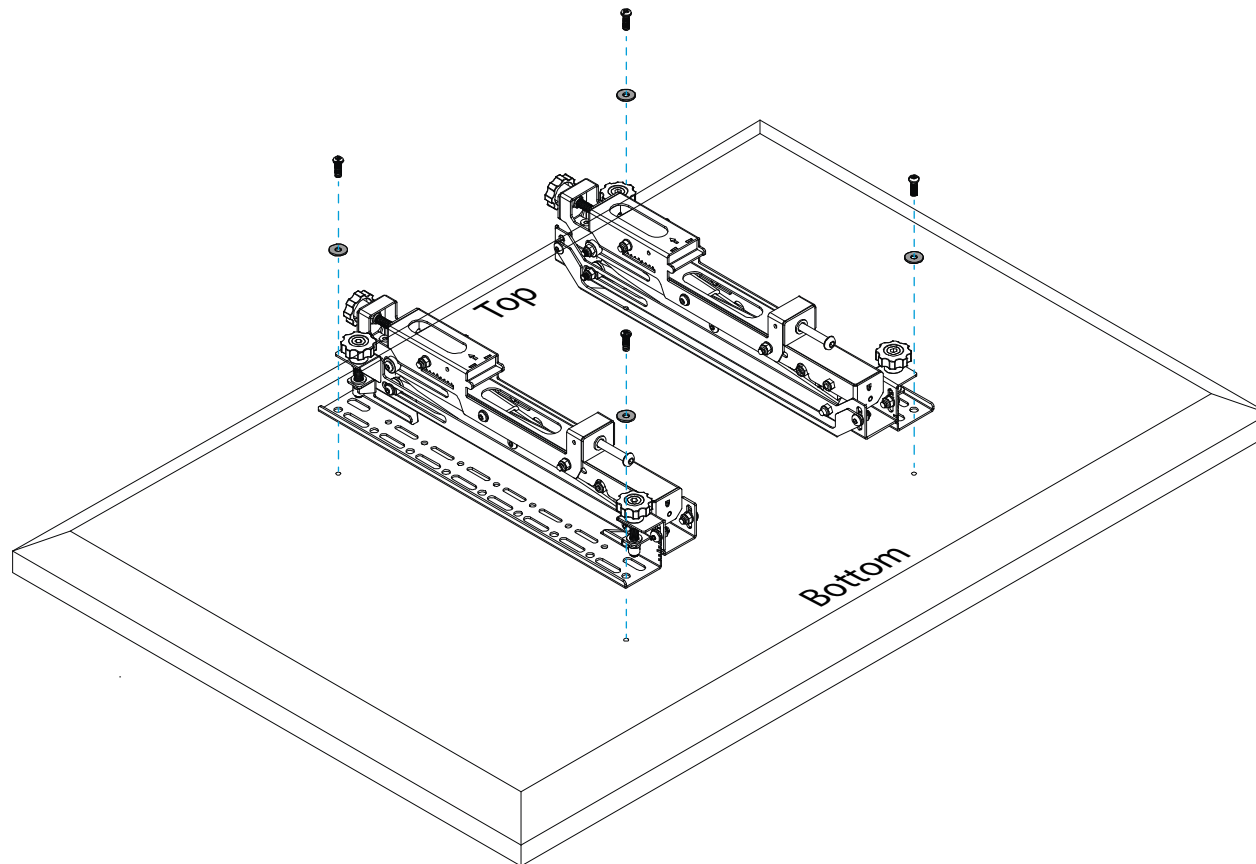
23.1. 画面の背面にインターフェイスアームを取り付ける

インターフェイスアームを画面の背面に取り付けます。穴の列を画面の端に向けます。両方のアームで同じ穴が使用されていることを確認します。

インターフェイスアームにはインターフェイスキット(ネジとスペーサのセット)が付属しています。画面に合ったものを使用してください。ネジとスペーサがいずれも画面にも合わない場合は、自分で用意する必要があります。

注: 画面ベンダーからの、画面の取り扱い方法についてのガイドラインに従ってください。

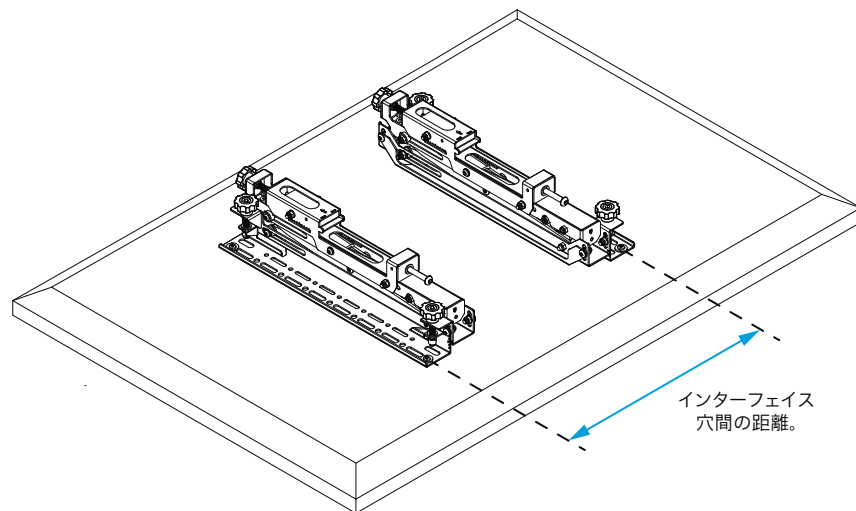
画面はパッケージの下部トレイに置いたままにします。または、平坦で均一な柔らかい面に、背面を上にして置きます。画面に傷が付かないよう注意してください。



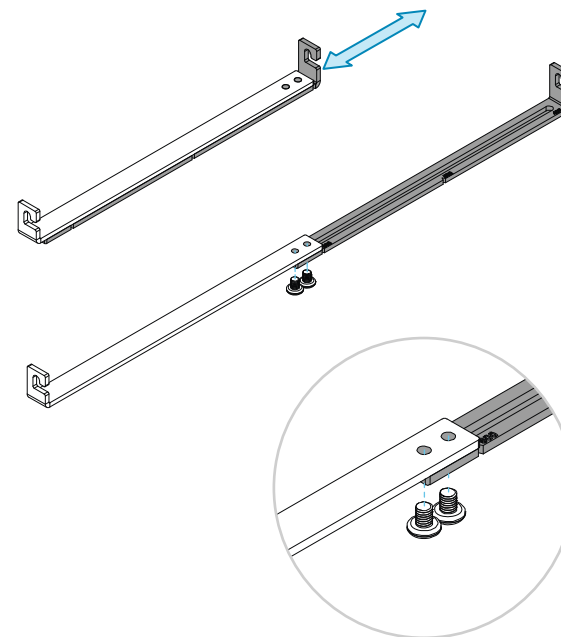
23.2. 調整可能ブレースでインターフェイスアームを接続する

1. 画面のインターフェイス穴間の水平距離を測定します。

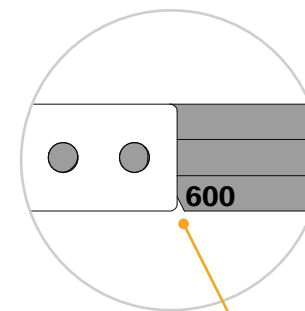
調整可能ブレースは、400 mm ~ 600 mm の範囲の距離に対応しています。



2. ブレースを延ばし、2本のネジを締めて必要な長さに固定します。



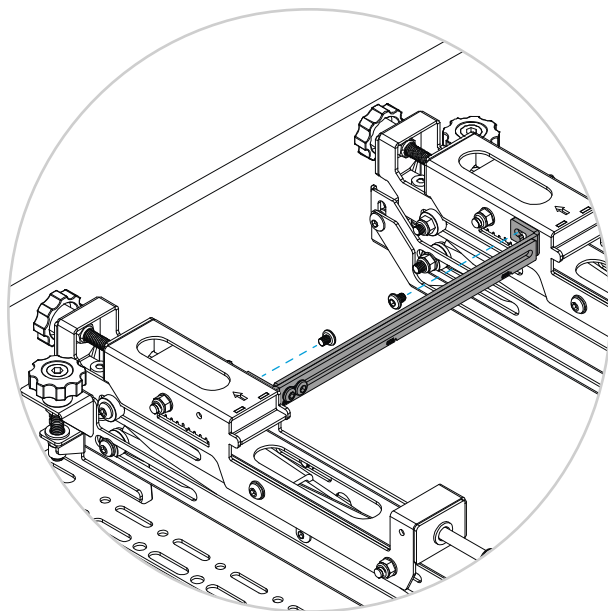
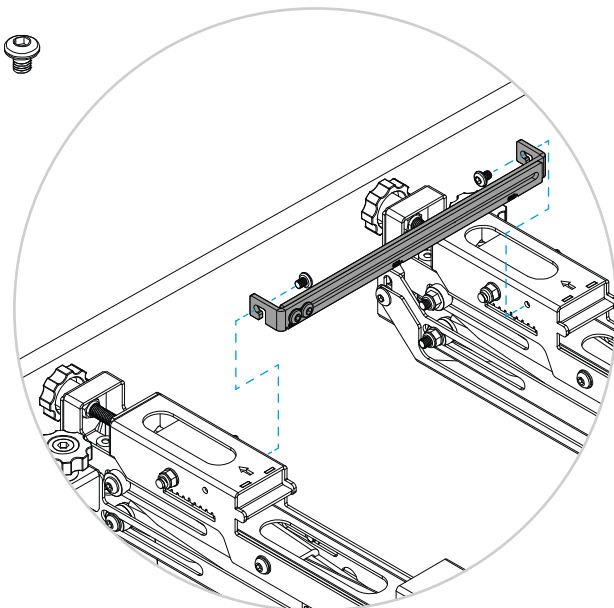
ノッチは、400 mm、500 mm、および 600 mm の距離の固定位置を示します。



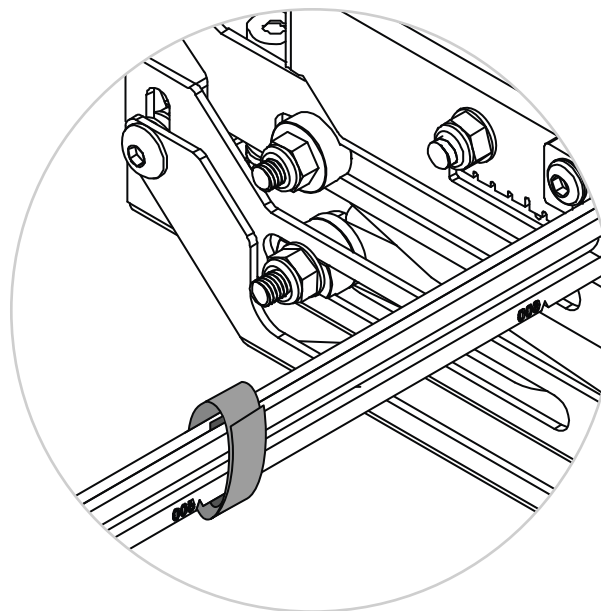
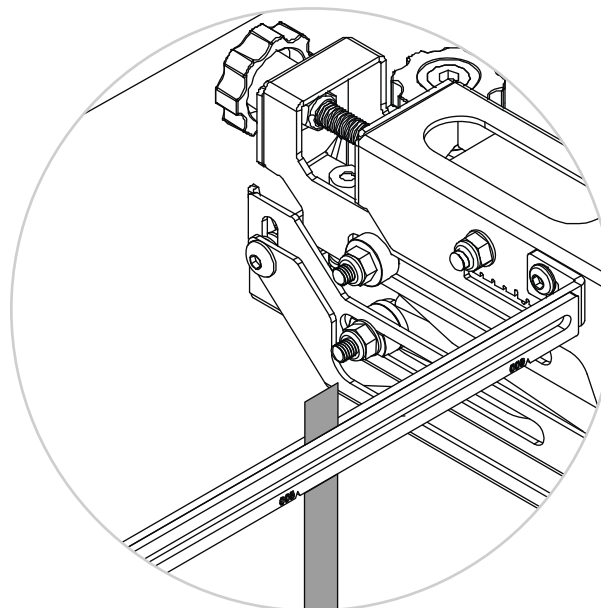
例: インターフェイスの穴が 600 mm 離れている場合は、600 とマークされたノッチまでブレースを延ばします。

3. インターフェイスアームの間にプレースを配置し、2本のネジ (M5x6)で固定します。

[2x]



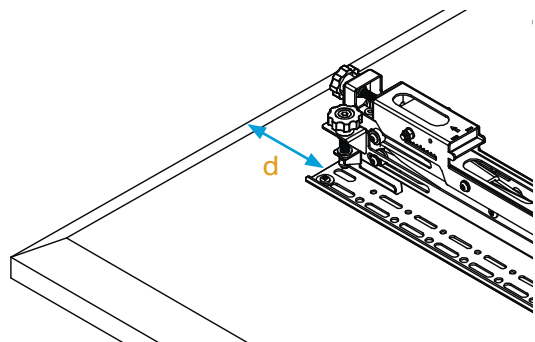
4. プレースが完全に伸びていない場合は、金属が金属に触れないように、2つのプレース部分の間および周囲にマジックテープを締めます。これにより、ガタガタというノイズが防止されます。



24. VESA レールの位置を調整する

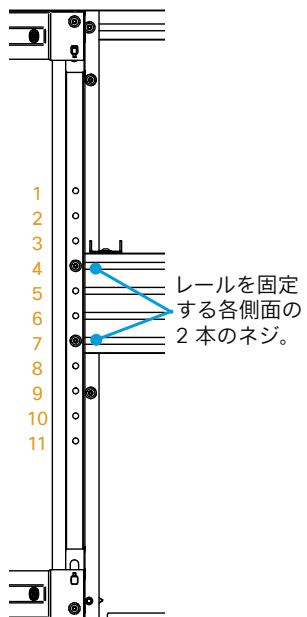
24.1. VESA レールの正しい位置を見つける

1. インターフェイスアームと画面上部の間の距離 d を測定します。



2. テーブルをチェックして、どの穴にVESALレールを移動するかを確認します。

距離 d	これらの穴に VESA レールを 固定
105-135mm (4.1-5.3 インチ)	1 および 4
135-165mm (5.3-6.5 インチ)	2 と 5
165-195mm (6.5-7.7 インチ)	3 と 6
195-225mm (7.7-8.9 インチ)	4 および 7
225-255mm (8.9-10.0 インチ)	5 と 8
255-285mm (10.0-11.2 インチ)	6 と 9
285-315mm (11.2-12.4 インチ)	7 と 10
315-345mm (12.4-13.6 インチ)	8 と 11



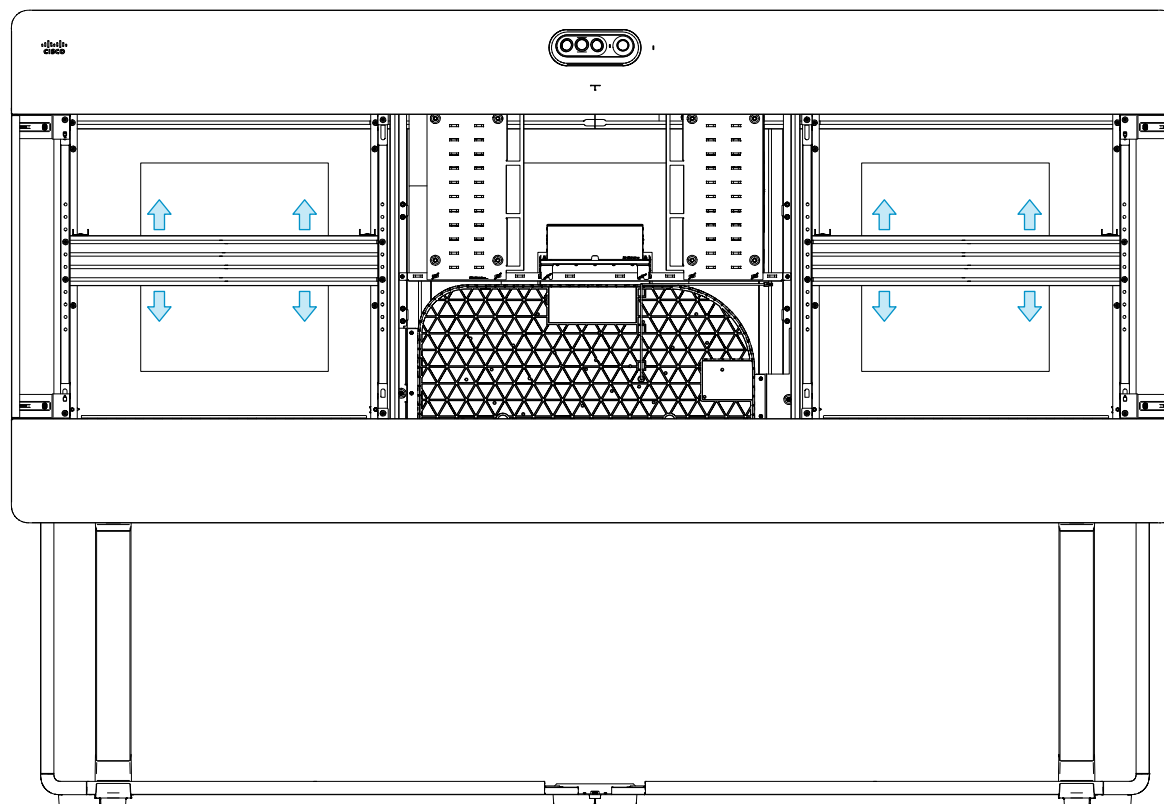
例 :

$d = 215$ mm(8.5 インチ) の場合、レールを穴 4 と 7 に固定する必要があります。

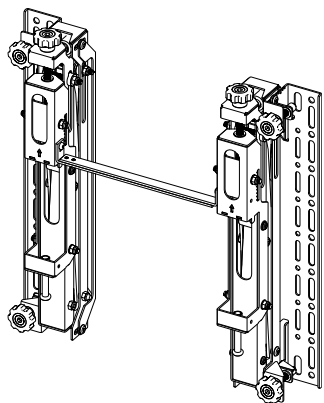
24.2. VESA レールの位置を調整する

両方のVESAレールについて、を繰り返します。

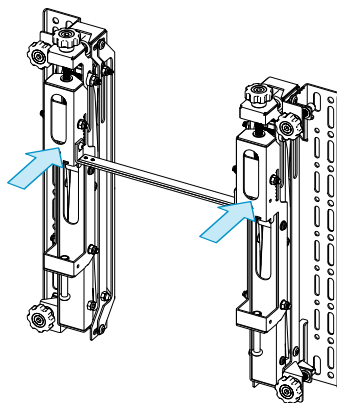
1. VESA レールを保持しながら、レールを固定している 4 本のネジを外します。
2. レールをロックアップテーブルの所定の位置に移動します。
3. ネジを再度挿入し、レールを新しい位置にしっかりと固定します。



画面のポップイン / ポップアウト機構



ポップインモードのインターフェイスアーム

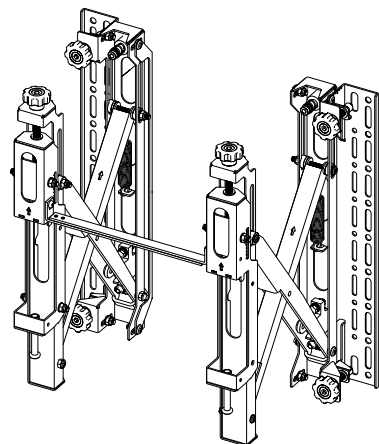


押してポップアウト

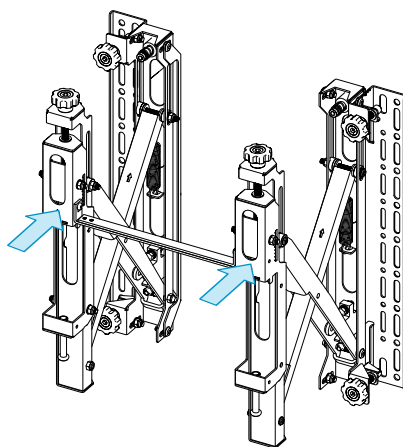
インターフェイスアームはすぐに飛び出すので、指に注意してください。

画面をインターフェイスアームに掛けたら、インターフェイスアームが取り付けられている水平位置で画面の端をゆっくりと押します。

これにより、インターフェイスアームのロックが解除され、画面が飛び出します。



ポップアウトモードのインターフェイスアーム



押してポップイン

画面をインターフェイスアームに掛けたら、インターフェイスアームが取り付けられている水平位置で画面の端をゆっくりと押します。

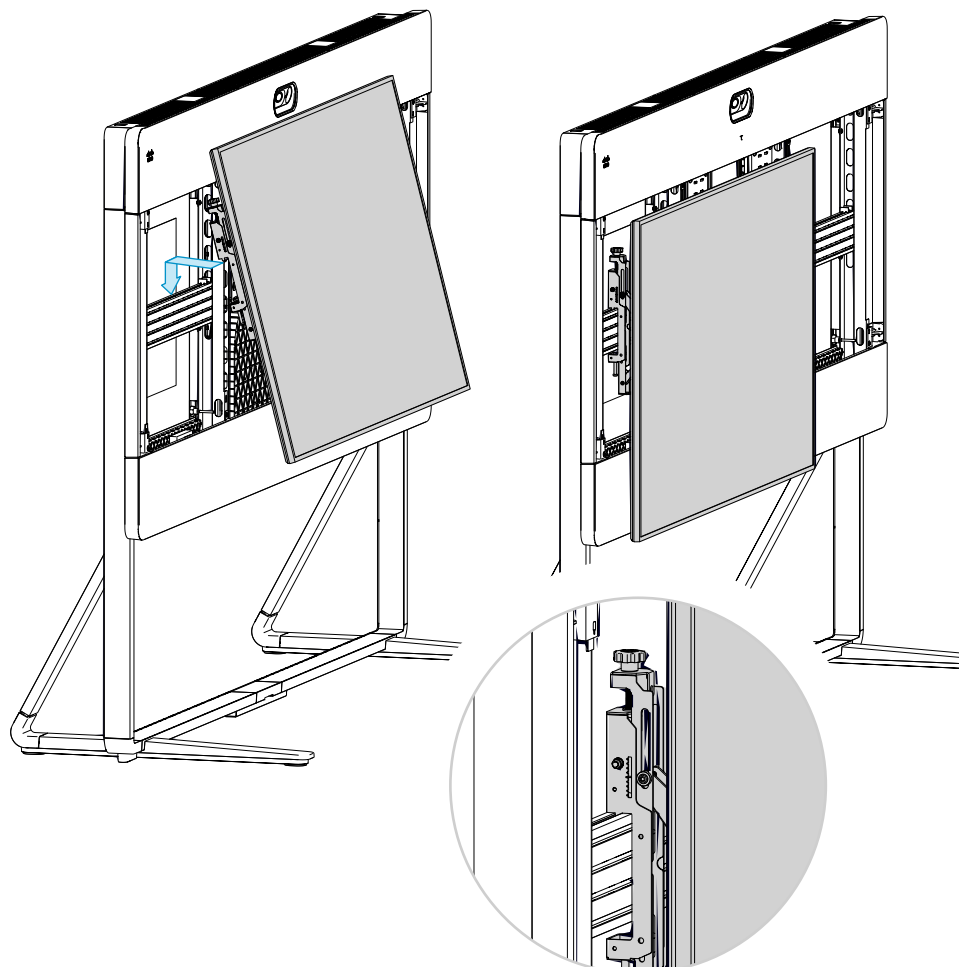
これにより、インターフェイスアームがポップインモードでロックされます。

ロックされない場合は、完全に押し込むことができないことが原因である可能性があります。奥行調整ホイールを使用(手順 27.2 を参照)して、画面と取り付け構造の間にスペースを確保します。その後、もう一度やり直してください。

25. 左画面を取り付ける

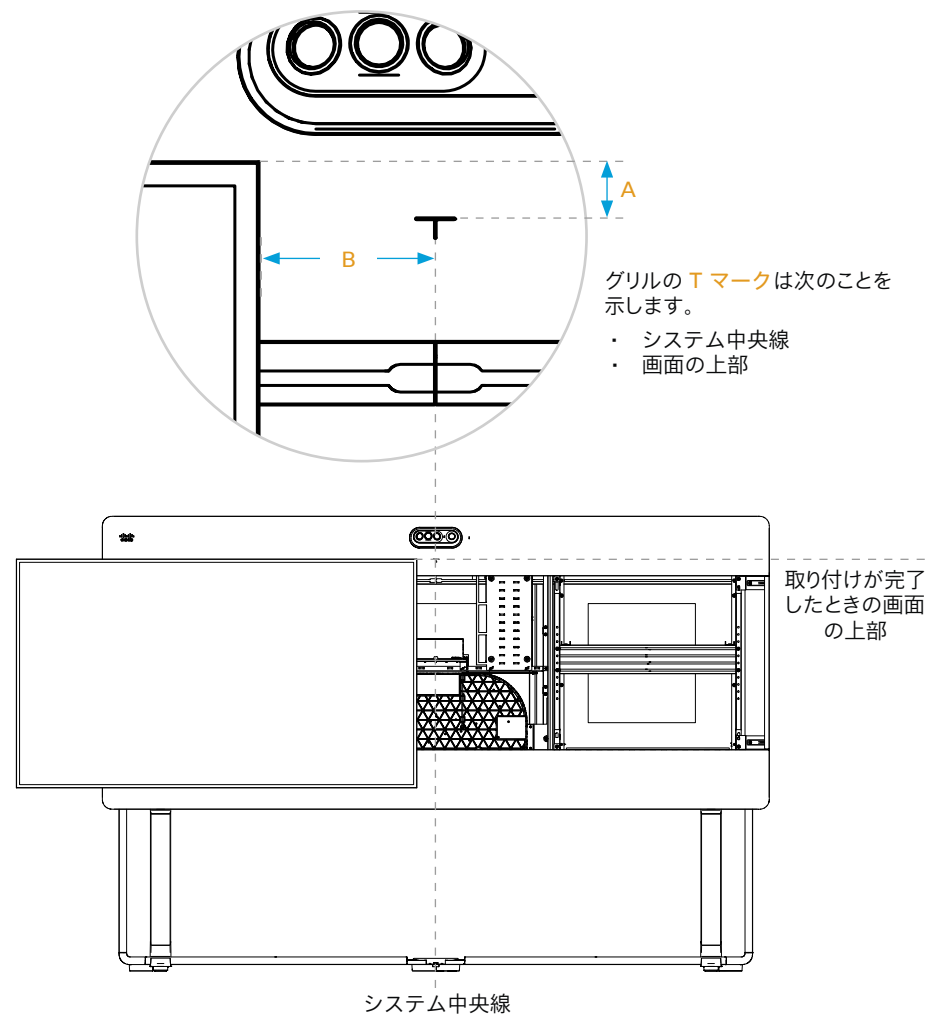
25.1. VESA レールに画面を掛ける

1. 両方のインターフェイスアームをしっかりと押して、ポップアウトモードにします。すぐに飛び出すので、指に注意してください。
2. システムの中心線の側面から 50-70mm (2-3インチ) の距離で画面をレールに掛けます。拡大図に示すように、インターフェイスアームが溝にかかっていることを確認します。



インターフェイスアームは、レール上部の溝に引っ掛けます。

3. 画面がポップアップしたままになるように、画面をゆっくり押します。
ポップインモードでロックされない場合は、下部の奥行調整ホイールを使用(手順 27.2 を参照)して、画面と取り付け構造の間のスペースを広くします。その後、もう一度やり直してください。
4. VESA レールが正しい位置にある場合(手順 24)、距離 A は 15 mm (0.59 インチ)未満(T マークの上または下)になるはずですが、そうでない場合は、画面を持ち上げ、レールを上または下に移動する必要があります。そうしないと、手順 27 で T マークに合わせて画面の高さを調整できません。
5. 距離 B を正確に測定します。手順 25.2 で必要になります。

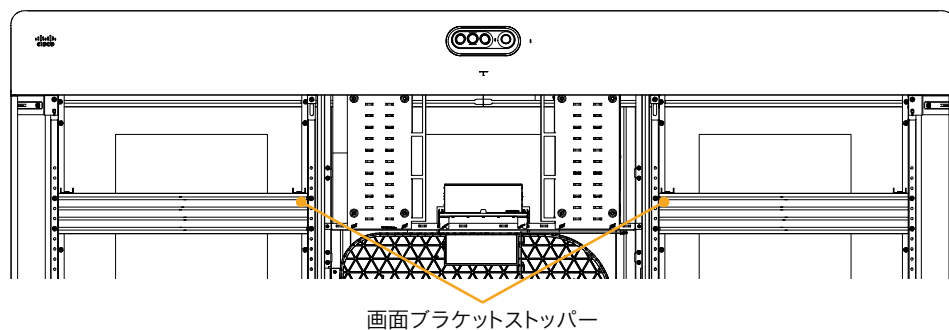


グリルの T マークは次のことを示します。

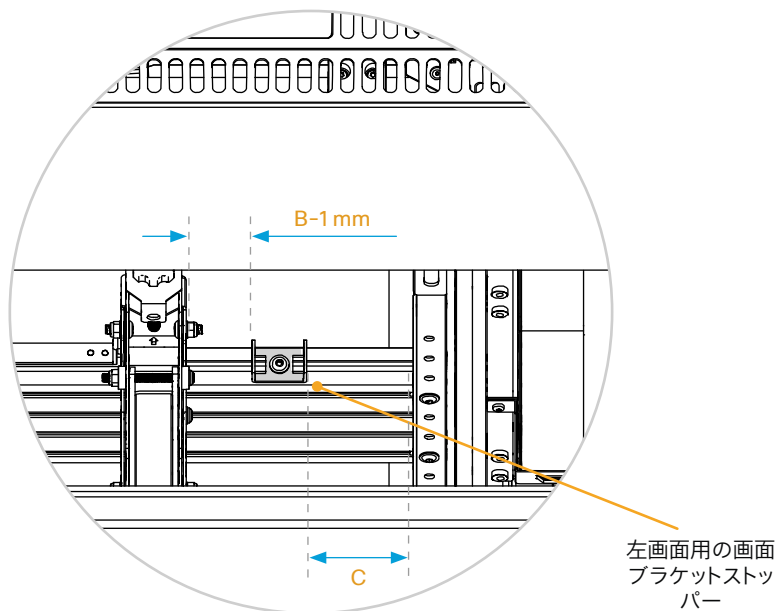
- ・ システム中央線
- ・ 画面の上部

25.2. 画面ブラケットのストッパーを移動する

1. 画面が飛び出すように、画面をゆっくり押します。
2. レールの上部に固定されている画面ブラケットのストッパーを見つけます。

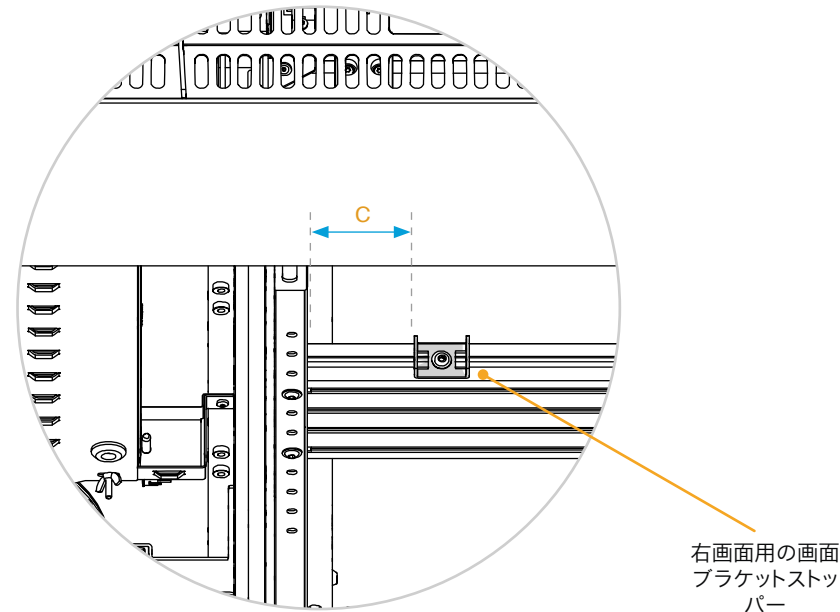


3. 図に示すように、ネジ (Hex 4mm) を緩め、ストッパーをスライドさせます。
つまり、ストッパーと最も近いインターフェイスアームの間の距離は **B-1mm** である必要があります (ここで **B** は手順 25.1 で測定した距離です)。



4. ネジを締めて、ストッパーを新しい位置に固定します。

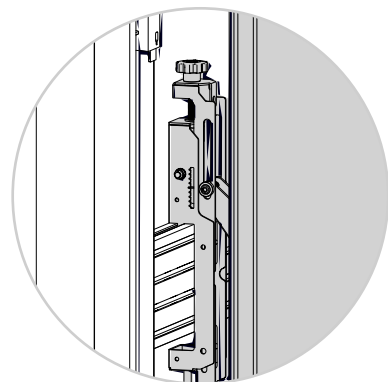
5. 移動したブラケットストッパーの距離 **C** を測定します。次に、右画面のストッパーを、この距離に合わせて移動します。ストッパーが新しい位置に固定したらネジを締めます。



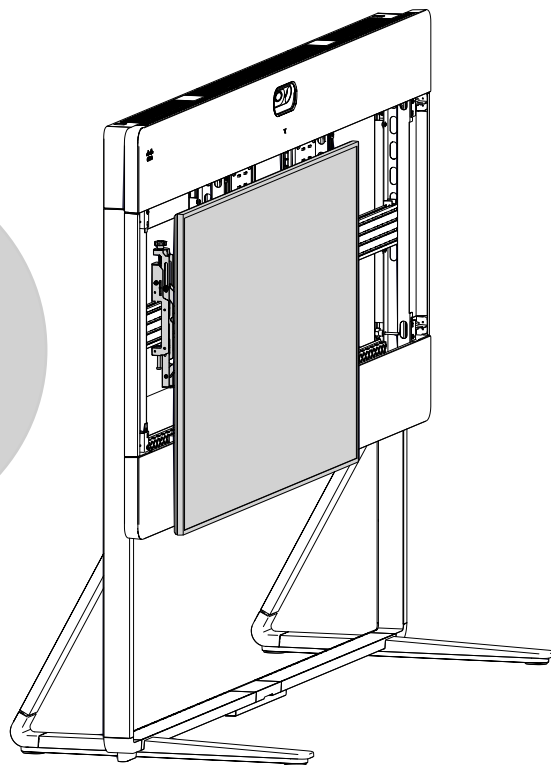
25.3. 画面を正しい位置に移動する

1. 左側の画面をわずかに持ち上げて移動し、その右側インターフェイスアームが、画面ブラケットのストッパーに触れるようにします。

拡大図に示すように、インターフェイスアームが溝にかかっていることを確認します。



インターフェイスアームは、レール上部の溝に引っ掛けます。

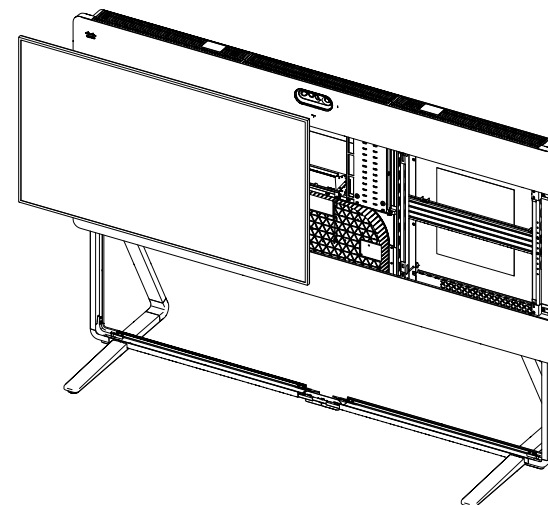
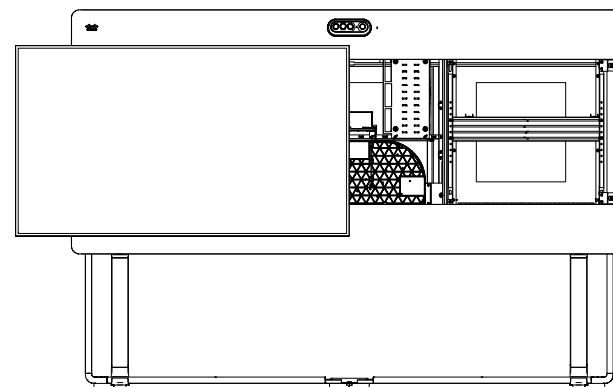


2. 画面がポップアップしたままになるように、画面をゆっくり押します。

ここで、画面の右上隅がグリルの T マークと一致しているかチェックします。

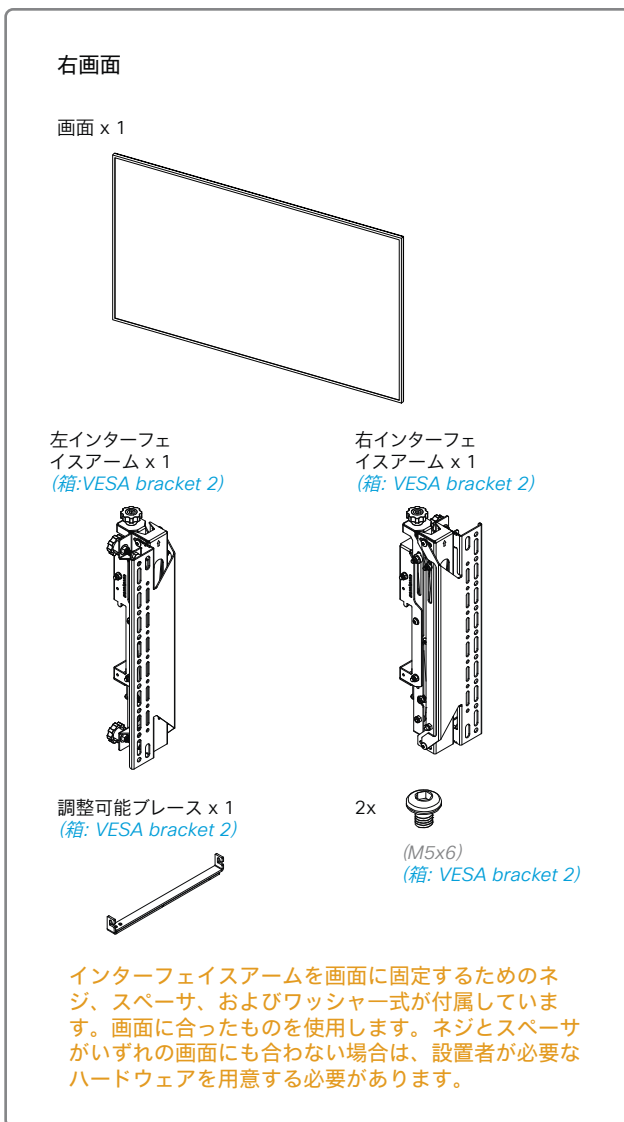
- ・ 水平にずれている場合は、画面ブラケットのストッパーが一致するまで移動します (手順 25.2 を参照)。
- ・ 垂直方向に +/- 20mm(0.79インチ)以上ずれている場合は、手順 24 に戻って VESA レールの位置を調整する必要があります。

手順 27 で、両方の画面の高さと奥行を微調整します。



26. 右画面を取り付ける

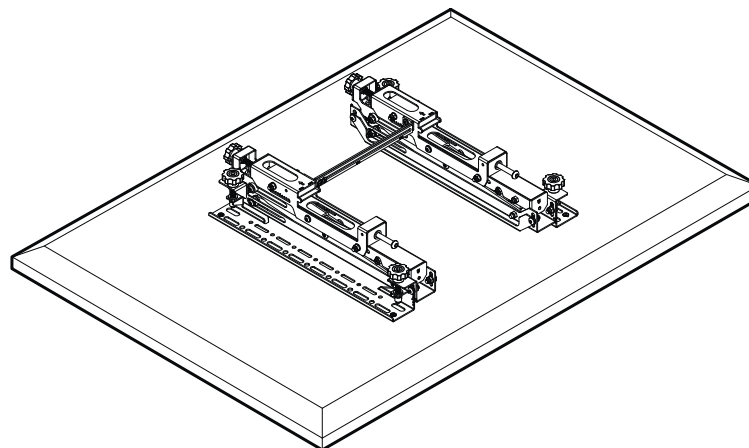
画面の背面にある VESA 規格の穴にブラケットを取り付けます。ここに記載されている以外の詳細については、ブラケットの後ろにある設置ガイドを参照してください。



26.1. インターフェイスアームを取り付ける

右画面に、次の手順を繰り返します。

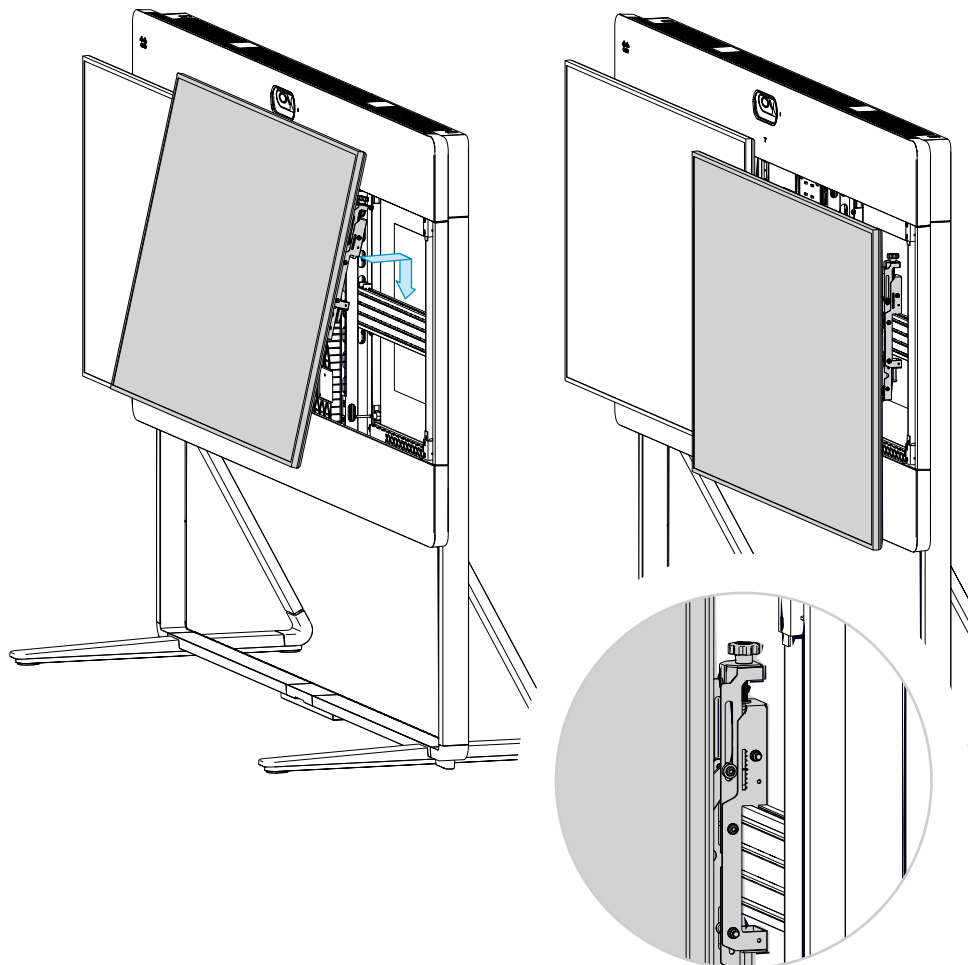
- 手順 23.1 - 「画面の背面にインターフェイスアームを取り付ける」
- 手順 23.2 - 「調整可能ブレースでインターフェイスアームを接続する」



26.2. VESA レールに右側の画面を掛ける

1. 両方のインターフェイスアームをしっかりと押して、ポップアウトモードにします。
すぐに飛び出すので、指に注意してください。
2. 右側の画面を VESA レールに掛けて、左側のインターフェイスアームが画面ブラケットのストッパーに触れるようにします。

拡大図に示すように、インターフェイスアームが溝にかかっていることを確認します。



インターフェイスアームは、レール上部の溝に引っ掛けます。

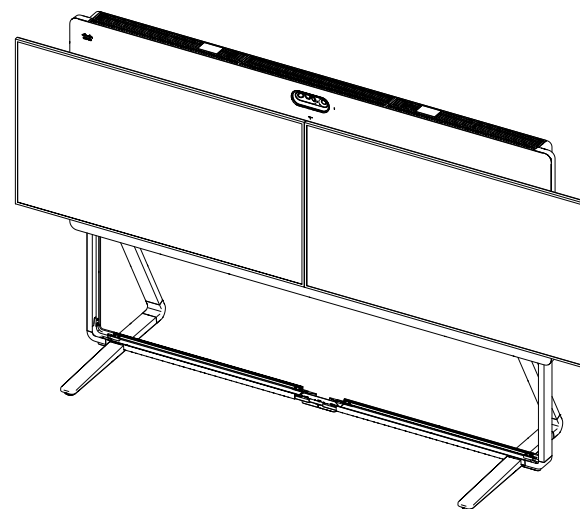
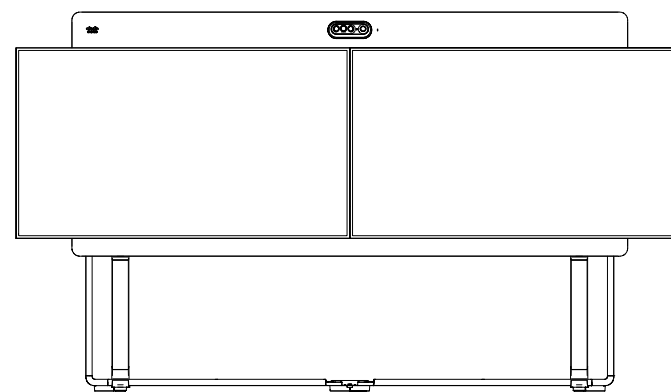
3. 画面がポップアップしたままになるように、画面をゆっくり押します。

ポップインモードでロックされない場合は、下部の奥行調整ホイールを使用(手順 27.2 を参照)して、画面と取り付け構造の間のスペースを広くします。その後、もう一度やり直してください。

ここで、画面の左上隅がグリルの T マークと一致しているかチェックします。

- ・ 水平にずれている場合は、画面ブラケットのストッパーが一致するまで移動します(手順 25.2 を参照)。
- ・ 垂直方向に +/- 20mm(0.79 インチ)以上ずれている場合は、手順 24 に戻って VESA レールの位置を調整する必要があります。

手順 27 で、両方の画面の高さと奥行を微調整します。



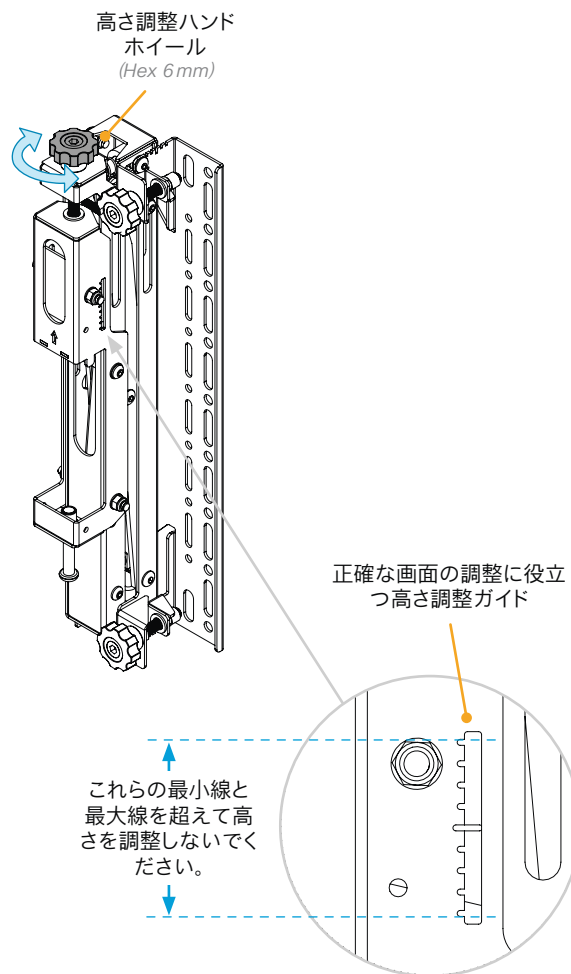
27. 画面を微調整する

インターフェイスアームのハンドホイールを使用すると、画面の高さと奥行を微調整できます。

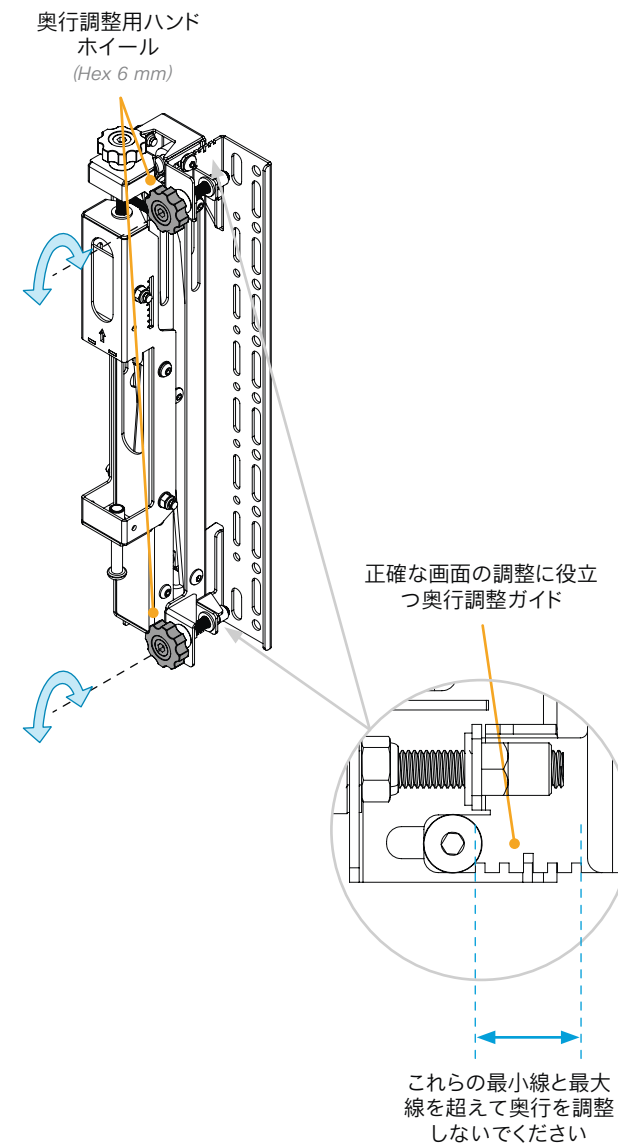
- ・ 高さ調整ハンドルを使用して、画面が水平で同じ高さにあることを確認します。
- ・ 奥行調整用ハンドホイールを使用して、画面のコーナーがグリルから等距離になるように垂直に取り付けます。

インターフェイスアームの詳細については、『設置ガイド』を参照してください。

27.1. 高さ調整 +/- 20mm(0.79in.)

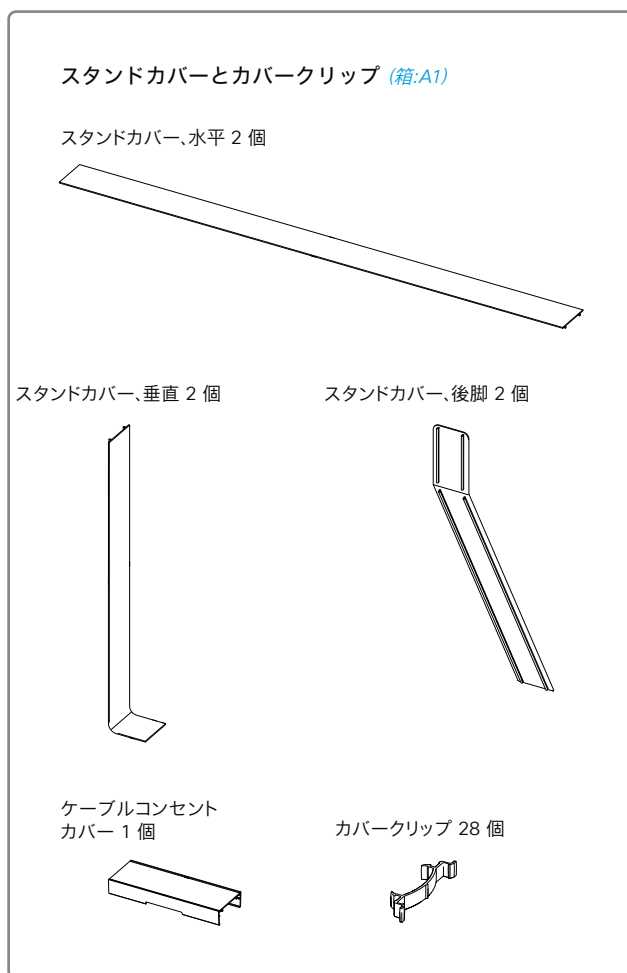


27.2. 奥行調整 +/- 10mm(0.39in.)

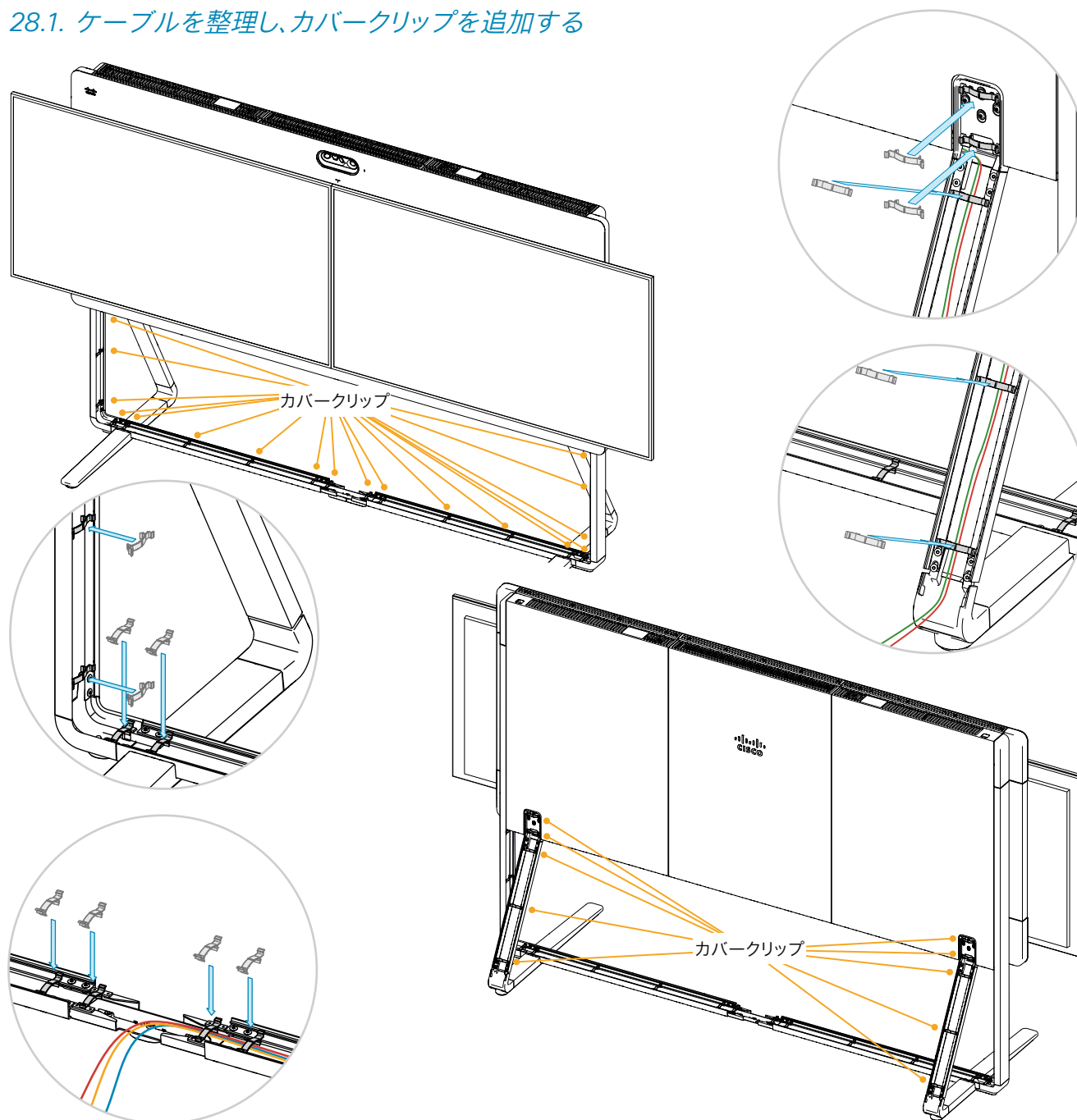


28. スタンドカバーを取り付ける

1. スタンド内に配線するすべてのケーブルが所定の位置にあることを確認します。
2. 28 個のクリップをスタンドに取り付けます。
ケーブルはクリップの下を通っている必要があります。
カバーは手順 28.2 でクリップに留めることになるからです。

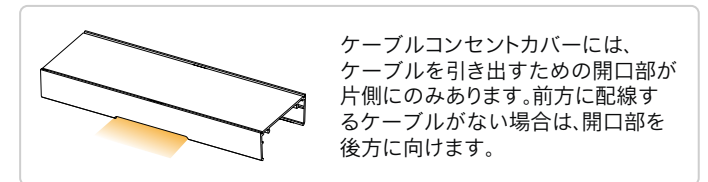
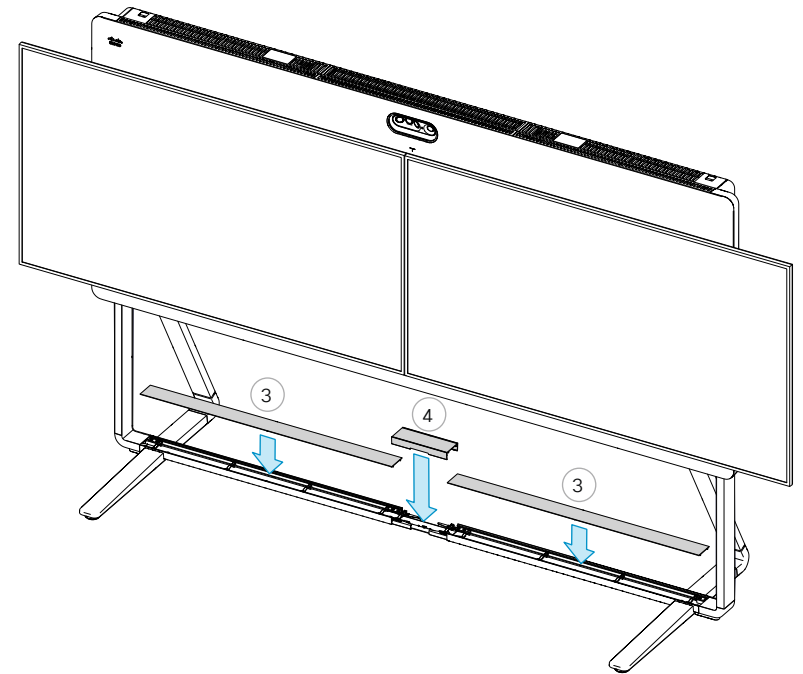
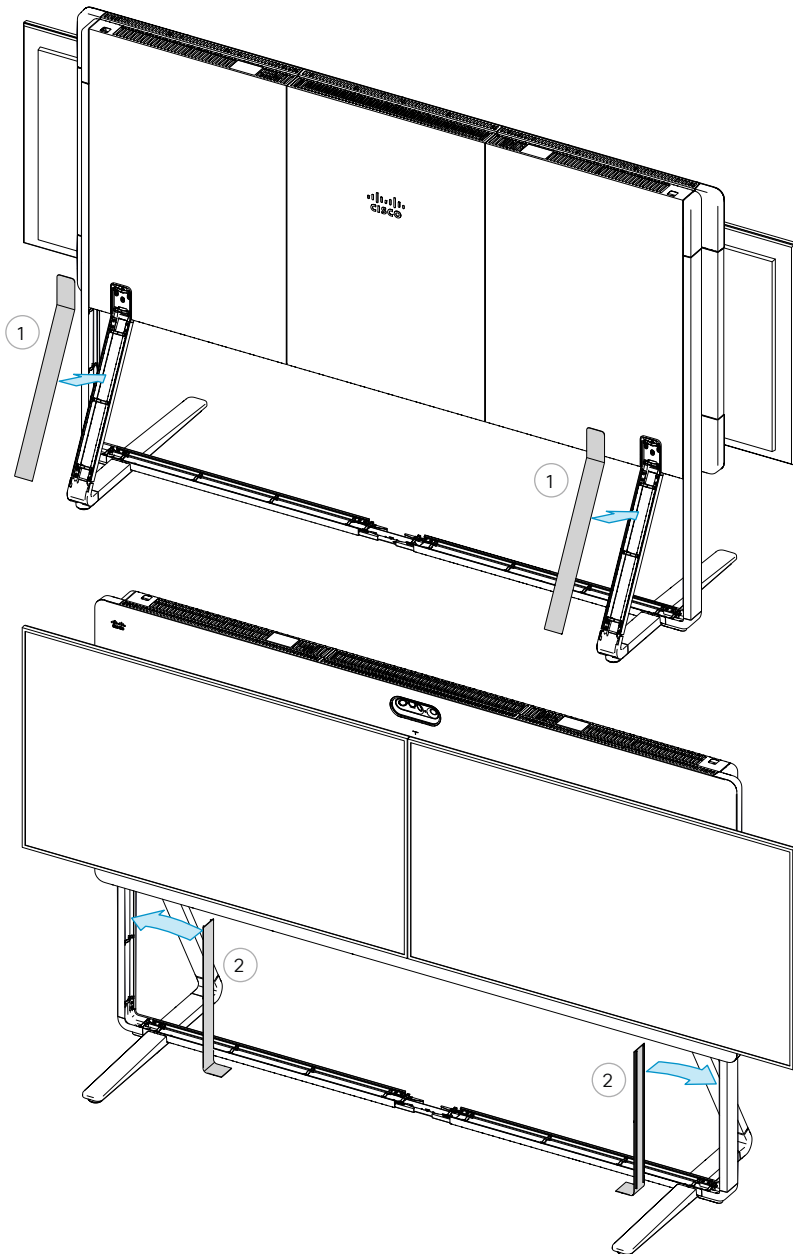


28.1. ケーブルを整理し、カバークリップを追加する

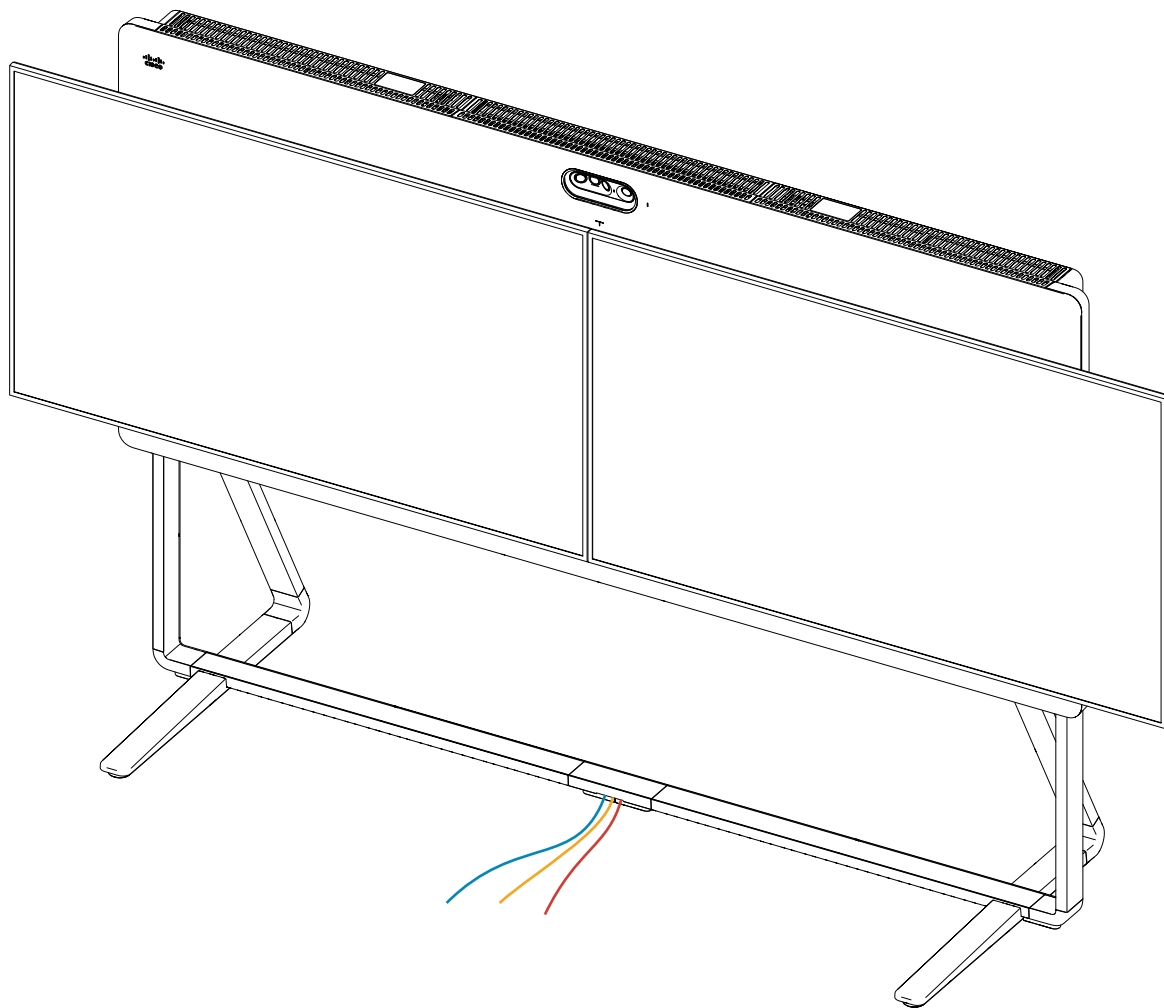


28.2. スタンドカバーを追加する

スタンドカバーは、前の手順で追加したクリップにスナップします。示されている順序でカバーを追加します。



29. 仕上げ



1. 画面から保護フィルムを取り外します。
2. HDMI(S1、S2)および電源(S3、S4)ケーブルを画面に接続します。
3. また、画面の電源ケーブル(S3、S4)を壁面のコンセントに接続します。
4. システムをイーサネット(E1)と電源(E3)のコンセントに接続します。
 - ・ カメラ、コーデック、および 24 V PSU の電源スイッチがオンになっている必要があります。
5. 画面に表示される指示に従ってください。
 - ・ プロンプトが表示されたら、デバイスタイプとして「Room Kit EQX」を選択します。^{*}
間違った製品タイプを選択すると、システムは期待どおりに動作しません。問題を修正するには、デバイスを初期設定にリセットし、セットアップウィザードを再度実行する必要があります。

^{*} または、次のAPIコマンドを実行して、正しいデバイスタイプを設定します(オンラインのデバイスAPI ガイドを参照してください):

xCommand SystemUnit ProductPlatform Set Platform: ROOMKITEQX

知的財産

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスと限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されており、これらは、参考資料によって本書に含まれています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している CEP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリックドメインバージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または暗黙のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワークポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

印刷版と複製ソフトは公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices/) をご覧ください。

Cisco および Cisco ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。シスコの商標の一覧については、www.cisco.com/jp/go/trademarks をご覧ください。Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners。「パートナー」という言葉が使用されていても、シスコと他社の間にパートナー関係が存在することを意味するものではありません。(1110R)。



Cisco Systems Inc.
Corporate Headquarters
170 West Tasman Dr.
San Jose, CA 95134
USA

<https://www.cisco.com>